

平成28年度

大学院生による授業評価結果報告書
(前期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
7	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内 陽一,山崎 勝之,皆川 直凡
8	教職共通科目	30032100	現代教育課題特論	小西 正雄
9	教職共通科目	30032200	現代の諸課題と学校教育	荒木 秀夫
10	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	小倉 正義,葛西 真記子,吉井 健治
11	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村 隆宏,津田 芳見,塩路 晶子,木村 直子,田中 淳一,高原 光恵
12	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井 一暁
13	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井 一暁
14	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内 陽一
15	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎 勝之
16	人間形成	30119000	教育認知心理学研究	皆川 直凡
17	人間形成	30121000	心理教育科学研究	内田 香奈子
18	臨床心理士養成	30421000	精神医学研究	今田 雄三,古川 洋和
19	臨床心理士養成	30422000	精神医学文献演習	今田 雄三,小倉 正義
20	臨床心理士養成	30424000	臨床心理学研究Ⅰ	吉井 健治,久米 禎子
21	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究Ⅱ	葛西 真記子
22	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田 雄三
23	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	中津 郁子,粟飯原 良造,今田 雄三,葛西 真記子,吉井 健治,小倉 正義,古川 洋和
24	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究Ⅱ	粟飯原 良造
25	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	木村 昌紀
26	臨床心理士養成	30452000	心理臨床特別研究	山 愛美
27	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村 直子
28	幼年発達支援	30516000	こころの発達支援研究	浜崎 隆司
29	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村 隆宏
30	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	湯地 宏樹
31	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路 晶子
32	現代教育課題総合	30637100	文化とコミュニケーション	太田 直也,金野 誠志

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
33	現代教育課題総合	30638100	人間と文化Ⅰ（基礎研究）	太田 直也,金野 誠志
34	現代教育課題総合	30639100	人間と文化Ⅱ（地域研究A）	太田 直也
35	現代教育課題総合	30643200	コミュニケーションと環境	金野 誠志,谷村 千絵
36	現代教育課題総合	30646200	人間とコミュニケーションⅢ（実践研究B）	金野 誠志,谷村 千絵
37	現代教育課題総合	30647200	環境と文化	田村 和之
38	現代教育課題総合	30649200	人間と環境Ⅱ（実践研究A）	田村 和之,近森 憲助
39	現代教育課題総合	30652000	現代の子どもと学校教育	谷村 千絵
40	現代教育課題総合	30662000	現代授業メディア論	林 向達
41	特別支援教育	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上 とも子
42	特別支援教育	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上 とも子
43	特別支援教育	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	高橋 眞琴
44	特別支援教育	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷 博俊
45	特別支援教育	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原 光恵
46	特別支援教育	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田 恭仁
47	特別支援教育	31168000	発達障害児病理・病態生理学研究	田中 淳一
48	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原 卓志
49	言語系	32140000	日本語Ⅰ	田中 大輝
50	言語系	32141000	日本語Ⅱ	妹尾 春子
51	言語系	32144000	日本古典語研究	原 卓志
52	言語系	32147000	現代日本語演習	田中 雅和
53	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	黒田 俊太郎
54	言語系	32150000	日本文学研究Ⅱ	小島 明子
55	言語系	32153000	日本語教育学研究	小野 由美子
56	言語系	32154000	社会言語学研究	永田 良太
57	言語系	32155000	対照言語学研究	山川 太
58	言語系	32156000	日本語文法研究	田中 大輝
59	言語系	32159000	言語習得・発達論	田中 大輝

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
60	言語系	32161000	日本語音声表現研究	田中 大輝
61	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井 万里子
62	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田 伸司
63	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷 裕次
64	言語系	32183000	日本語教育法研究	小野 由美子
65	言語系	32193000	教科内容構成（国語科）	村井 万里子,原 卓志,余郷 裕次, 小島 明子,幾田 伸司,黒田 俊太 郎,田中 大輝
66	言語系	32224000	言語教育基礎論Ⅱ	藪下 克彦,眞野 美穂
67	言語系	32226000	英語学研究Ⅰ（英文法理論）	藪下 克彦
68	言語系	32227000	英語学研究Ⅱ（言語表現）	眞野 美穂
69	言語系	32228000	英米文化研究Ⅰ（文化史）	宮崎 隆義
70	言語系	32230000	アカデミック・ライティングⅡ	吉川 エリザベス
71	言語系	32231000	パブリック・スピーキング	吉川 エリザベス
72	言語系	32233000	小学校英語活動構成論	石濱 博之
73	言語系	32282000	初等中等英語科教育特論Ⅰ	石濱 博之
74	言語系	32283000	初等中等英語科教育特論Ⅱ	山森 直人
75	言語系	32284000	小学校英語習得論	畑江 美佳
76	社会系	33158300	歴史学研究Ⅱ	町田 哲
77	社会系	33158500	歴史学研究Ⅲ	原田 昌博
78	社会系	33158700	地理学研究Ⅰ	畠山 輝雄
79	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生 多聞
80	社会系	33171000	社会科教育学研究	伊藤 直之
81	社会系	33173000	社会科授業研究	梅津 正美
82	自然系	34123000	数理科学研究	宮口 智成
83	自然系	34124000	数理科学演習	宮口 智成
84	自然系	34125000	代数学研究	平野 康之
85	自然系	34172000	数学科教育学研究	秋田 美代
86	自然系	34175000	数学科教材開発研究	佐伯 昭彦

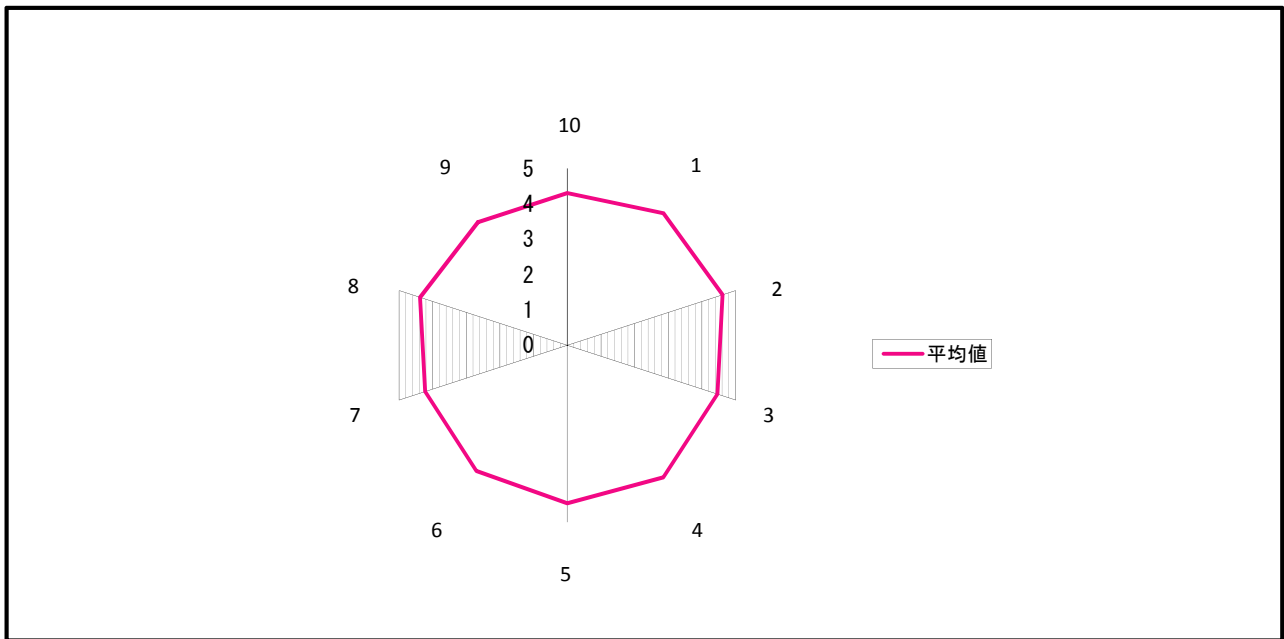
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
87	自然系	34193000	教科内容構成（数学科）	宮口 智成,松岡 隆,平野 康之,成川 公昭
88	自然系	34212100	物理学特論 I	本田 亮
89	自然系	34215100	物理学特論IV	本田 亮
90	自然系	34225100	生物科学特論Ⅱ	工藤 慎一
91	自然系	34230000	地球科学特論Ⅱ	村田 守
92	自然系	34233000	地質学・古生物学特論	香西 武,村田 守,小澤 大成,足立奈津子
93	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安 利秀
94	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森 正,田中 巳穂
95	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	森 正
96	芸術系	35117000	ピアノ演奏法	森 正
97	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根 秀憲
98	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根 秀憲
99	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田 啓明
100	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡 貴史
101	芸術系	35211000	絵画制作研究	鈴木 久人
102	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎 窮
103	芸術系	35222000	陶芸制作演習	栗原 慶
104	芸術系	35224000	総合造形研究	高橋 耕平
105	芸術系	35273000	美術科授業研究	山木 朝彦
106	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田 芳明
107	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木 朝彦
108	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原 資裕
109	生活・健康系	36117000	学校体育経営研究	藤田 雅文
110	生活・健康系	36119000	体育・スポーツ心理学研究	村上 妃斗美
111	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾 信之
112	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井 敦典

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
113	生活・健康系	36126000	スポーツ・トレーニング演習	南 隆尚
114	生活・健康系	36129000	学校保健学研究	吉本 佐雅子
115	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中 弘之
116	生活・健康系	36171000	保健体育科教育学研究	梅野 圭史
117	生活・健康系	36175000	体育教授学研究	綿引 勝美,湯口 雅史
118	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地 章
119	生活・健康系	36226000	プログラミング演習	戸川 聡
120	生活・健康系	36276000	情報科教育研究Ⅱ	森山 潤
121	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川 衣代
122	生活・健康系	36313000	生活経営学研究	坂本 有芳
123	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井 典代
124	生活・健康系	36317000	食生活学研究	松永 哲郎,西川 和孝
125	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金 貞均
126	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水 多佳子
127	生活・健康系	36393000	教科内容構成(家庭科)	坂本 有芳,速水 多佳子,黒川 衣代,福井 典代,西川 和孝,松永 哲郎,金 貞均
128	国際教育	37133000	教育研究・調査	石坂 広樹,小澤 大成
129	国際教育	37136000	国際教育協力研究	石坂 広樹,近森 憲助
130	国際教育	37138000	外国語運用能力強化演習Ⅰ	石村 雅雄,石坂 広樹
131	国際教育	37181000	国際理解教育特論Ⅰ	小澤 大成,近森 憲助
132	国際教育	37184000	国際教育総合セミナーⅠ	石村 雅雄,近森 憲助,小澤 大成,石坂 広樹

結果報告書

授業科目名 学校教育の人間形成的役割
 評価実施日 平成28年7月27日
 担当教員名 木内 陽一, 山崎 勝之, 皆川 直凡 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	5				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	5	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	3	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	3	2			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1	1		4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3	2	1		4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	4	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	1	1		4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	5	2			4.3



教員のコメント

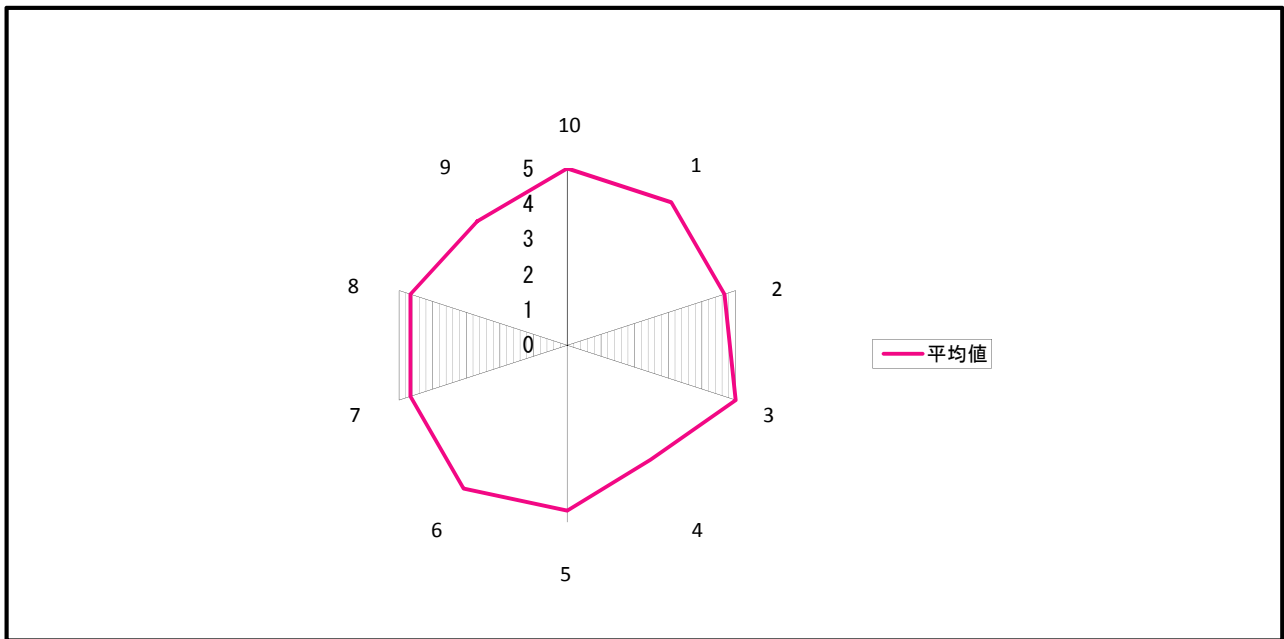
本講義は、人間形成コース所属の教員3名(教育学1、心理学2)が担当した、いわば人間形成コースのほぼ総力をあけて取り組んだものである。その甲斐があって、ほぼすべての質問項目で高い評価を受けている。その中でも特記するものをあげてみよう。まず授業の内容では、専門的知識の習得について、高い評価が挙げられている。担当教員が、現在意欲的に取り組んでいるテーマや、長期にわたって継続的に取り組み、十分な研究蓄積を持った領域で授業を展開している証左とも言えそうである。また、授業の進め方については、成績評価の方法の説明に高い評価が与えられている。とくに心理学担当教員の説明の明快さに受講生が共感していると受け取られる。なぜなら、教育学担当教員の説明は明確さを欠いていると、しばしば指摘されるからだ。総じて、理想に近い授業であろう。勇気が出る結果だ。さらに精進したい。

結果報告書

授業科目名 現代教育課題特論(遠隔)
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1		1	4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

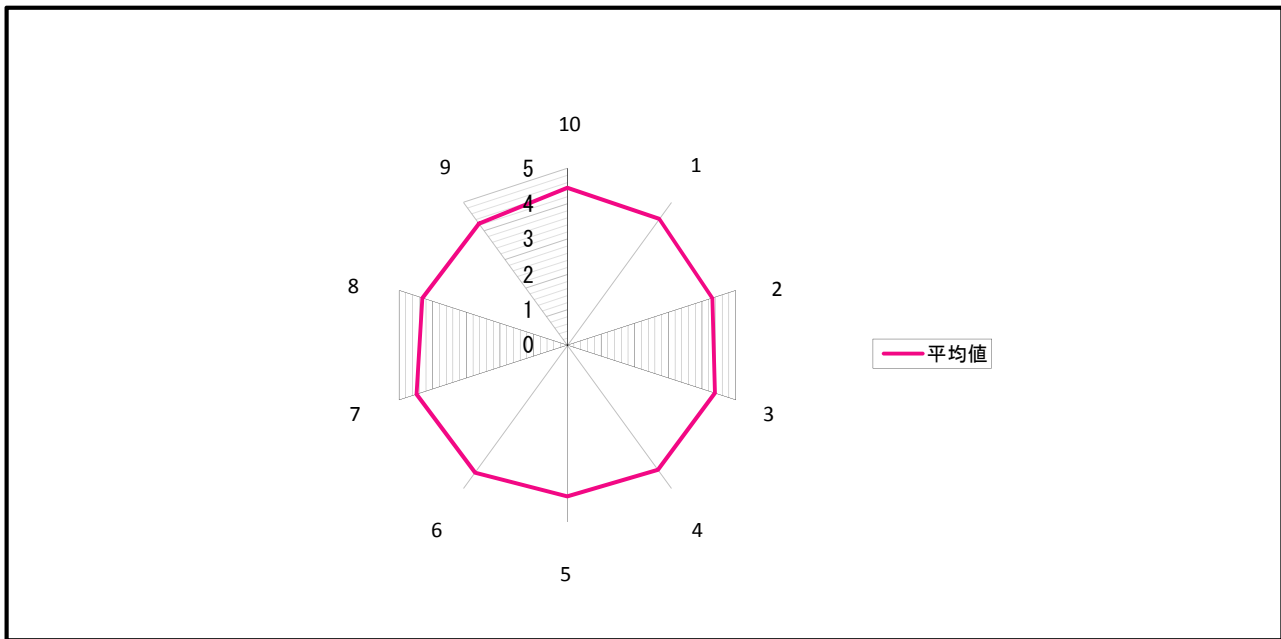
受講生数が絶対的に少なかったため、統計としての意味はあまりないと思われるが、それでもとれあえず高得点であったのはよかった。記述式回答では、講義中心であることに対して、正反対の意見が出たことが興味深かった。アメリカではすでにアクティブラーニングの有効性に疑問がある旨の調査結果も出ているとか聞く昨今、受講生に発表させたり作業させたりすることが無条件に「よいこと」なのかどうか、今後も留意していきたい。

結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育
 評価実施日 平成28年8月2日
 担当教員名 荒木 秀夫

回答者数 29 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	15	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	11	3	1		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	7	4	1		4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15	8	5		1	4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	15	9	3	2		4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	4	4		1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	17	9	3			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	11	3	1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	11	5		1	4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	18	7	3	1		4.4

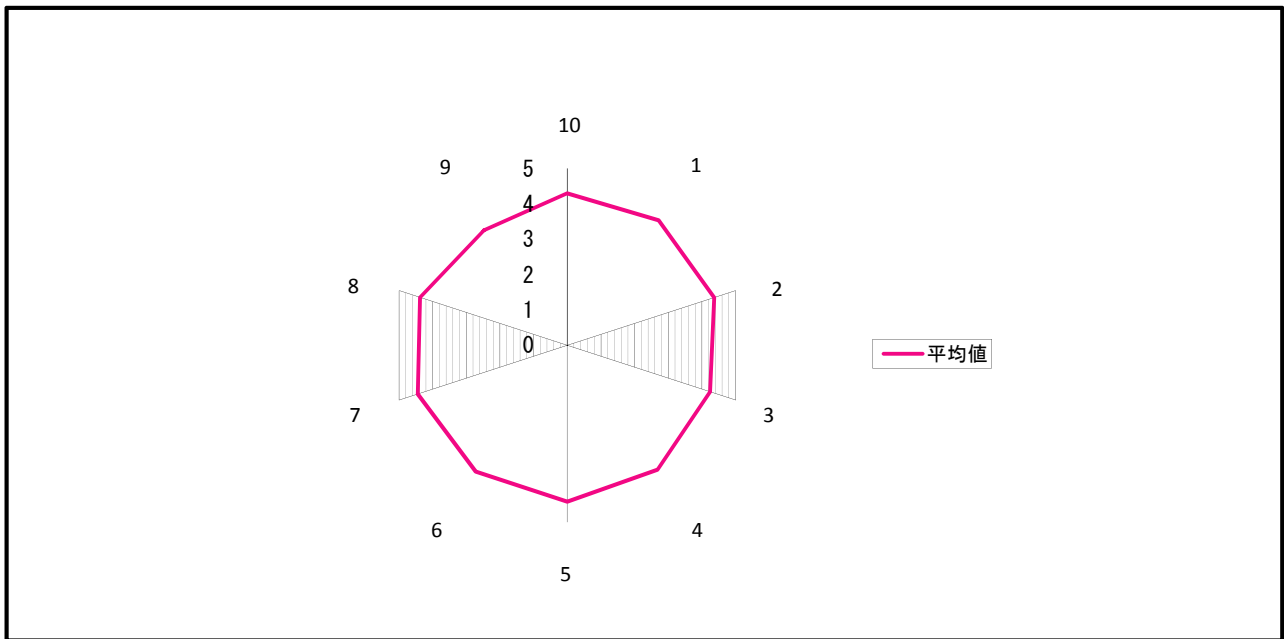


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 子ども理解と生徒指導
 評価実施日 平成28年7月27日
 担当教員名 小倉 正義, 葛西 真記子, 吉井 健治 回答者数 113 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	53	49	9	1		1	4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	54	47	9	2		1	4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	47	49	13	2	1	1	4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	53	45	13	1		1	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	56	48	7	1		1	4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	59	42	10		1	1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	57	48	7			1	4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	54	49	8		1	1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	56	21	4		1	4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	52	48	7	3	2	1	4.3



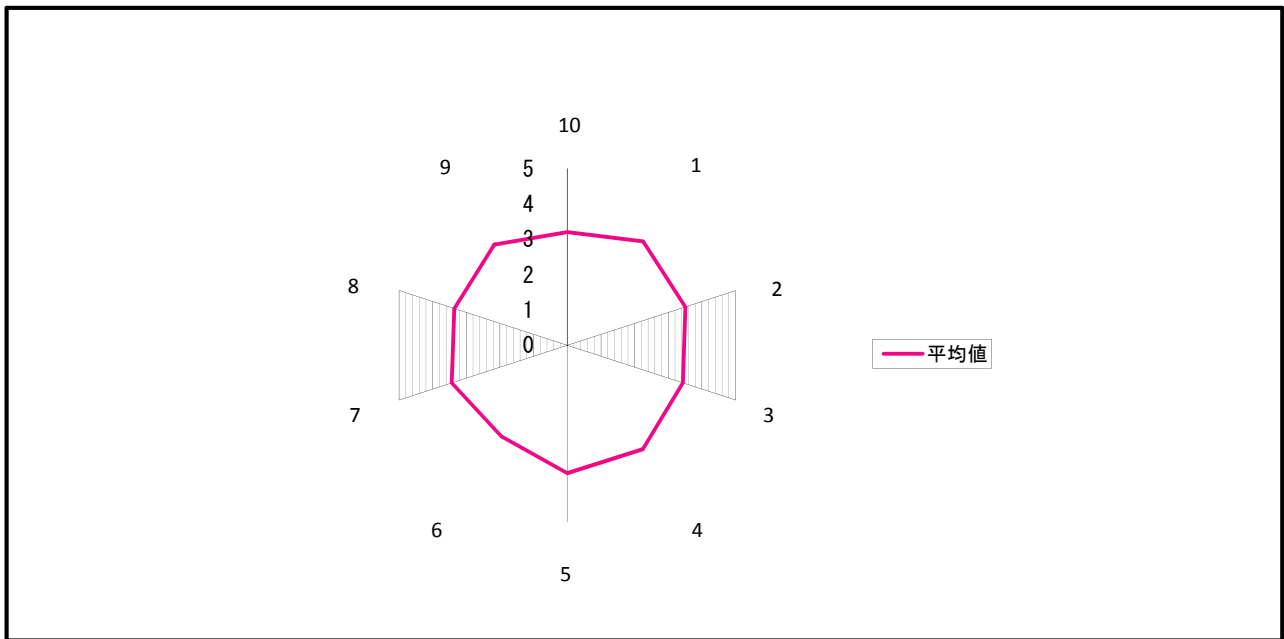
教員のコメント

本授業は、臨床心理学の観点から、子ども理解と生徒指導について実践的理論を論じ、教師やスクールカウンセラーの実践に役立つ根本的な態度や考え方を身につけることを目的としており、アンケートの結果からある程度目的は達成できたのではないかと考えられた。一方で、今後の課題(改善点)としては、①学部授業の生徒指導論・カウンセリング論を受講している学生も多いので、そこの一貫性と発展性をさらに意識して授業内容を考えること、②教室変更は難しいと思われるが、学生が授業に集中できるように、さらに細やかな工夫と配慮をすることが挙げられる。課題点・改善点を意識して、来年度以降の授業を組み立てていきたい。

結果報告書

授業科目名 子どもの発達支援
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 田村 隆宏, 津田 芳見, 塩路 晶子, 木村 直子, 田中 淳一, 高原 光恵
回答者数 104 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	24	36	29	12	3	3.6	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	38	25	13	7	3.5	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	20	35	26	13	9	1	3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	23	36	32	7	5	1	3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	21	38	32	10	3		3.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	17	25	34	15	13		3.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	19	39	23	15	8		3.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	19	32	32	10	11		3.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	36	24	18	4		3.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16	28	30	21	9		3.2



教員のコメント

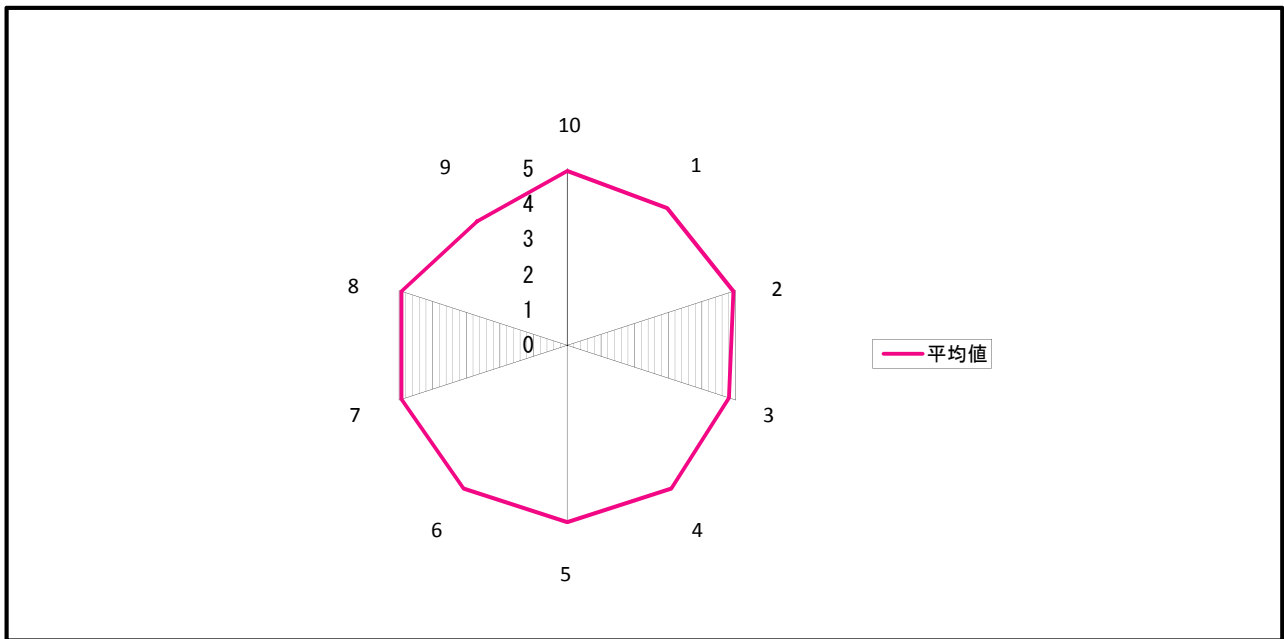
各項目の評定値をみると、(1)(2)(4)(5)(9)の項目で3.5以上であり、これらの項目内容については概ね肯定的な評価を受けている結果となった。しかしながら、それ以外の項目では、中央値3(どちらでもない)を僅かに超える程度の評定値であった。今後の講義では、特に授業の進む速さを適切なものにする、受講生に対して分かりやすく説明すること、教科書や配布資料等を適切なものにする、板書や視聴覚機材の使用を適切なものにする、などに配慮する必要がある。また、今後改善して欲しいことに関する受講生のコメントでは、「複数の教員間で内容が複するものがあった」、「パワーポイントで提示時間が短く、ノートに写す時間がなかった。時間がないのなら、配布資料が欲しい」といった内容が特に多かったことから、授業で取り上げる内容の再吟味と授業内容の提示の仕方についての再検討が必要である。

結果報告書

授業科目名 人間形成文化史研究
 評価実施日 平成28年9月14日
 担当教員名 梶井 一暁

回答者数 15 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	1	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	3					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	15						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	14	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	1					4.9



教員のコメント

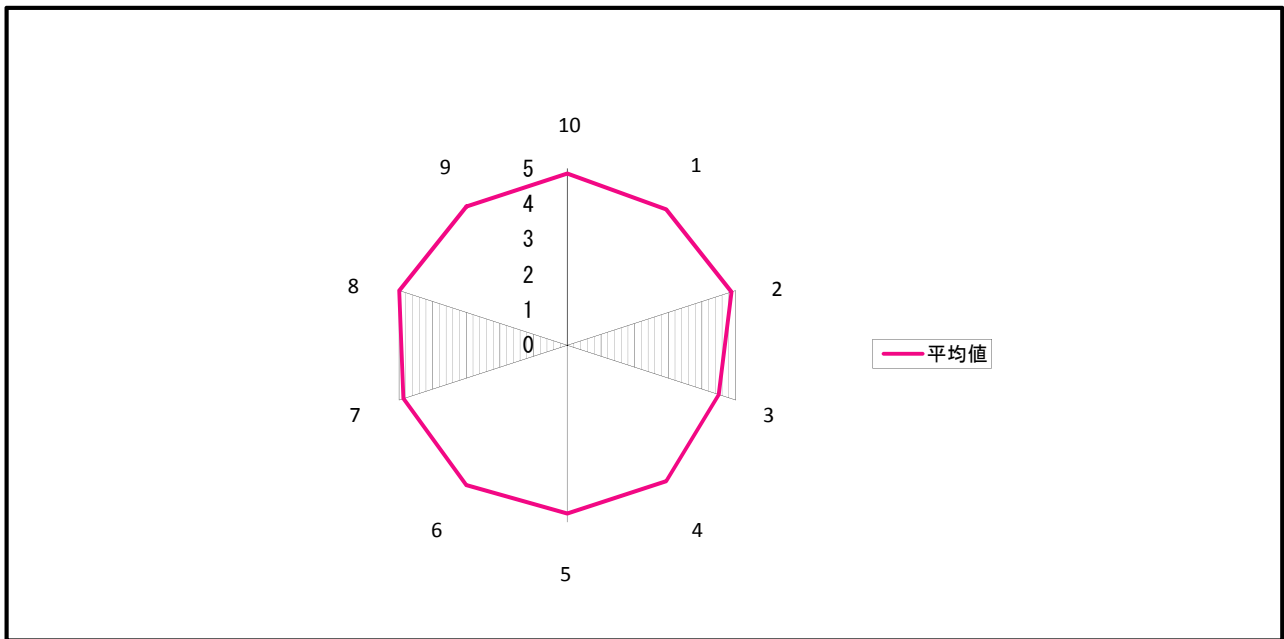
受講者からおよそ積極的な評価を得られたと考える。
 授業者としては全体的にやや進行がはやかったかもしれないと思いつく側面がある。授業の主題にあらかじめ関心をもってきている受講者は進行に合わせてついてきてくれるのだろうが、そうでない受講者は関心と理解が追いつかないとろろがあり、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」で評価が分かれる結果になっているのかもしれない。
 今後も授業の改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名 近代教育文化史演習
 評価実施日 平成28年9月29日
 担当教員名 梶井 一暁

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7		1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1			1	4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1			1	4.9



教員のコメント

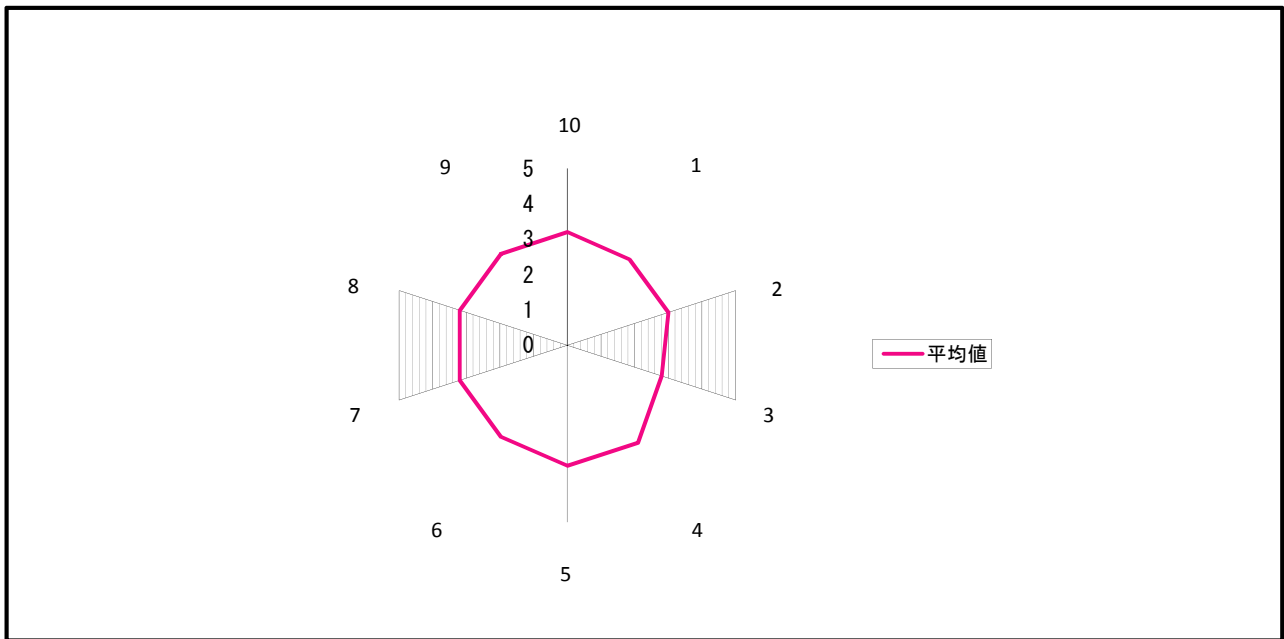
受講者からおよそ積極的な評価を得られたと考える。
 自由記述を読むと、課題が多めで、大変だった旨を書く受講者がいた。集中講義で2つの課題に関する演習を行った。受講生が週のあ
 いだの時間を使って考察をまとめるような授業構成は叶わず、この点をふまえ、内容を改めて検討したい。
 今後も授業の改善を図りたい。

結果報告書

授業科目名 教育哲学研究
 評価実施日 平成28年7月21日
 担当教員名 木内 陽一

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1	1	1	1	3.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1	1	1	1	3.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		2	1	1	2.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		2		1	3.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2		2		1	3.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1	1	1	3.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1	1	1	3.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1	1	1	3.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1	1	1	3.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2		1	1	1	3.2



教員のコメント

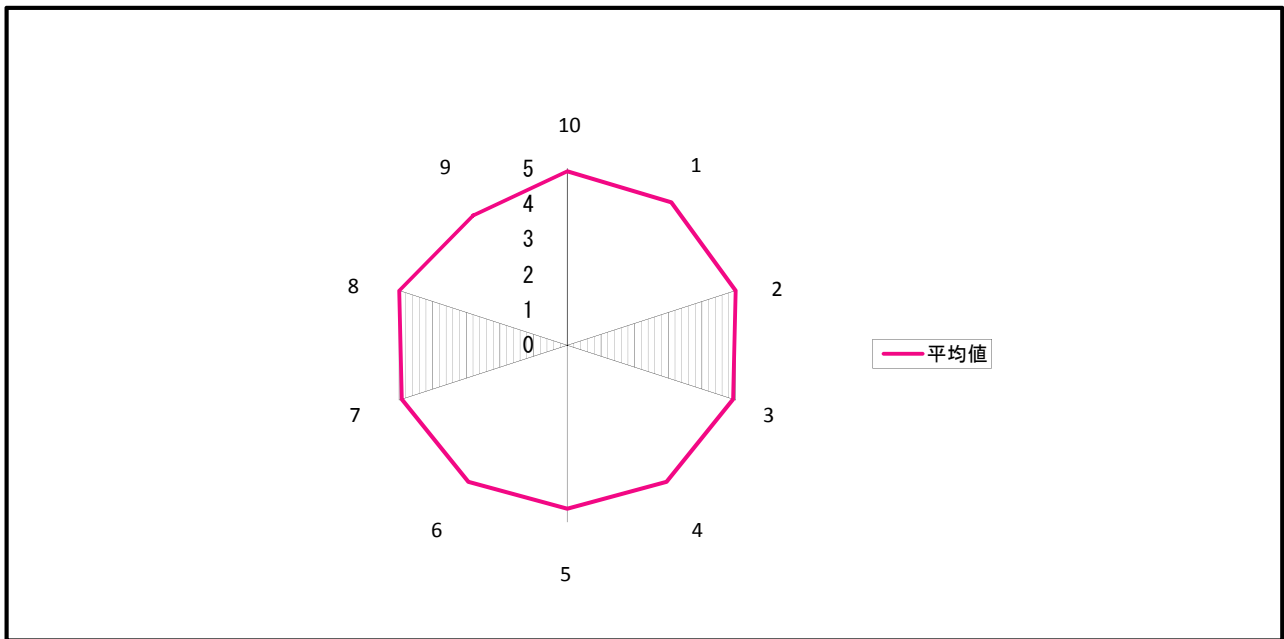
本年度から新しいテキストをしようしている。ザフランスキー『ドイツロマン主義』（法政大学出版会）である。本書はロマン派の研究書の中でも、出色にものである。特に、単なる文学史の叙述を越えて、社会史的な背景にまで踏み込んだ叙述は、読むものを圧倒させる迫力がある。こうしたテキストであるが、それだけに、読み手の基礎教養によって、理解度が大きく違ってきてしまう。アンケート結果が大きなばらつきを示しているのは、受講生の基礎教養に大きな違いがあるからだと思う。さらに人間形成コースは教員の数が少ないために、履修する科目の選択の幅が狭くなっている。つまり、哲学や思想史に興味を抱かない院生も、履修科目の関係から受講せざるを得ないのである。最後に授業形態の問題があるだろう。この授業では、担当者のゼミの院生に手伝ってもらい、受講者が共通の部分を読み、気づいたことや感じたことをゼミ生にmailで送り、ゼミ生が集約するという形態をとった。そして木内の立場から、それぞれのコメントについて、考えを述べていった。このような形態であると、受講生の気づきはわかるし、木内の発言内容も、受講生の気づきkに即したものになる。しかしそうすると、ロマン主義に対する体系的な説明が弱まることが起こって来る。低い評価は、この点に起因するのではないかとおもう。

結果報告書

授業科目名 発達健康心理学研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 山崎 勝之

回答者数 13 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	3					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	3	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	1					4.9



教員のコメント

この授業の難度は極めて高い。また、完全オリジナルの授業である。それだけに、授業者は周到な準備をして取り組んでいるつもりである。総合評価は4.9と極めて高いが、少し低めの項目があるのは、この授業の難解さのためであろう。次年度に向けての課題がここにある。

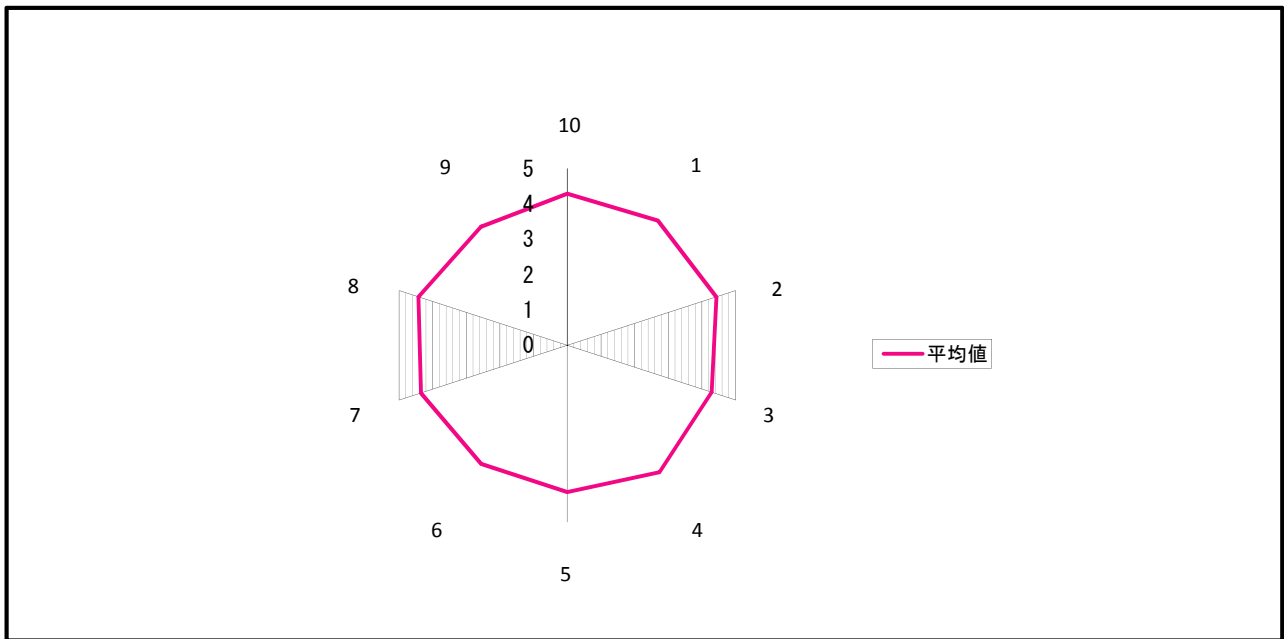
しかし、今年度も受講生は素晴らしい姿勢で授業にのぞんだ。積極的に参加し、活発に討議にも加わった。その姿勢はこれ以上ないので、学生に求めるさらなる課題はない。授業の高水準の内容は落としたいので、さらに工夫と改善へと鋭意努力し、次年度の授業にのぞみたい。

結果報告書

授業科目名 教育認知心理学研究
 評価実施日 平成28年7月19日
 担当教員名 皆川 直凡

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	7	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	6	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	8	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4	2			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2	3		1	4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	4	4			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	5	2			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	8	2			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	6	2			4.3



教員のコメント

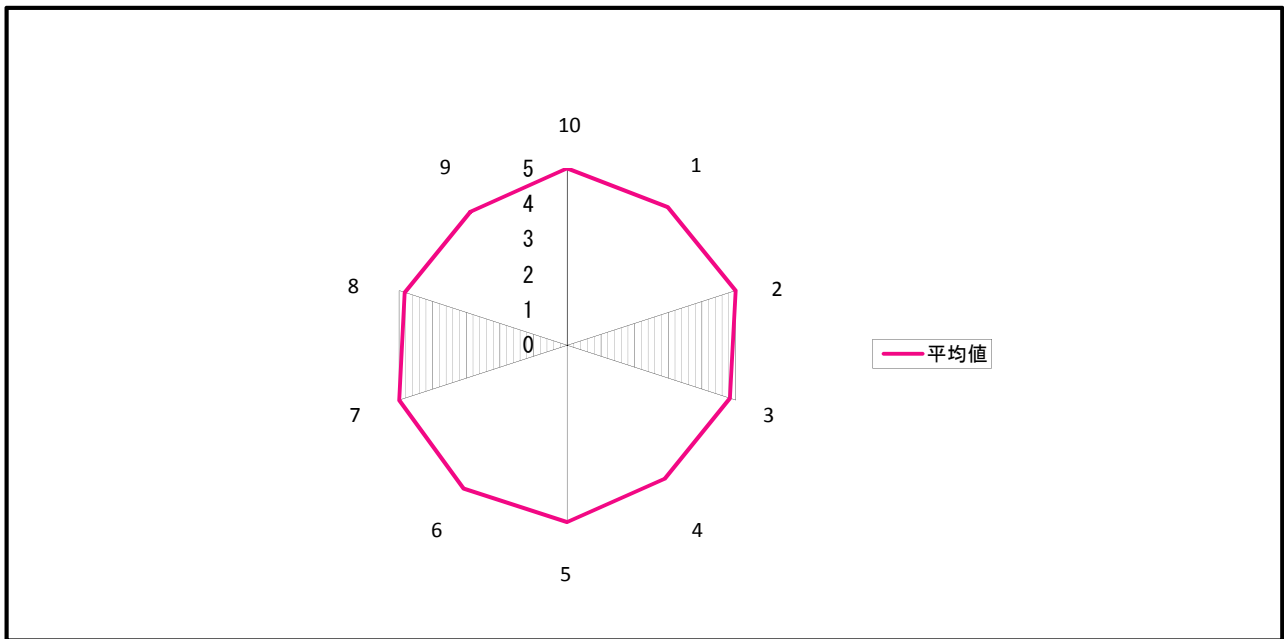
本授業に対する総合評価は平均値が4.3であるとともに、評価4以上を選択した回答者が14名中12名(86%)を占め、さらに9名は全項目に対して4以上の評価をしたことから、おおむね良好であったと言える。一方、項目(5)と(6)では評価3以下の受講者が4名(29%)おり、改善の方向性を指し示している。因みに、総合評価を3とした受講者2名は残りの項目も比較的 low 評価しており、授業への主体的・積極的取り組みも3と評価していた。本科目は高い水準に目標をおく専門科目であり、すべての受講者の要望に応えることは難しいが、専門科目としての質を落とさないことを最優先に、できるかぎり多くの受講者のニーズにも応えられるよう努力したいと考える。

結果報告書

授業科目名 心理教育科学研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 内田 香奈子

回答者数 6 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6						5.0



教員のコメント

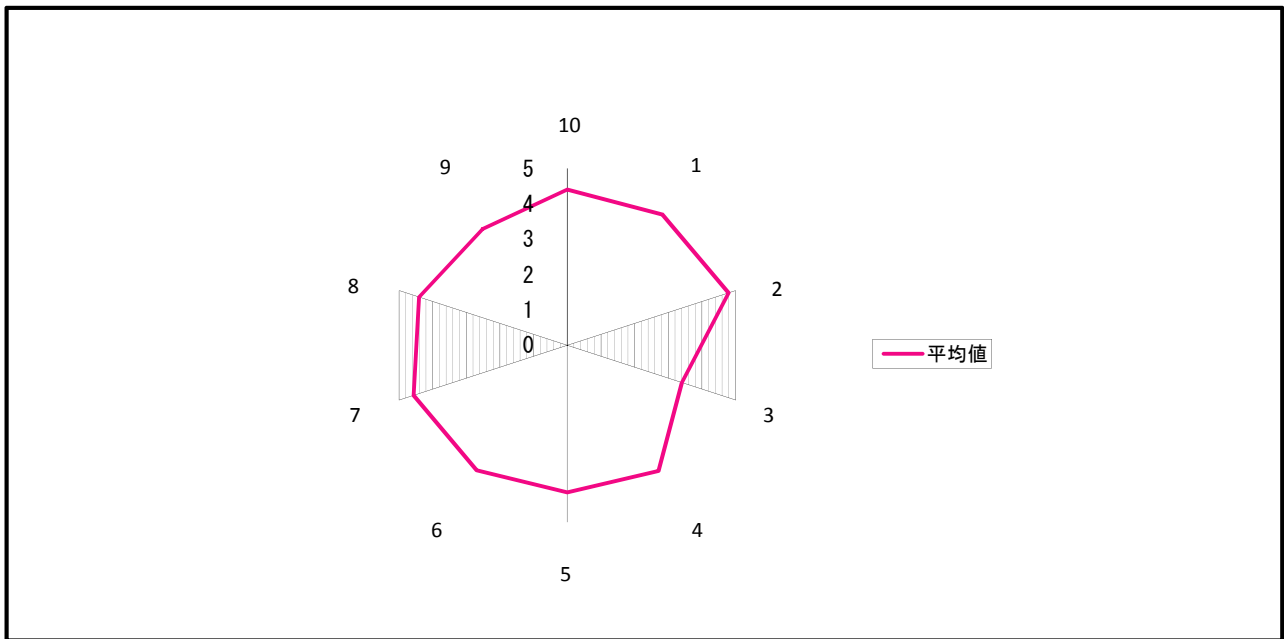
本授業は、今年度より主に当コースの教育力、研究力をより強化するために開設された科目である。学校現場において心理教育(予防教育)を行うにあたり、自ら研究論文を読み、介入方法を模索し、そして実施した教育内容を検証するための、基礎的な力を身につけることを最大の目的としている。これらの力を身につけるため、論文探索と読解、SPSSによる分析、統計学の基礎、プレゼンテーションの方法などを、まんべんなく解説する形を取った。メールや個別の指導も行うなど、希望者には授業以外でのアプローチも行う形を取った。結果、授業評価は4.7以上、総合評価は5.0となった。反省点としては、質問を遠慮する学生へのアプローチをより具体的に行うこと、成績評価方法をより具体的に提示する必要がある点であった。今年度の経験を生かし、次年度も尽力したい。

結果報告書

授業科目名 精神医学研究
 評価実施日 平成28年7月11日
 担当教員名 今田 雄三, 古川 洋和

回答者数 44 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	25	19				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	9			1	4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	11	16	4	3	2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	22	18	3	1		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	16	19	9			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	19	22	3			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	27	15	2			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	22	18	4			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	23	9			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	19	24	1			4.4



教員のコメント

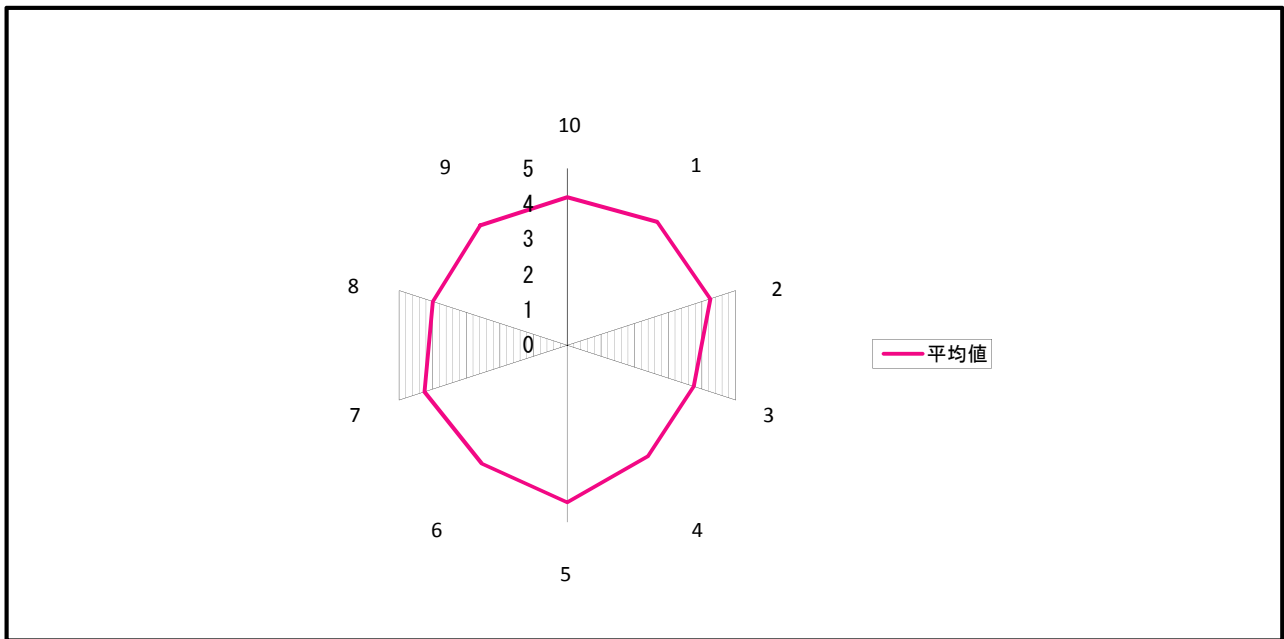
質問10項目中9項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(10)「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」では4.4点と評価されており、受講生からは高い評価を得られたものと考えられる。なお「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」に関する評価については3.4点と、4点に達していなかったが、受講者の自由記述にはこの項目の評価が低くなった理由の記述は含まれていなかった。[2]の本授業のよかった点では「精神医学について詳しく学ぶことが出来た」ことを評価する者が多かったものの、精神医学の知識が教育現場においてどのように生かされるのかを十分に感じ取れなかったのかもしれない。今後は精神医学の実践知が、教員の実践力向上にとっても重要であることが十分に伝わるよう、より丁寧な導入、解説や具体例の紹介などを一層工夫したい。また[3]の授業の改善点として、「内容が膨大すぎる」「座学のみでメリハリが乏しい」「時々授業が延長した」「機材の不調で映像資料が見られない回があった」といった意見が寄せられていた。精神医学の学問としての特質上、必然的に多くの情報を提示することが必要になるのだが、今後は限られた授業の枠の中で取り上げるテーマの吟味や授業の進行・形式について可能な範囲で工夫を行いたい。「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に関する自由記述では、「興味を持ってしっかり授業を聞いた」「授業時間外でも関連する事項を調べた」といった肯定的な記述がある一方、「難しくついて行けないことがあった」「復習ができていなかった」といった受講者自身の姿勢について反省する記述も見られた。今回のアンケート結果を参考にして、次年度以降は授業で提示する情報量や進度を吟味し、また受講生がより主体的・積極的に授業に取り組める工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名 精神医学文献演習
 評価実施日 平成28年7月27日
 担当教員名 今田 雄三, 小倉 正義

回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	9	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	10	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	6	7			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	8	5			3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	7	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	10	2			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	10	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	14	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	11	1			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	13				4.2



教員のコメント

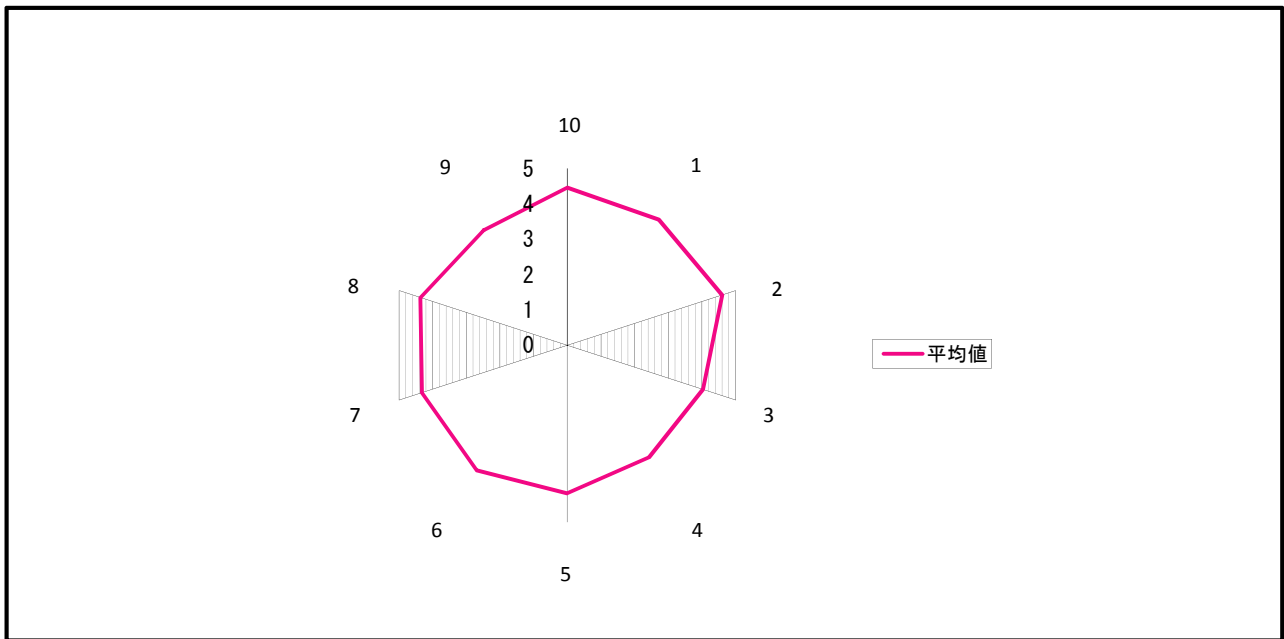
質問10項目中8項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(10)「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の評価では4.2点と評価されており、受講生からは高い評価を得られたものと考えます。評価の平均点が4点に達していなかった2つの項目のうち、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった」については、自由記述ではこの項目に関連した記述はなされていなかったが、引き続き専門領域についての知見を深めるため、必要に応じて外国語の文献に当たることは、教育者として学問の本質に触れる貴重な機会であることを受講生に喚起していきたい。また、質問項目(4)の「成績評価の方法の説明は、適切であった」に関しては、自由記述に直接この項目に関わる内容は述べられていなかったもの、今後は明確な成績評価の基準を明示するように考えたい。[2]の「この授業でよかったと思われる点」については、英語論文を輪読する経験が有意義であったとする意見が多く、[3]の「この授業で改善すべきと思われる点」については、文献の選択に統一性が欠けること、自分の発表の回以外は参加態度が消極的になってしまう、という意見も寄せられていた。今回のアンケート結果を反映させ、授業の設定や構成については引き続き検討したい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究 I
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 吉井 健治, 久米 禎子

回答者数 39 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	15	23				1	4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	11	2			1	4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	16	6	3		1	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	18	7	3		1	3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	19	6			1	4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	14	2	2		1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	15	19	3			2	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	20	14	2	2		1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	20	7	1		1	4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	20	17	2				4.5



教員のコメント

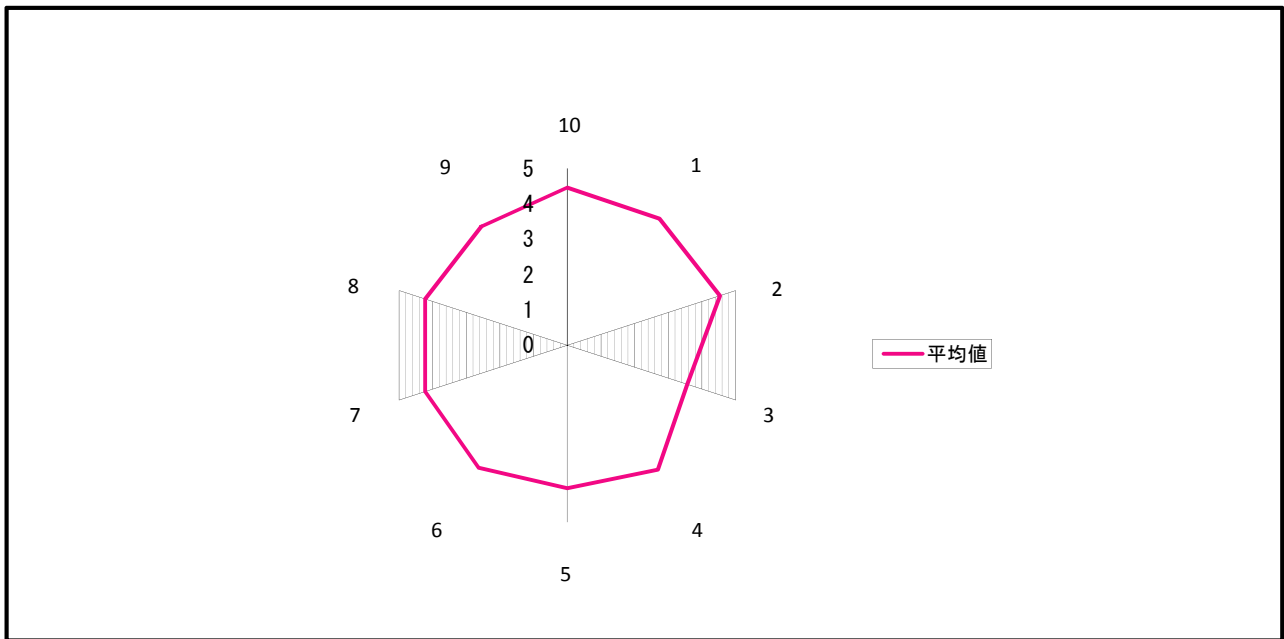
最も評価が高かった項目は「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」(4.6)であり、反対に最も評価が低かった項目は「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。」(3.9)であった。他の7項目は4.0～4.4であり、総合評価は4.5であった。以上のことから、本授業は高い評価が得られたといえよう。「専門知識を深めるのに役立つ内容だった」という点に関しては、本授業ではカウンセラーとしての基礎的内容に加えて、人間中心療法、精神分析学(とくに精神分析的自己心理学)、表現療法、箱庭療法、内観療法についても詳細に説明を行っていることが高い評価が得られた一因ではないだろうか。「成績評価の方法の説明は適切であった」が低かったのは、成績評価の方法についてほとんど説明をしなかったことが反映されている。今後は、成績評価の方法について授業の最初に明確に示すようにしたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月22日
 担当教員名 葛西 真記子

回答者数 26 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	15	8	2	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18	6	1		1		4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	8	7	2	2	1	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	9	4				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	10	6	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	11	2		1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	11	3	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	11	3	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	10	4		1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16	8	1		1		4.5



教員のコメント

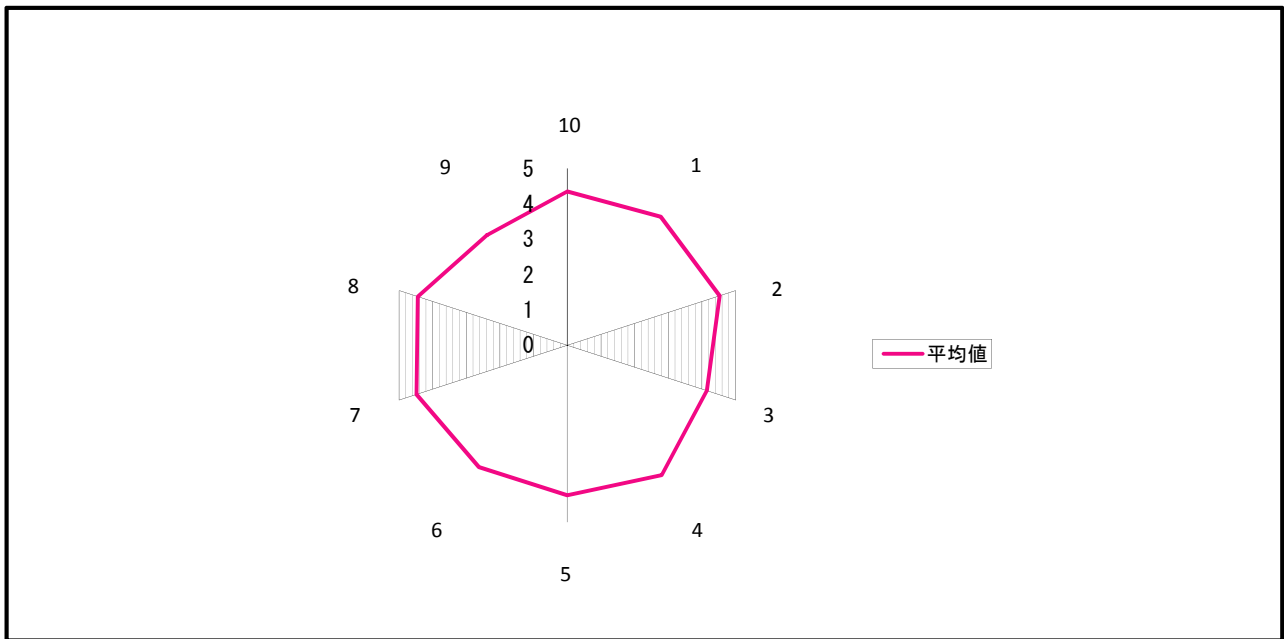
本講義の総合評価は、例年通り4.5と高い数値であったが、各項目の評価として、「あまり思わない」「そう思わない」と回答している学生が数名いた。そのことについて考えると、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」に対して1名が「そう思わない」、また、「(6)受講生にわかりやすく説明した。」に対しても1名が「そう思わない」と回答していた。「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」については、毎年、数名が「そう思わない」と回答しているが、本講義は、臨床心理士としての知識・技能を深めることを目的としたものであるため、低い評価得点になったと思われる。それでも、6名が「そう思う」、8名が「ややそう思う」であったことは、高評価であったととらえてよいと思われる。先の二つの項目内容についてであるが、専門的知識として、すでにその学生が習得していた内容であったために、深めるのに役立たなかったのかあるいは、精神分析理論を中心に講義をすすめたのであるが、他の理論の方が専門的に必要であると考えていたためではないかと思われる。すでに知識をもっていたのであれば、本講義を受講している他の学生のレベルに合わせるのか、先に進めるのかについては、今後、院生からの初期段階でのフィードバック等をもらい、検討していきたいと思う。また、他の精神分析自体にあまり興味が持てなかったのであれば、それは、本講義の担当者としての力量不足であると思われるので、今後、さらに研鑽を積んでいきたいと考える。

結果報告書

授業科目名 学校精神保健学研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 今田 雄三

回答者数 51 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	28	20	3			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	16	4			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	22	9	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	33	13	4	1		4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	25	16	7	3		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	22	21	7	1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	32	15	1	3		4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	31	13	6	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	26	11	2	1	3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	23	5			4.4



教員のコメント

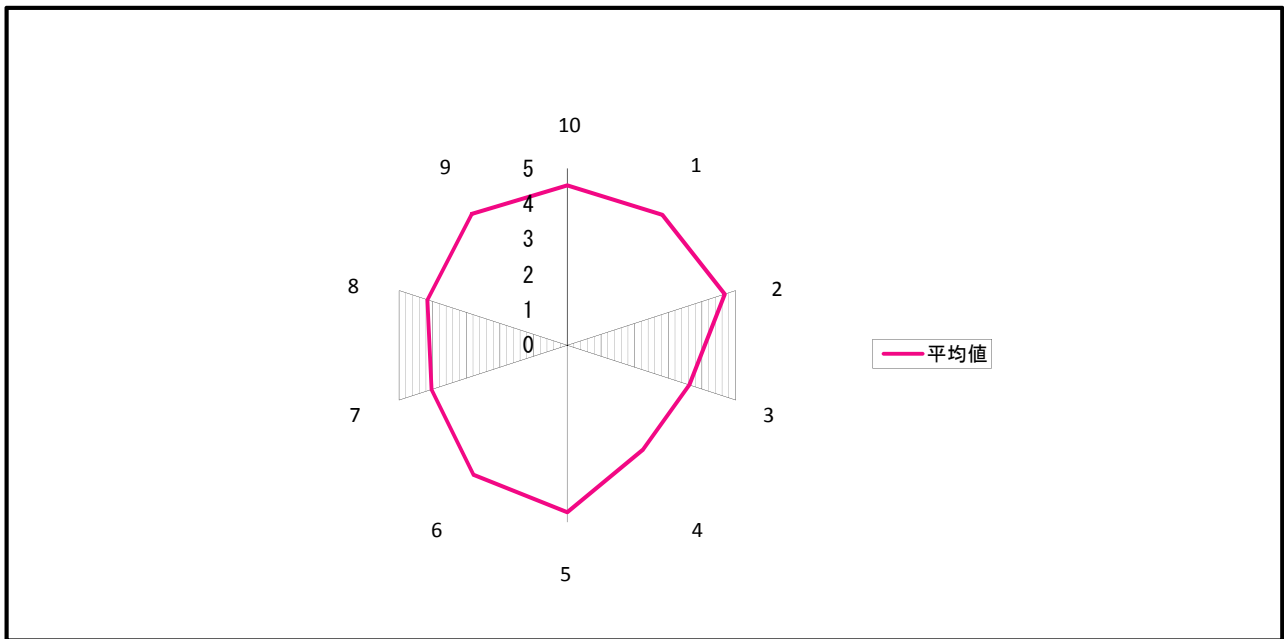
(1)～(10)の各項目ごとの評価では10項目9項目で4点台をを獲得し、(10)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」では4.4点の評価を得ており、本授業は受講生から高い評価を得たものと考えます。唯一(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」については、3.9点とわずかに4点台に届かなかった。自由記述[4]の記述を見ると、「グループワークに積極的にいきれていなかった」「時々居眠りをしてしまった」といった回答があり、グループワークにやや馴染みにくいタイプの受講生への配慮や、講義部分で単調にならないような工夫をする必要があるように思われる。他に自由記述においては「興味のある内容に感じた」「学校現場で必要になる内容だと思った」「専門的知識をわかりやすく教わった」「資料がわかりやすい」といった肯定的な評価が見られた一方、「資料の情報量が多すぎる」「(4～5月にかけて講義室のマイクが故障していたため)先生の声が聞き取りにくかった」といった指摘もあった。本授業は基本的に講義形式主体の授業のため、従来どうしても受講者が受身的になってしまう傾向があり、今年度は授業内でグループワークや短い演習、事例の紹介などを行ったが、そうすると今度はグループワークや演習に対する苦手意識を持つ受講生に負担感を惹起してしまうという難しさも浮き彫りになった。次年度以降も授業の形式をさらに工夫し、受講生がより楽しく、授業参加に負担を感じることなく主体的・積極的に学習に取り組めるよう工夫を重ねていきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接演習
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 中津 郁子, 粟飯原 良造, 今田 雄三, 葛西 真記子, 吉井 健治, 小倉 正義, 古川 洋和

回答者数 25 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	11					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18	6	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	10	10	1		1	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	8	8	2	1		3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	18	7					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14	10	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	10	7				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	13	4				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	6	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	10	1				4.5



教員のコメント

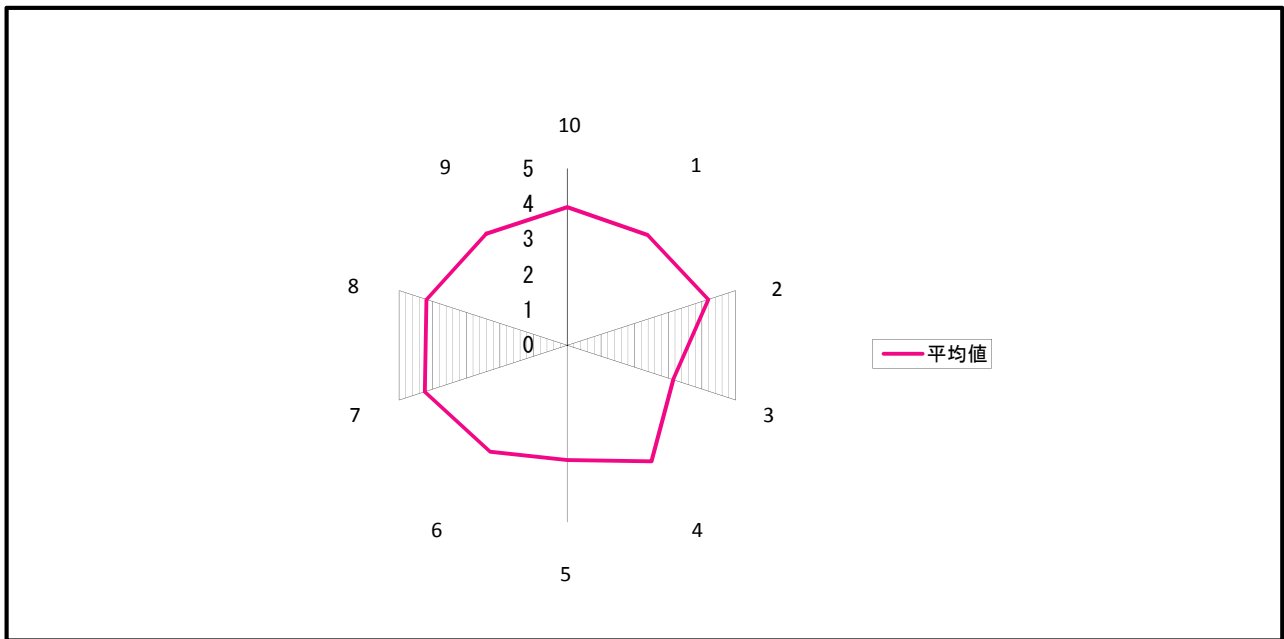
この授業は院生が6つのグループ(1グループが7人の院生と教員1人)に分かれて、ロールプレイを行いグループ討議をするという授業である。面接場面での傾聴技法の習得など、相談室での面接を担当する上では重要な授業である。総合評価が4.5と高い評価になっている。院生にとって概ね満足のいく授業であったと考えられる。しかし、前年度の総合評価は4.9であったので、前年度に比べてやや下がっている。前年度と比べると、全体的に点数が下がっていた。「(3)教師の実践力」に関する項目は、授業の性質上毎年点数は低いが、今年度は「(4)成績評価」に関する項目の点数が下がっていた。今年度は成績評価に関する院生からの異議申し立てもあり修正を行った。成績評価については次年度以降の課題として担当教員で話し合い、グループによる差が出ることなく、院生が納得できる評価になるように検討していくつもりである。院生のコメントを見ると、「少人数で」ロールプレイを行うことで、「実践的な」授業であったことや、「意見や助言をもらえること」で「自分の癖や課題が明確に」なり「面接の技術が向上」したことなどを「良かった点」として前年同様、多数の人があげていた。[3]「改善点として」は、各グループの担当教員によって特色があり、指導方法が異なることを挙げている人が、前年度より多少多かった。各教員の面接技法は異なっているため、均一化することは難しいところもあるが、毎年改善点として挙げられており、検討の必要がある。オリエンテーション時の説明を工夫していきたい。[4]「授業に主体的・積極的に取り組んだ」理由では、「実践につながる授業」であることや「改善点を見つめ、課題を明らかにすることができた」との意見が見られ、臨床心理を学ぶ上で大事な授業であることは自覚されていた。今後も、授業評価を参考に、授業内容や方法等の改善を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月15日
 担当教員名 粟飯原 良造

回答者数 21 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	8	3	2	1	3.9	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	7		2	1	4.2	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	11		4	3.1	
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	7	4		1	1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	6	5	3	3		3.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	9		2	3		3.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	5	2	1	1		4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	7	3		1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	7	3	2	1		3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	4	2	1	3		3.9



教員のコメント

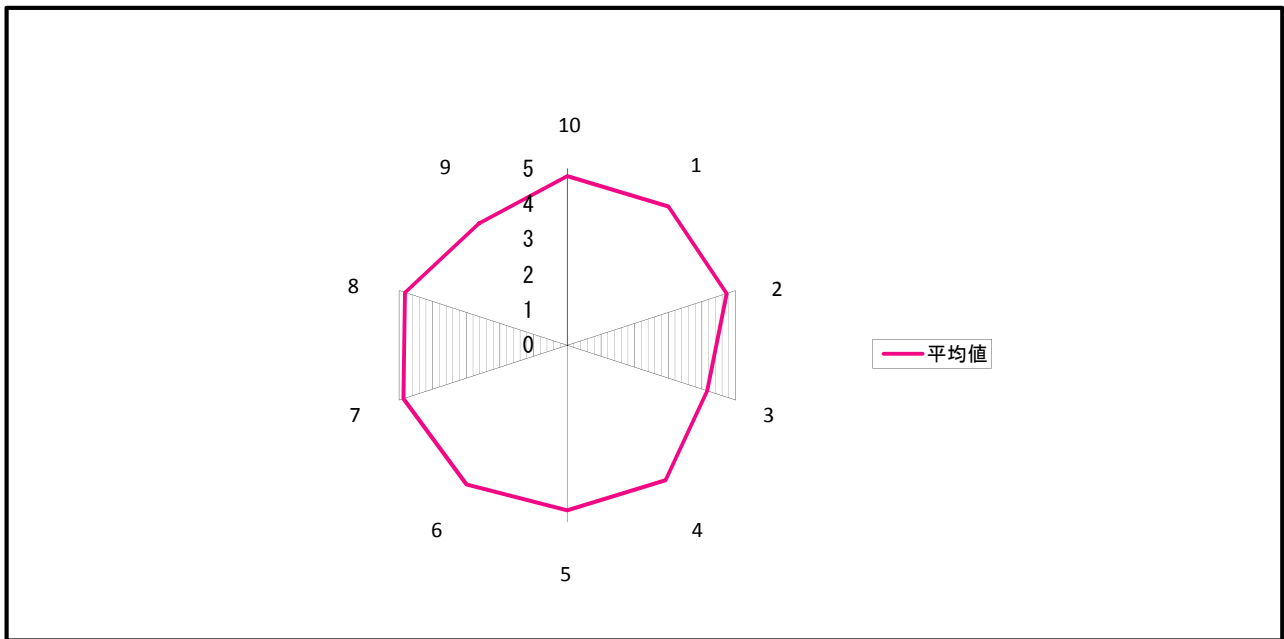
全体でみると例年より評価が0.5以上下がっている。補講時間についての不満が多かった。補講時間に出席点を付けることへの不満もあったが、補講時の出席点をつけていない。補講時間は受講生の希望で決めたが周知徹底が十分でなかったためと思われる。経験談が多く役に立たないのに記述があり、講師としては戸惑うところである。その反面、正反対の意見もあり、これらの両極端の意見が記載されることに本講義の意義を見出している。また、講師の体調不良で補講せざるを得なかったことも受講生の負担になった。ゆいかに講師から、日常生活から学び取る力をつけるかの工夫をする。周知徹底のため連絡事項は文書及び口頭でくり返し伝える。講師の体調管理に努める。こととしたい。

結果報告書

授業科目名 社会心理学研究
 評価実施日 平成28年9月25日
 担当教員名 木村 昌紀

回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	36	6				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	9	1		1	4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	14	10		2	4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	31	10	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	30	9	1	1	1	4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	36	4	1		1	4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	36	5			1	4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	34	7			1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	19	6			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	34	7	1			4.8



教員のコメント

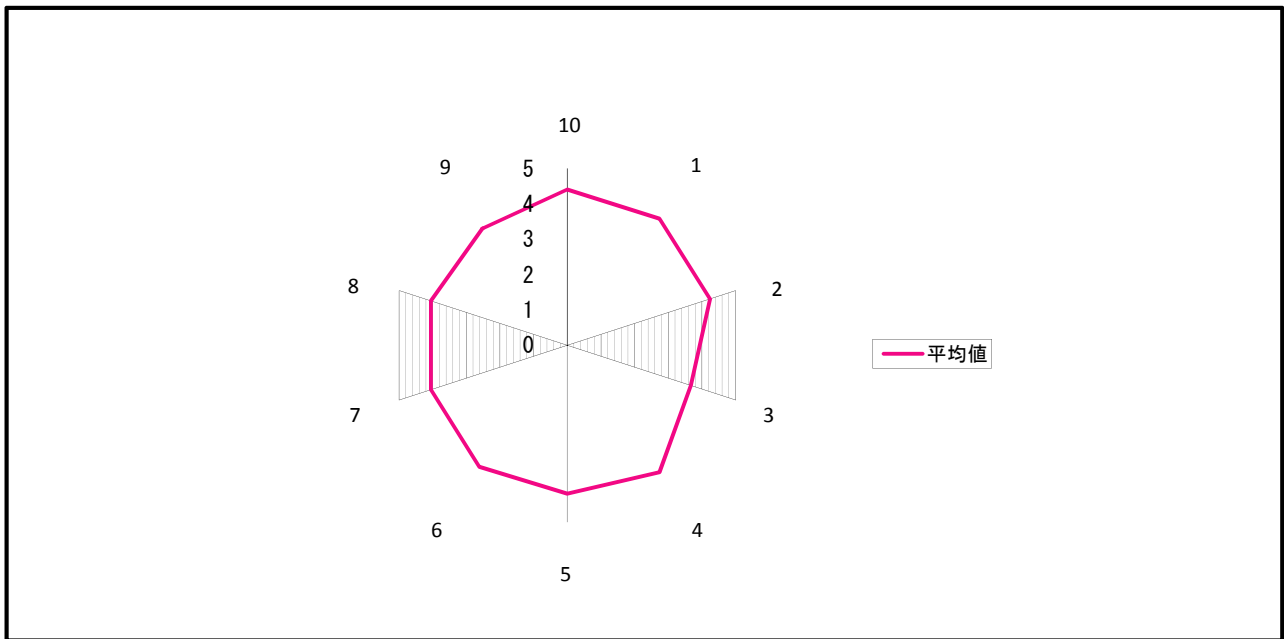
集中講義「社会心理学研究」を担当しました、木村昌紀です。今年初めて本講義を担当させていただき、至らない点が多々あったかと思ひます。それにもかかわらず、このように良い評価をしてくださり、どうもありがとうございました。たくさんの受講生の皆さんから、講義内容に興味をもっていただけたこと、スライドや配布資料が見やすかったと書いていただけたことは、とても励みになります。その一方で、反省点もいくつかあります。1点は、アプローチの種類です。講義、質疑応答、ビデオ視聴、記述課題と組み合わせていたのですが、体験的な課題をもう少し組み込めればよかったと思ひました。もう1点は、授業内容のことで、社会心理学の中で、特にコミュニケーションと対人関係について、基礎的かつ重要な内容を中心に、できるだけ幅広く、相互の関連性を意識しながら講義を心がけました。そのことで特定の分野での踏み込んだ話や、最新の知見の紹介がさらっと終わるところがあったかもしれません。社会心理学の基礎知識がある方には物足りないところがあったでしょうか。これらの反省点は、今後の講義に活かしていきたいと考えています。今回の3日間の集中講義では、意欲的な受講生ばかりで、いただいた質問やコメントで大変勉強になり、私の方が刺激をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

結果報告書

授業科目名 心理臨床特別研究
 評価実施日 平成28年9月15日
 担当教員名 山 愛美

回答者数 37 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	17	19	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	15	5	1		4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	10	8	6	1	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	11	5			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	15	14	8			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	15	5	1		4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	16	11	6	4		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	16	5	3		4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	20	7			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	20	12	5			4.4



教員のコメント

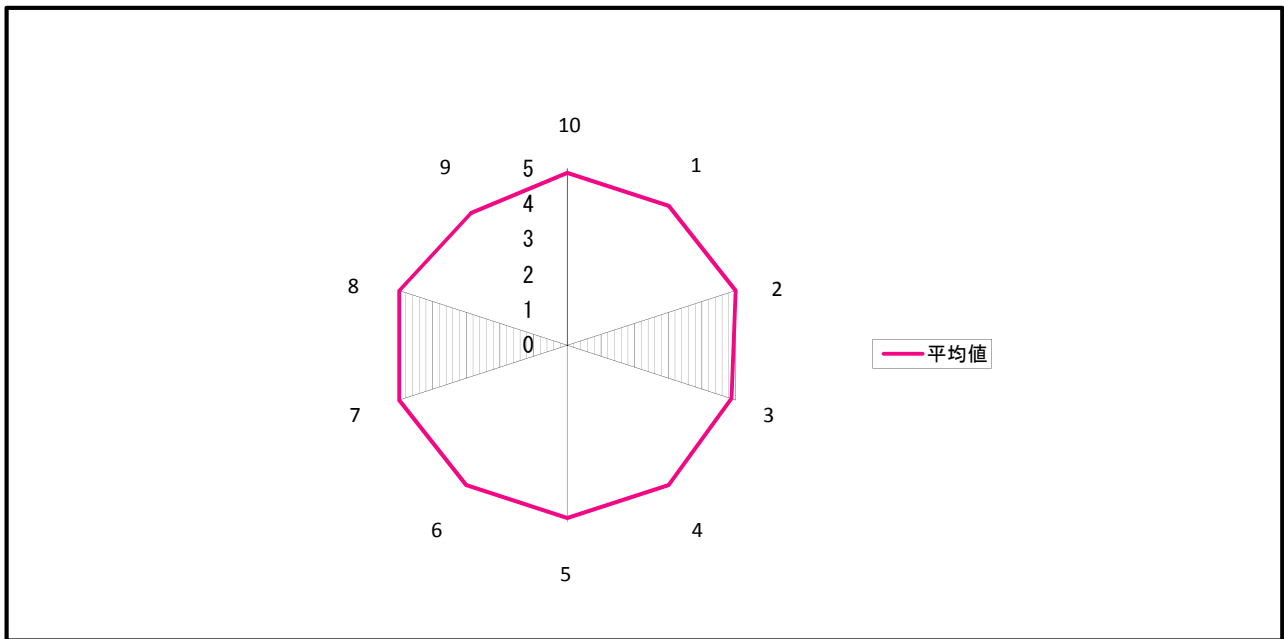
全体として、受講生の反応も良く、気持ち良く授業をさせていただきました。教師の実践力の育成につながるか否かに関しての評価が低いのは想像通りですが、10年単位の長期的視野に立った場合、今回の講義の内容は何らかの形で生きてくのではないかと、活かして欲しいという気持ちです。すでに現場で広い意味での臨床経験を積んでこられている受講生と、学部から直接大学院に来られた受講生がおられるので、理解の仕方にはばらつきがあるかと思えます。ですので、全体的な評価にも多少ばらつきがあるのも仕方がないかと思えました。途中私自身の体調が悪くなり、丁寧に話すことができなかった部分があり、それについては大変申し訳なく思っています。配布資料、視聴覚の使用については、どのようなものを求められているのかわかりにくいところもありますが、私も今後再考の余地があるかと思えます。

結果報告書

授業科目名 幼年期福祉研究
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



教員のコメント

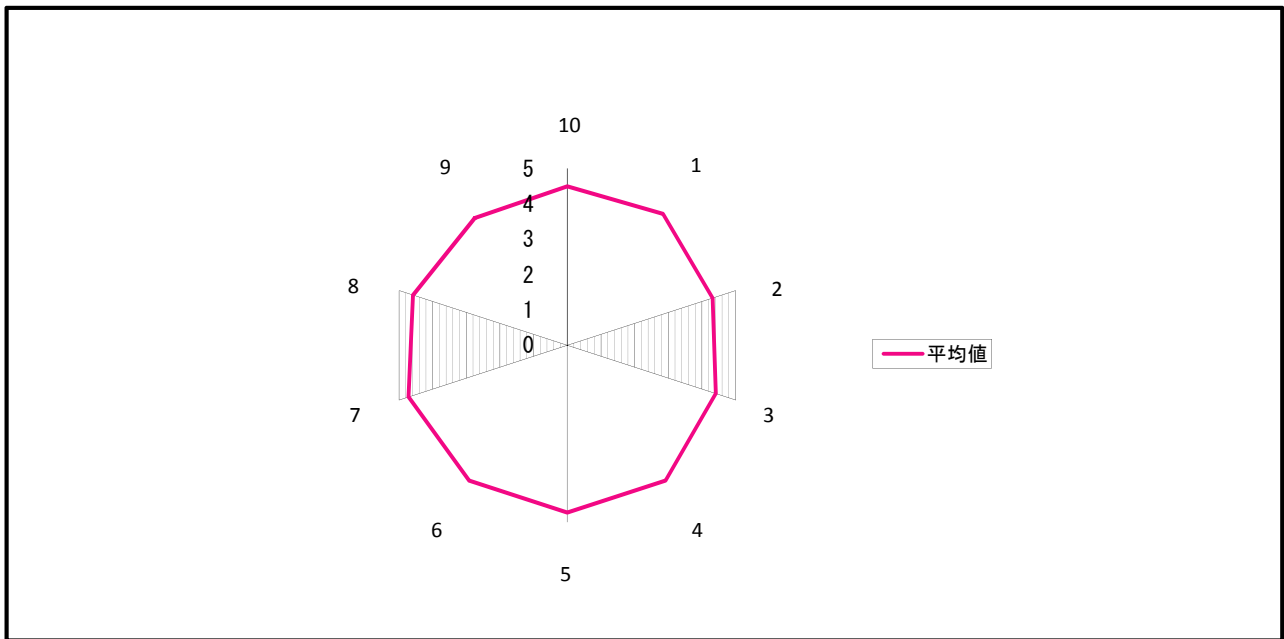
今年度も様々なコースの方が履修してくださった。アンケートを配布するのが遅く、全員にアンケートをとることができなかったことが残念である。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。また、講義科目ではあるが、対話型の授業を行っており、そのことが「授業内で毎回ディスカッションがあり、他の人の意見や考えを聞く機会があり勉強になった」「毎回全員で意見を共有することができてよかった」「皆でディスカッションすることにより、より考えを深めたり、新しい考えを取り入れることができた」といったコメントに繋がったと考える。ただ例年のことではあるが、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」と思っていない学生が存在している。教員からみると、主体的・積極的に取り組んでいない学生は存在しなかったと評価しているが、学生の中には、「自分は主体的に参加できなかった」と感じている者がいることになる。これはどういうことだろうか。次年度以降の課題として検討していきたい。

結果報告書

授業科目名 こころの発達支援研究
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 浜崎 隆司

回答者数 23 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	7	1			1	4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	7	2		1	1	4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	5	2		1	1	4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	18	2	2			1	4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	18	2	2			1	4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	17	4	1			1	4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	17	4	1			1	4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15	5	2			1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	6	1		1	1	4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16	4		1	1	1	4.5



教員のコメント

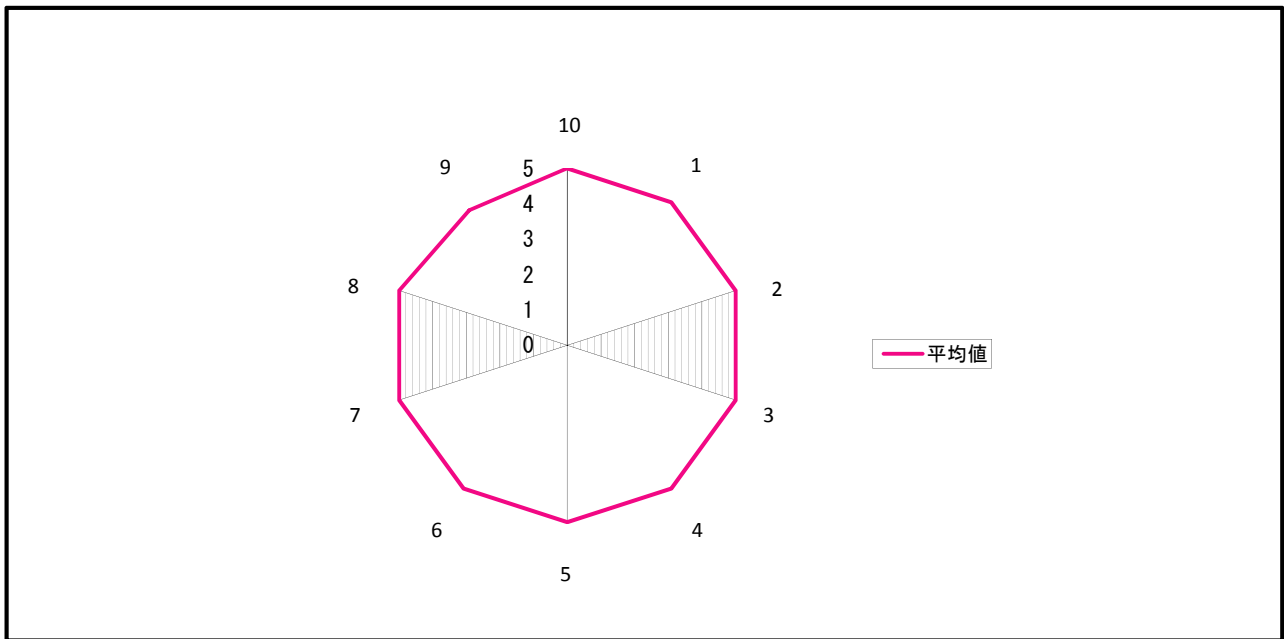
各項目において平均値が4.5前後であり、おおむね高い評価を得ていた。今年度より新しい理論(アドラー心理学・選択理論心理学等)を取り入れる試みを行ったが、説明不測のところもあり、理解しにくい受講生も数名いたことがうかがえる。特にこれまでの理論とは異なった視点からの子どもの発達観を提示したためと考えられるが、次年度以降従来の理論と比較しながらの講義内容の改善を行いたい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達心理研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 田村 隆宏

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6		1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

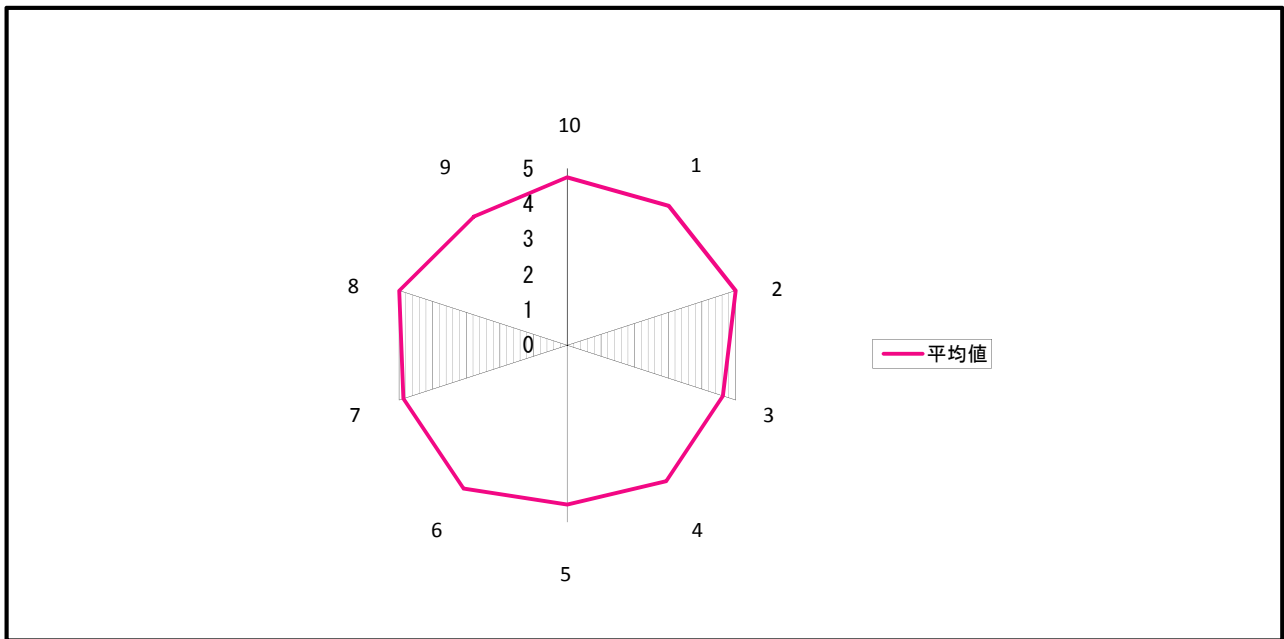
各項目の評定値をみると、ほとんどの項目が5.0であり、概ね高い評価を受けている結果となった。ただし、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」のみ4点台であったことから、この点についてさらに改善を図ることも必要である。自由記述をみると、「ディスカッションで自分の意見が言え、他の人の様々な意見を聞きながら、さらに考えを深めることができたのがよかった。」といった討論形式を高く評価する意見が多かったことから、さらにこの形式を精練させる必要があると考えられる。

結果報告書

授業科目名 幼年期教育学研究
 評価実施日 平成28年8月1日
 担当教員名 湯地 宏樹

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7		1			4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1		1		4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7		1			4.8



教員のコメント

本授業の受講者数は9人(昨年度8人)、そのうち8人授業評価の結果である。今年度も昨年度と同様に質問項目のすべての項目で「5」>「4」>「3」であった。「(5)授業進度」に「2」の評価、「(3)実践力育成」「(4)成績評価」に「3」の評価がそれぞれ1名いた。学生の授業への取り組みに関する「(9)主体性・積極性」は平均が4.5と、昨年度の4.7よりもよくなかった。

自由記述[2]のよかった点には、「わかりやすい説明」「生き生きした授業」「体験できる授業」という授業方法と、「最新(リアルタイム)の情報を知る」「子どもの遊びについていろいろ知る」という知識理解に関することと、「なるほど」と思う「広く考察を持てた」「子どもについて考えること」という思考等に関することが書かれていた。

[3]の改善点については、とくに記述はなかった。

[4]授業の参加度については、「毎回出席、レポート」「子どもとの関わりなど日常に生かすことができた」とあった一方で、「3」の評価をした受講生が「予習・復習に取り組んだのが時々だった」と回答していた。

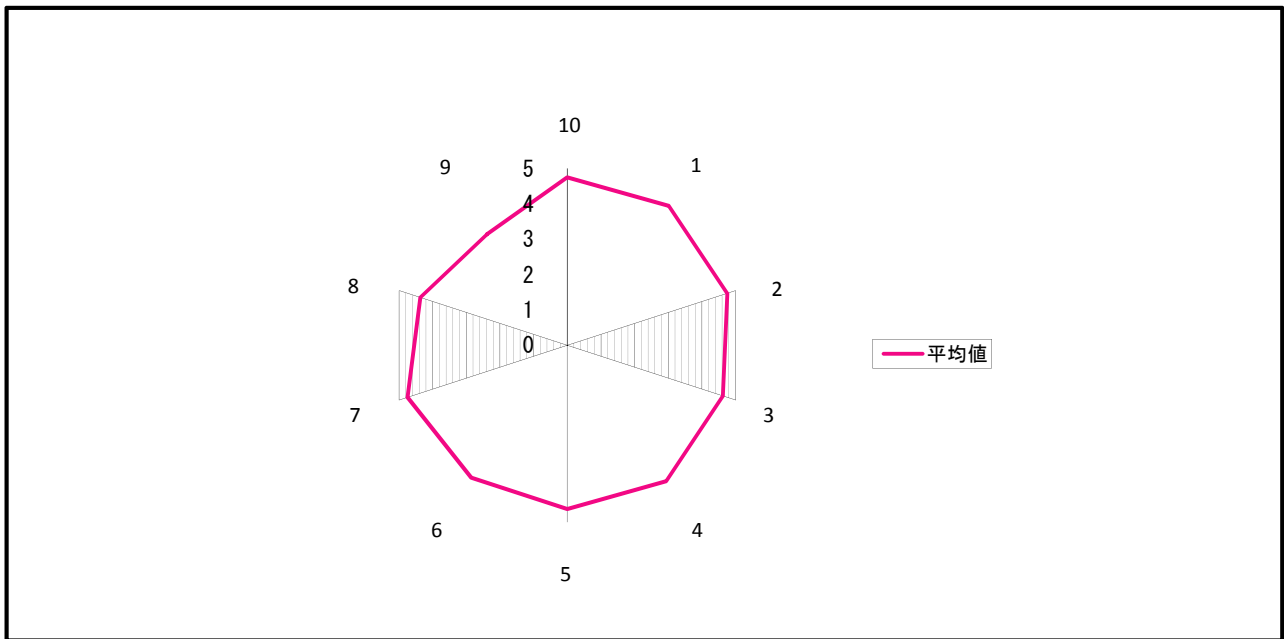
「(5)授業進度」に「2」の評価した受講生がいたように、ディスカッションやアクティブラーニングの時間を多く設けたため、授業が思うように進まなかったところが反省点である。来年度は授業計画どおりに進行するように、予習・復習も積極的に取り入れるなど工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 塩路 晶子

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	3				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	3	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	3			3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



教員のコメント

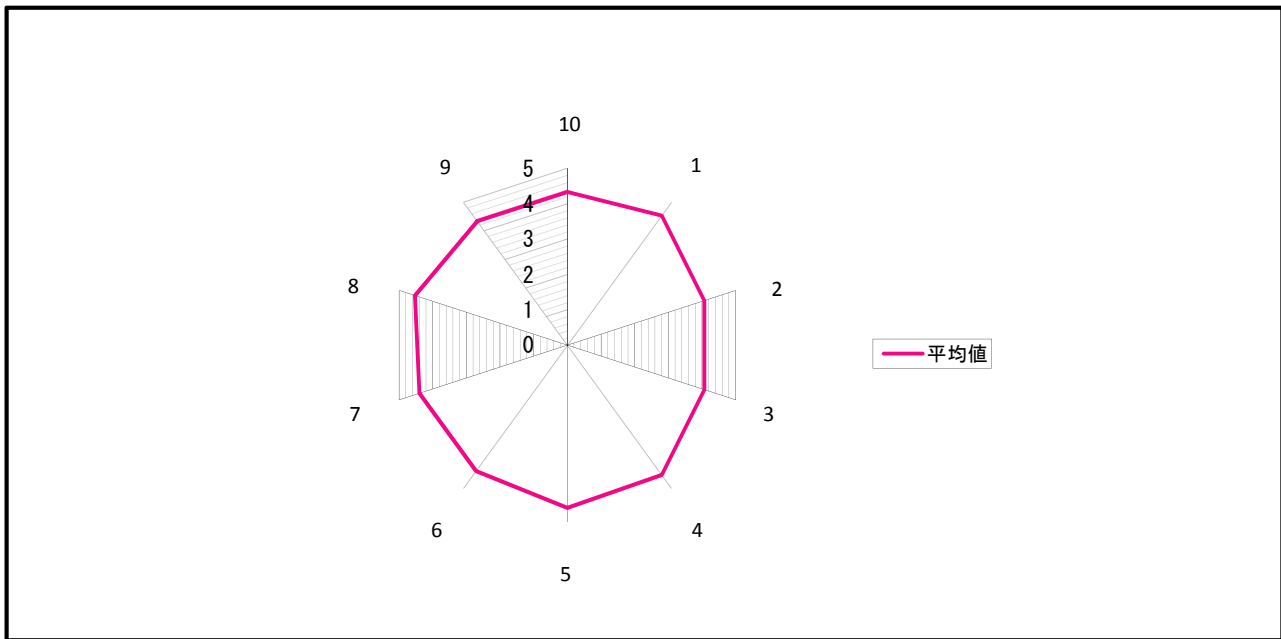
本講義は、乳幼児を取り巻く現状や、世界の幼児教育の中での日本の幼児教育の位置付けについて理解し、どのような保育内容が子どもたちにとって相応しいのか、ということについて理解することを目的としていた。その際には、日本の幼児教育の歴史や小学校との連携も視野に入れて講義を展開した。受講生からの評価を見ると、専門的知識を深めることには概ね寄与できたようであり、説明もわかりやすかったと高い評価をしていただいた。資料の提示に関しても、肯定的な意見が多かった。事前に配布した資料については予習してきた受講生が多かったと思うが、授業の進め方については、ディスカッションなどをもっと多く取り入れるなど、受講生がより主体的・積極的に取り組むことが出来るような工夫も含めて、さらなる手立てを考えたい。

結果報告書

授業科目名 文化とコミュニケーション
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 太田 直也, 金野 誠志

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	3	2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4	2	2		4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	6	1	2		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	2	1	1		4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12		3			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2	2	1		4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	2	2	1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	2	1	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4	3			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2	2		1	4.3



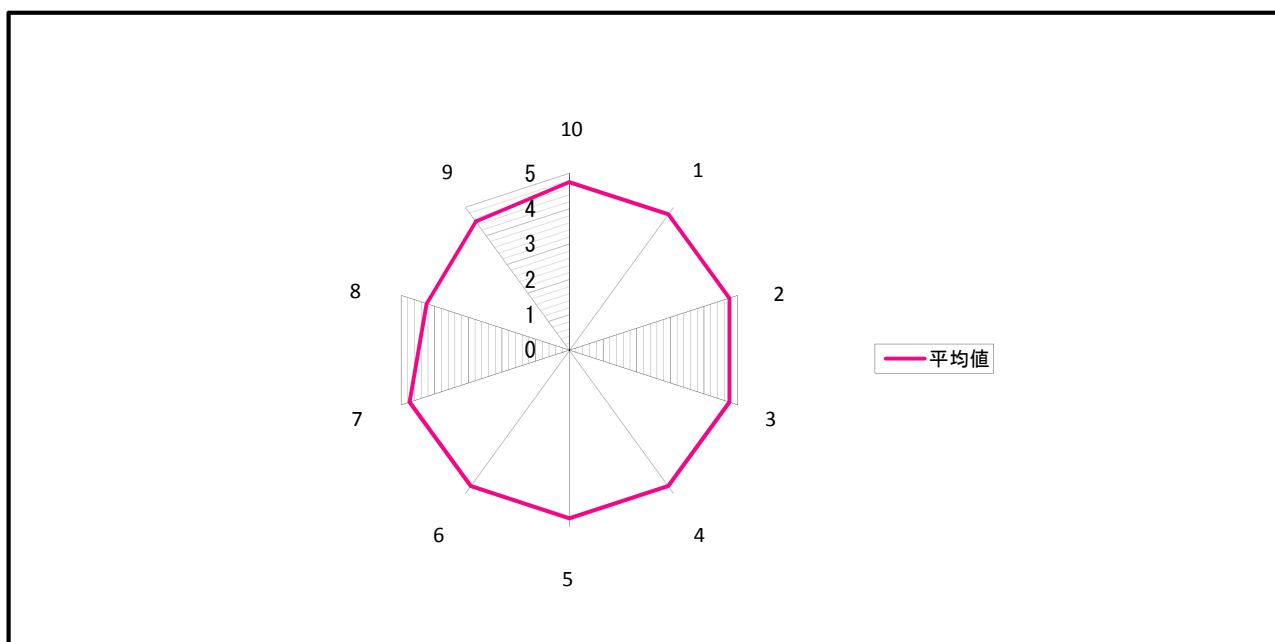
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 人間と文化 I (基礎研究)
 評価実施日 平成28年7月19日
 担当教員名 太田 直也, 金野 誠志

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



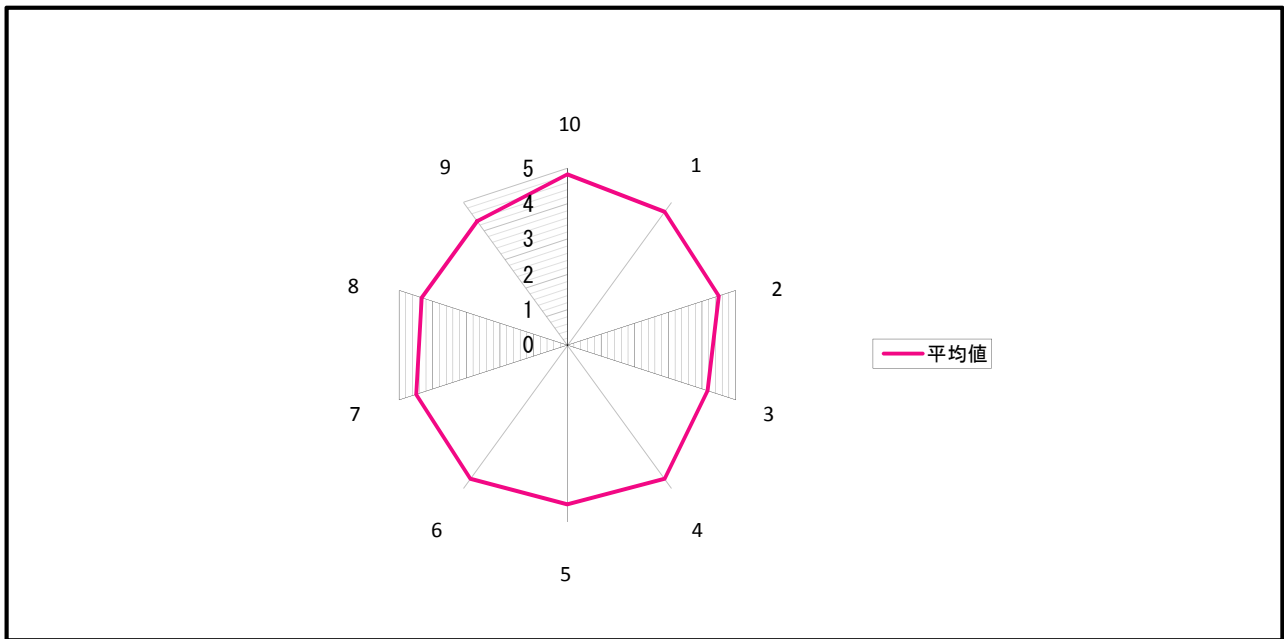
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 人間と文化Ⅱ(地域研究A)
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 太田 直也

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5		1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



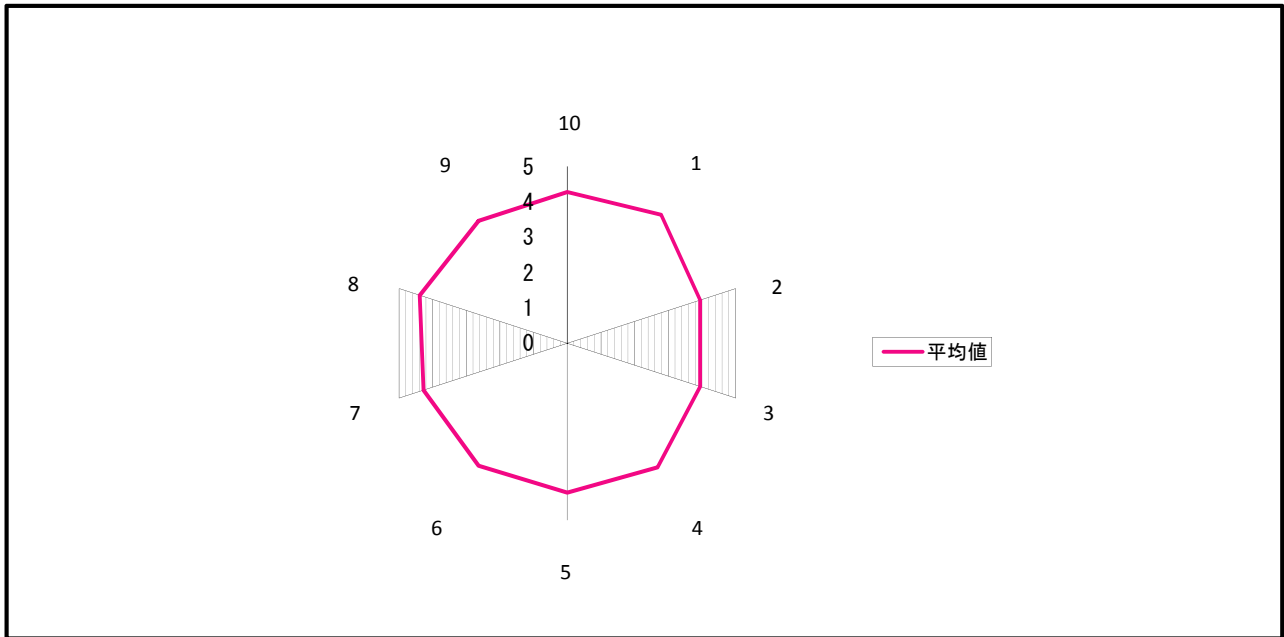
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 コミュニケーションと環境
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 金野 誠志, 谷村 千絵

回答者数 18 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	5	2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	5		2	2	3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	2	3	1	2	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	4	2		1	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	6			2	4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	5	2		1	4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	3	1		2	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	3			2	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	9	2			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	5			2	4.3



教員のコメント

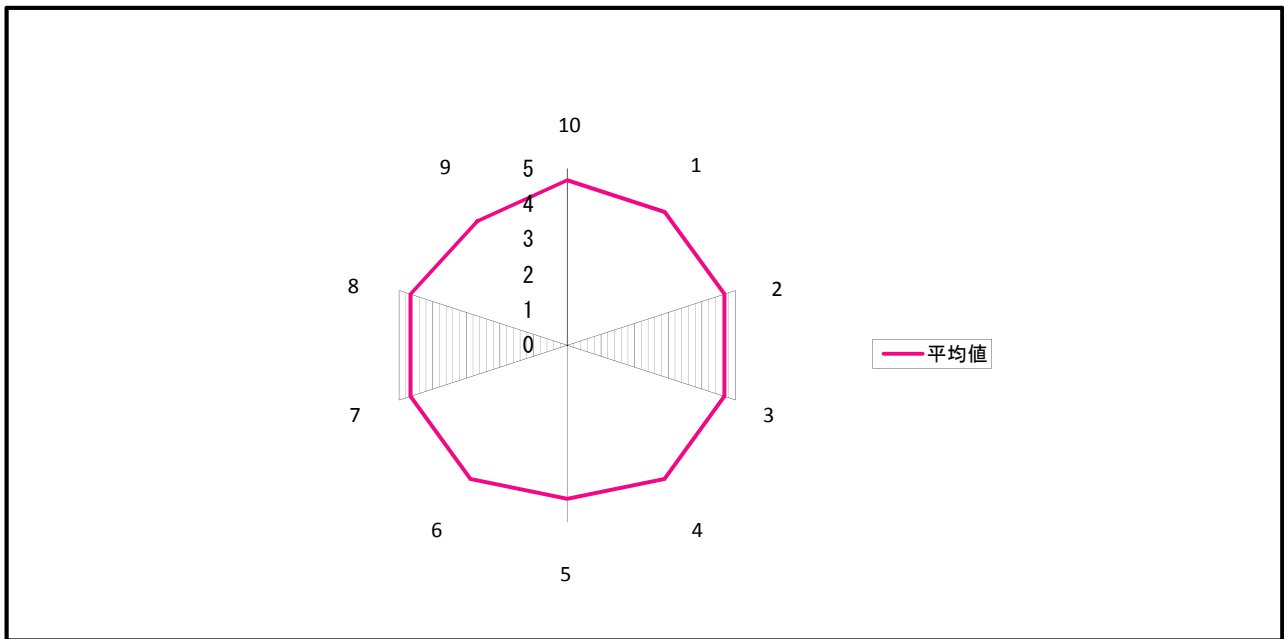
概ね肯定的な評価を得られていると考える。2名の受講者が、極端な評価をしているようだが、これは授業の選択ミスだと考える。短絡的な'How to'のスキル習得のための授業ではないことや、自分にとっての専門的知識はそれぞれに異なること、まずは自分で考えてみる姿勢が大切なことなどは、当初説明しておいたが、オリエンテーションを更に充実していくことも必要かもしれない。多岐にわたるコースの受講生がいる授業では、このようなこともおこりがちであるということも留意しておく必要がある。受講者の授業評価の仕方や授業に臨む姿勢については、授業の中で特別に時間を取るわけにもいかないため、全体でのオリエンテーションも必要かもしれない。

結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅢ(実践研究B)
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 金野 誠志, 谷村 千絵

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2		1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

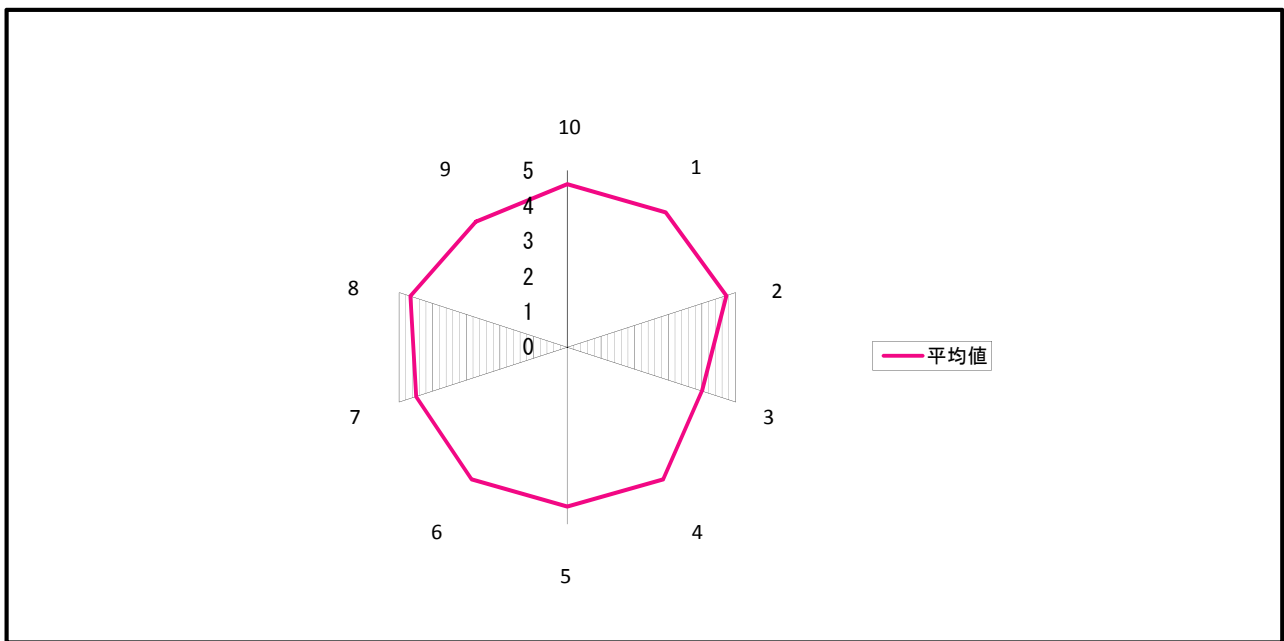
評価からすると、概ね次年度も方向性としてはこのままでよいと考える。授業の進度や主体性に関しては、個人差もあると考えるが、一層、受講者の状況を注視して進めたいと考える。

結果報告書

授業科目名 環境と文化
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 田村 和之

回答者数 18 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	5				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	5				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2	5		1	2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	4		1		4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	3		2		4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	3	2			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	4	1	1		4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	3		1		4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	6	1	1		4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	3	2			4.6



教員のコメント

まず、本授業は環境に関する知識を幅広く紹介するのが最大の目的であり、質問項目(3)の教師の実践力にはそもそも直接つながらない授業構成となっている。ゆえに評価が無い・低い回答があることは想定内である。低評価の回答もあるが、特定の回答用紙なので、本人が想像していた(希望していた)授業内容とズレがあったのかもしれない。ただし、大多数の回答は4と5に集中していることは大多数の学生にとっては講義内容は良かったものとする。

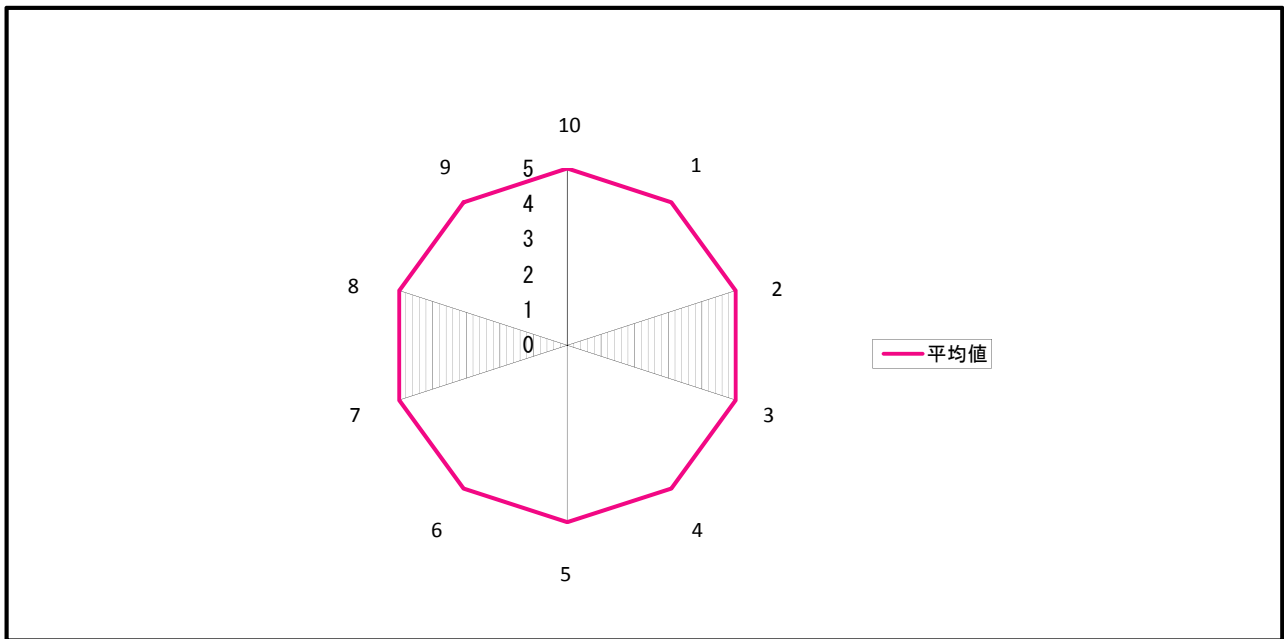
来年度も基本的には本年度同様の内容で講義を行なう予定だが、授業のペースについて、各回の内容量に合わせてもう少しうまく調整を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 人間と環境Ⅱ(実践研究A)
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 田村 和之, 近森 憲助

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

本年度は環境教育の内容について、クリティカルリアリズムを使用した理論についての授業を行ってきた。難しい内容であったが、学生(2名だけだが)もしっかりと授業についてきて、非常に有意義な授業が行えた。

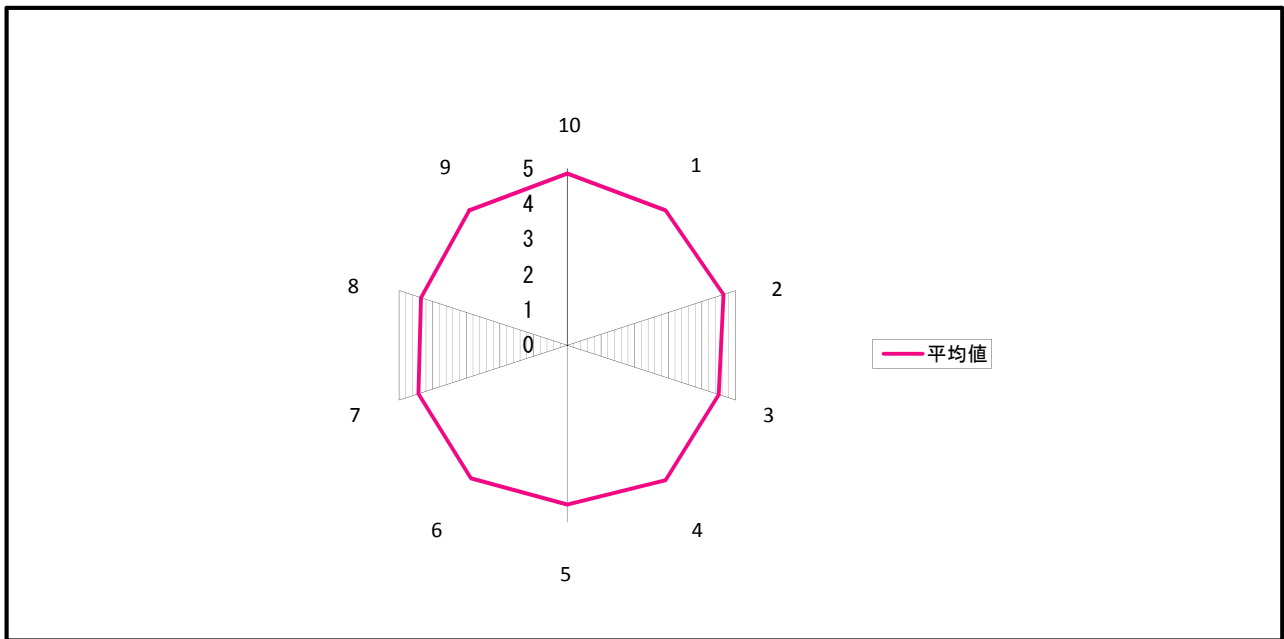
来年度も学生のためになる授業を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 現代の子どもと学校教育
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 谷村 千絵

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	4				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	5				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	5	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	2	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	4		1		4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	3	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	4	2			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	5	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13		1			4.9



教員のコメント

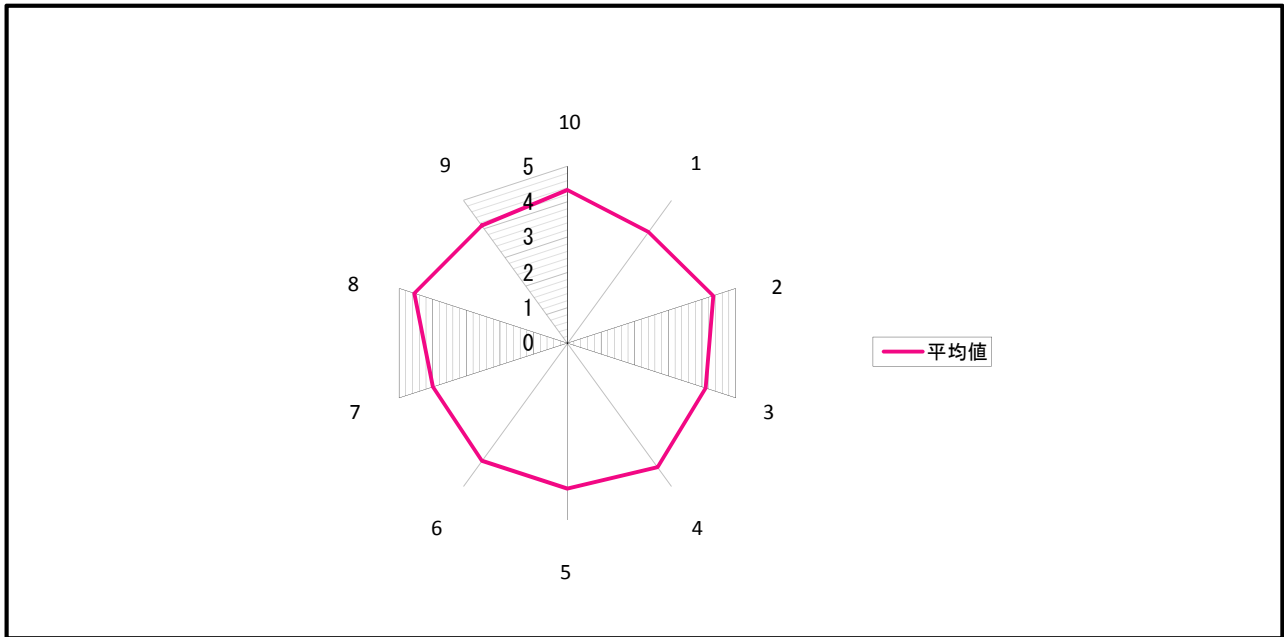
グループでの話し合い活動と、その発表、全体での哲学対話をメインに授業を構成した。「アクティブラーニング的な授業で、積極的に参加できた」「自分の変化を感じられた」等の、肯定的なコメントが多かった。授業速度について、2を記したものが1名おり、自由記述欄には、「少し遅く感じるがあった」とあった。20名弱の学生で話し合いを行うので、時間の流れの速い、遅いの感じ方には大きな個人差があると思われる。なお、話し合いの時間が遅く感じたという経験の内実は、他者の思考と交流することの刺激を、十分に受け取れていなかったというように評価もできる。わかったつもりにならないで、ゆっくり尋ねること、自分の考えも反省的にとらえなおすことについて、さらに支援できるよう心掛けたい。なお、2つのテーマ「被災後の学校、子ども、教師」と「スクールカースト」について話し合ったが、一つをじっくりやりたかったという意見もあった。来年度の参考にしたい。

結果報告書

授業科目名 現代授業メディア論(遠隔)
 評価実施日 平成28年7月31日
 担当教員名 林 向達

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3	2	1		3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4	2			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	6				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	4	2			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	2			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3	3			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	2			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	4	1			4.3



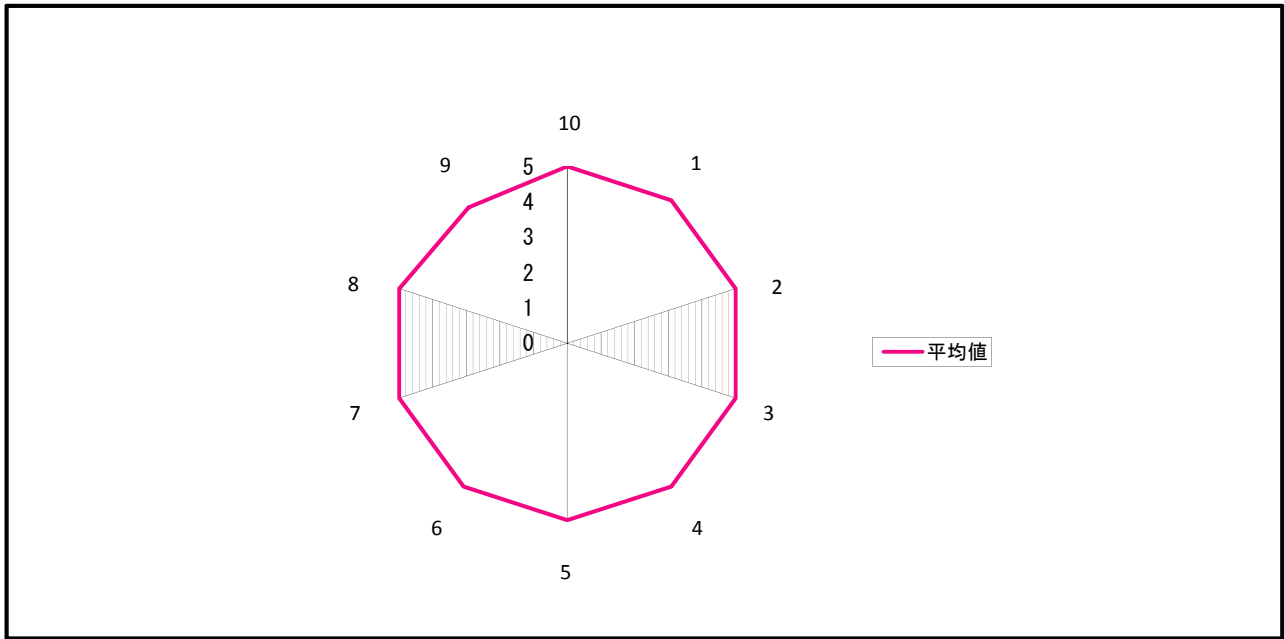
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター概論
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 井上 とも子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

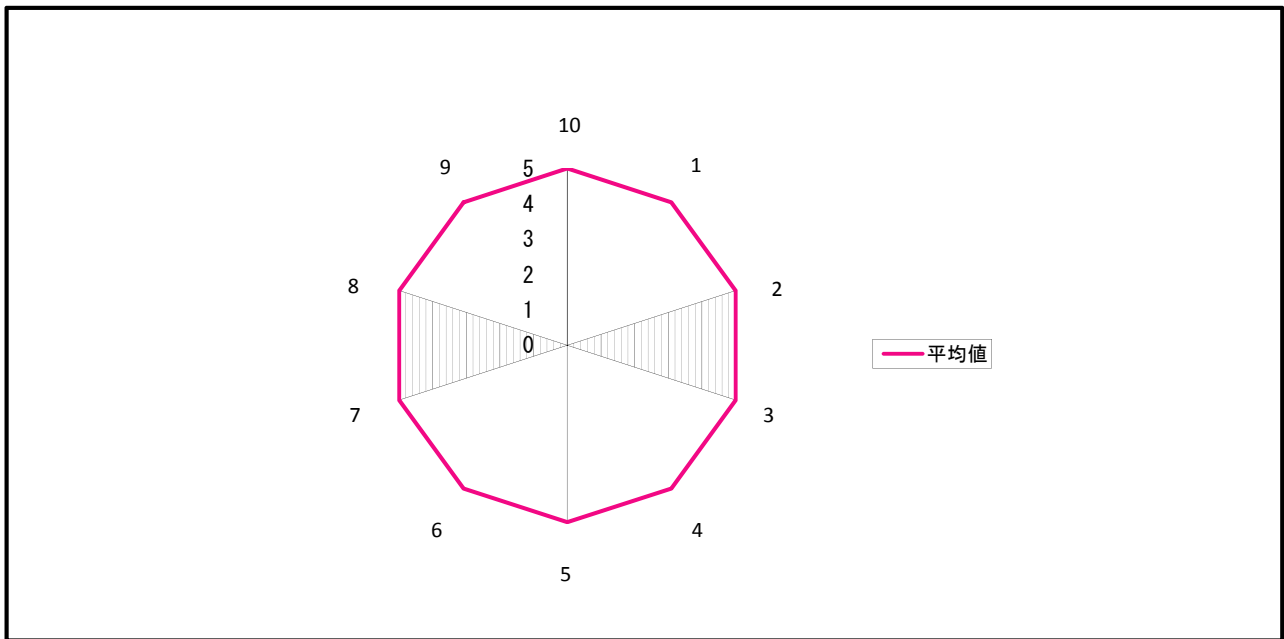
4人の受講生は共に、まじめに取り組んでおり、毎週出す課題をレポートにまとめることや、それを元に協議することにも熱心で、この授業の最後には、自分の意見を述べるができるようになり、特別支援教育コーディネーターの心構えを学べたように感じる。大学院の授業になれないせいか、協議の中でさらに学びを進めるには、批判的態度や意見も臆せず出せるようになることも大切なことと思われる。授業の評価については高い評価となっているが、授業の内容をさらに個々に深めていってくれることを期待している。特別支援教育コーディネーター養成も10年経過し、校内支援夜学校内の特別支援教育の推進に関して新しい局面を迎えている。授業については、この評価に慢心することなく、新しい情報を取り入れながら構成や内容を再考したいと考える。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実地教育
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 井上 とも子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

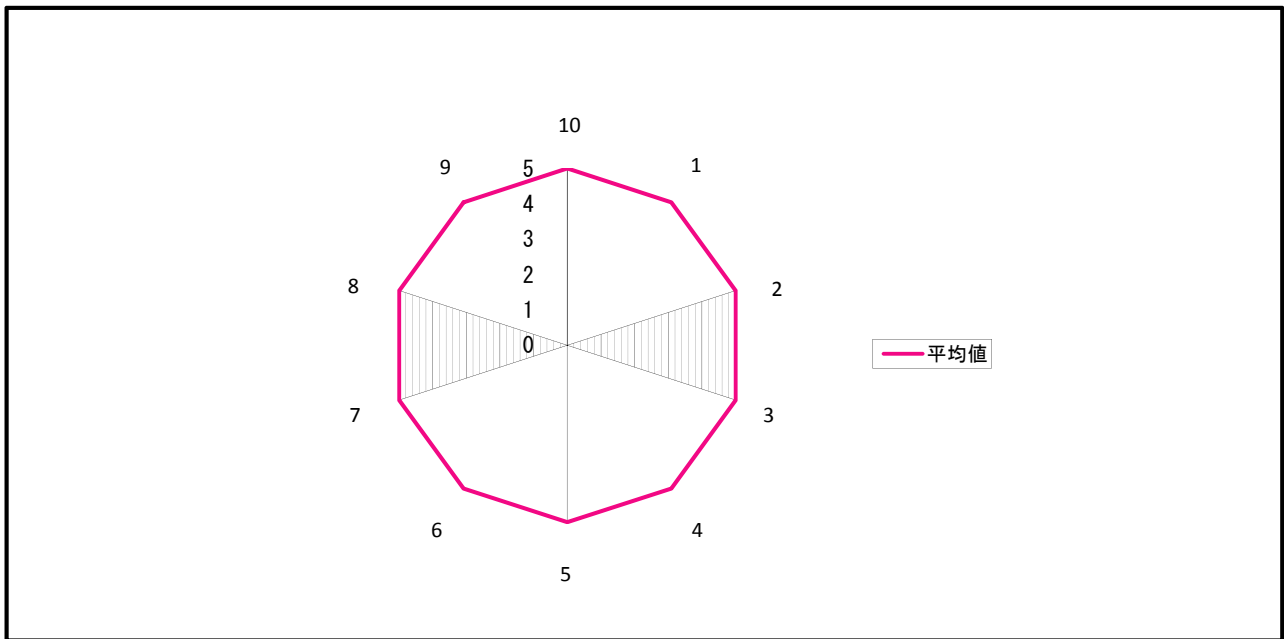
この授業は、指導実践の場でもあり、今、大学が強く求められているアクティブ・ラーニングの一つのあり方を示す授業である。そのため、授業時間の何倍もの準備の時間、カンファレンスや授業分析に費やす時間が多く、院生にとって大変負担のかかる授業である。にもかかわらず、2名共に教材作り、指導方法の検討など熱心に取り組み、授業の本質を十分にとらえた授業参加であった。現職教員である2名のここで得た「発達障害幼児の指導実践力」を、学校現場に戻ったときに大いに発揮されることを期待するものである。発達障害のある幼児とその保護者の協力の下、開くことのできる授業であるが、次年度も、協力が得られるように新たに募集し、院生から「実りの多い授業」と言われるように準備したい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論 I
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 高橋 眞琴

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3				1	5.0



教員のコメント

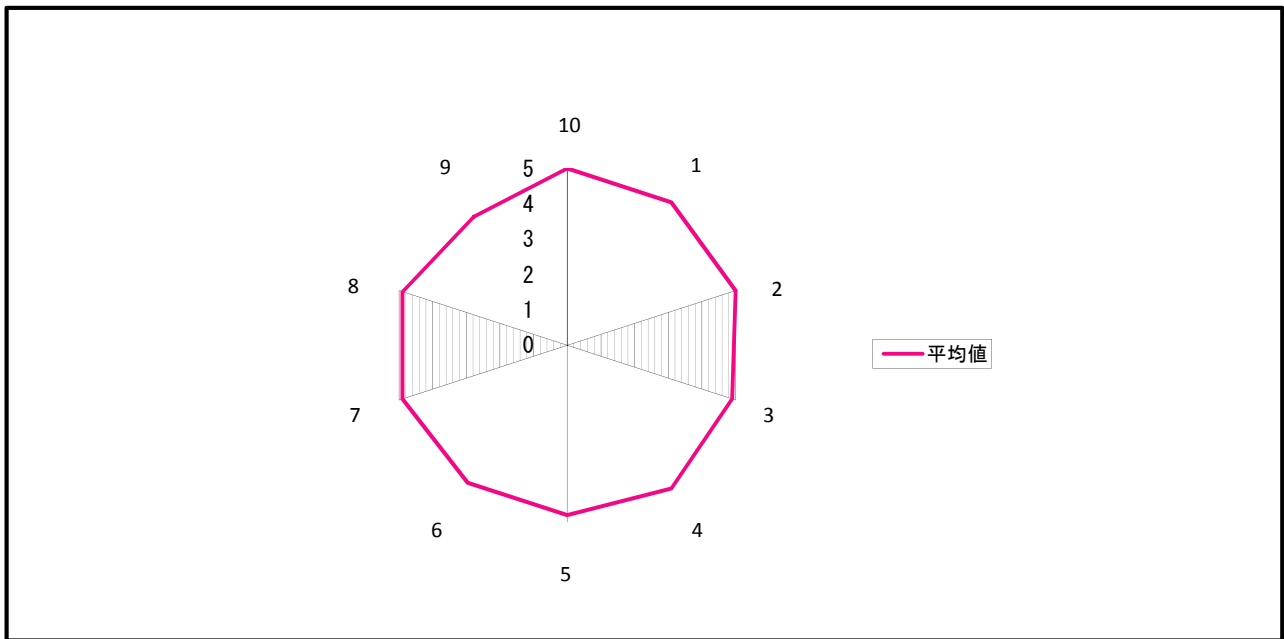
この授業では、'Disability & Society' 誌に収録されている海外論文の購読等も行ったが、「海外の文献を読み、日本の教育との相違点を学んだ。様々な視点で捉えることを学んだ。」理想的に思われているインクルーシブ教育のあまりスポットが当たられないことのない問題点など現在の話が
 たくさん聞け、考えさせられることがたくさんあった。」「少人数であったため、発表する機会が多くあり、より理解が深まったと感じる」「英語に触れられてよかった」といった肯定的な意見が全員から得られた。
 受講者は、授業時間帯以外の発表準備や発表にも時間をかけて熱心に取り組んでおり、そのことを示す感想も得られた。今後も受講生の実践や研究につながる授業内容を心がけたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 大谷 博俊

回答者数 10 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10						5.0



教員のコメント

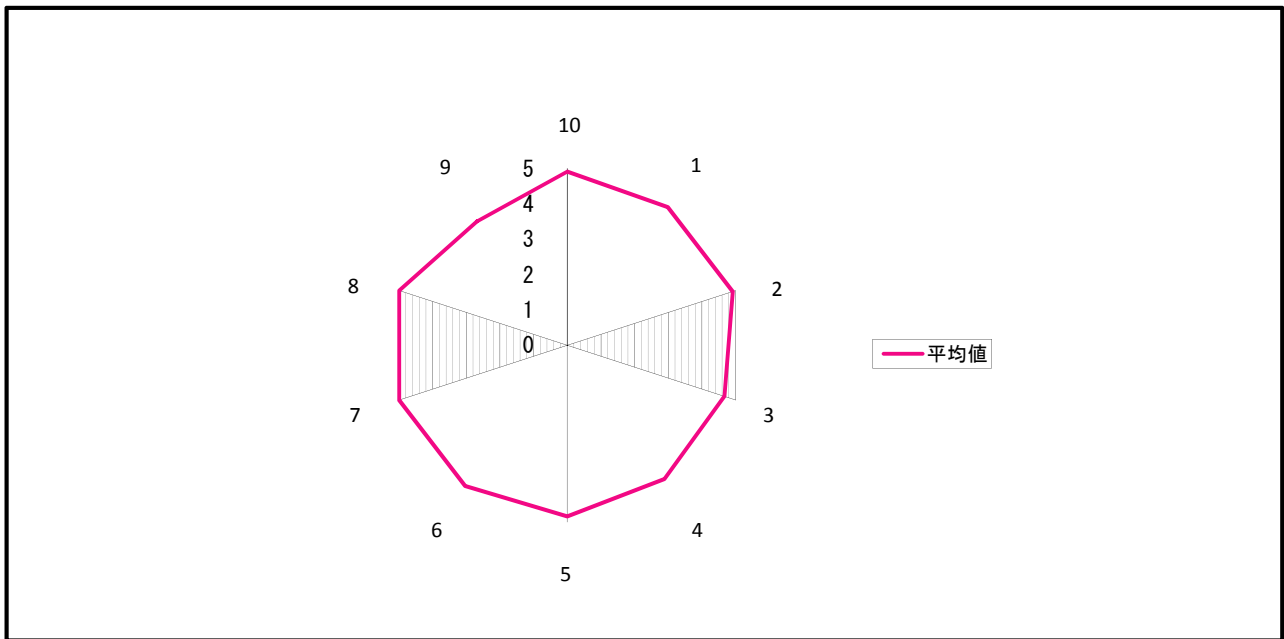
本講義に対する受講者の総合評価は、5.0であり、満足度は高かったと考えられる。中でも、授業内容に対する満足度が特に高かったと考えられる。受講者自身の授業への取り組みに関して、やや消極的であったと評価している1名の自由記述を見ると、意見を聞くことに開始したからという理由であった。本講義では、受講生同士のディスカッションを頻繁に行ったが、他者の意見を「聴き」、考察する、あるいは自身の考えと比較するなどの思考は、講義の目的に沿ったものである。今後は、その重要性についても講義の中で触れていきたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床心理学研究論
 評価実施日 平成28年7月22日
 担当教員名 高原 光恵

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	1	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	1					4.9



教員のコメント

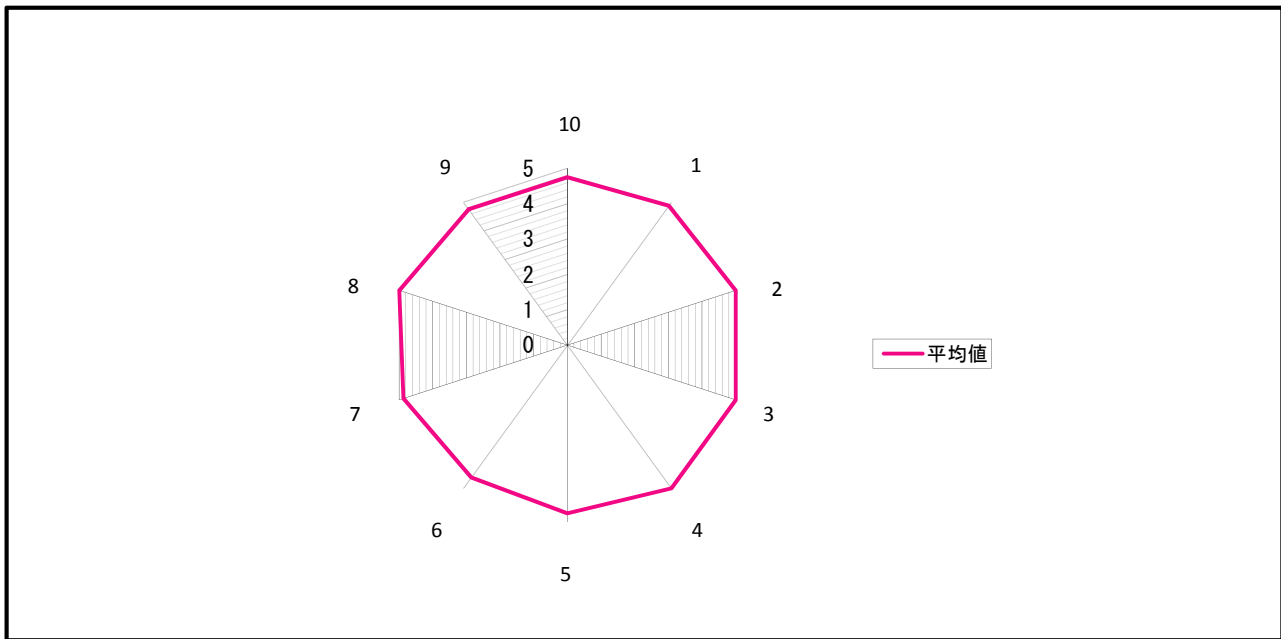
この授業に対する評価は概ね高かったが、その具体的な理由は自由記述から推察される。テーマ毎にグループディスカッションを取り入れていたため、講義から受ける基礎的な情報だけでなく、様々な経験・知識を持つ互いの意見を知り、能動的に学び合う機会となっていたことは大きい。また、講義で紹介されるものの実物や、テーマに関連する当事者からの情報など、より具体的な情報・体験が印象的だったようである。これらのことから、今後の授業でも、より主体的に能動的に学べる形の授業進行となるよう工夫していくことを心がけた。また、授業担当者からは、いずれの受講生も積極的に授業に臨んでいたように見えたが、問9の評価が低い受講生もいた。自由記述の中に、自分なりに考え、理解を深めようと努めていたが、「発言回数が少なかったため」とあった。外から観察される行動からは積極性がわかりにくい、あるいは消極的とみなされる行動に対して自ら解釈・評価した結果であり、数字には反映されないが、積極的に取り組んでいたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習心理学研究論
 評価実施日 平成28年9月25日
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7		1			4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7		1			4.8



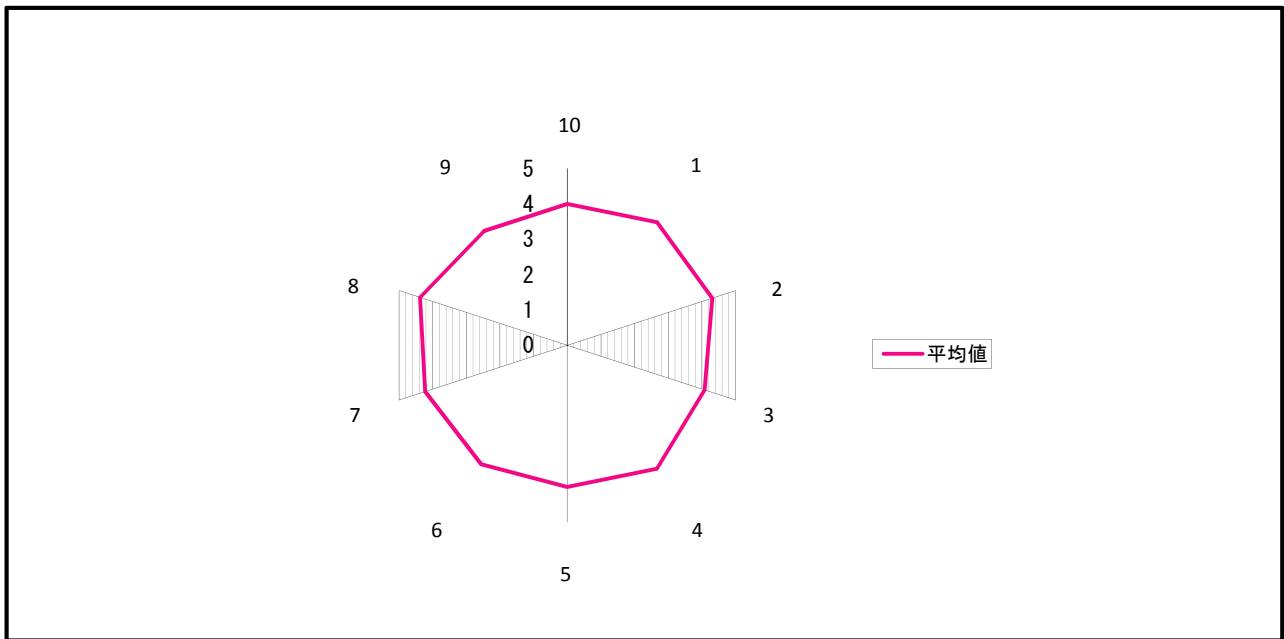
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 発達障害児病理・病態生理学研究
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 田中 淳一

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	4	1	1		4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5			1	4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2	2	2		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	3	1		1	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	4	1	1	1	4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	3	1	2		4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2	1	2		4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	3			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	2	2		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	4	1	1	1	4.0



教員のコメント

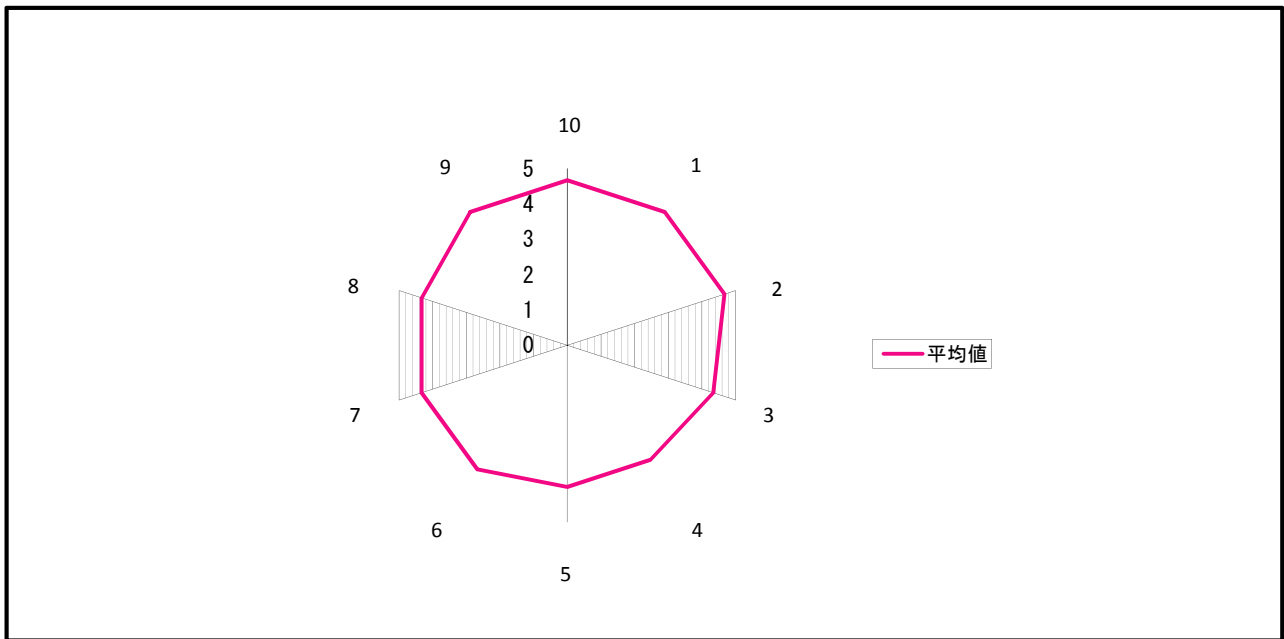
総合評価は4.0であり、ある程度の授業ができたものと考えられるが、更なる努力が求められているように考えられる。特に項目「授業に主体的、積極的に取り組んだ」「授業の進む早さは、適切であった」および「教師の実践力の育成につながる内容であった」において点数が低かったことから、積極的に参加する様に指導する必要があることが指摘されている。授業中における質問等を多くして、改善をはかりたいと考えている。また、授業内容については専門性が高いだけに、丁寧な説明を行い内容の理解を深めるように授業内容についての改善が望まれている。本年度は、体調の関係で補講が多かったが、他の授業と重なり満足に受講できなかった学生からの苦情があった。来年度は気をつけるようにする。全体的には、総合得点を上げるように努力したいと考えている。

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論 I
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 原 卓志

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

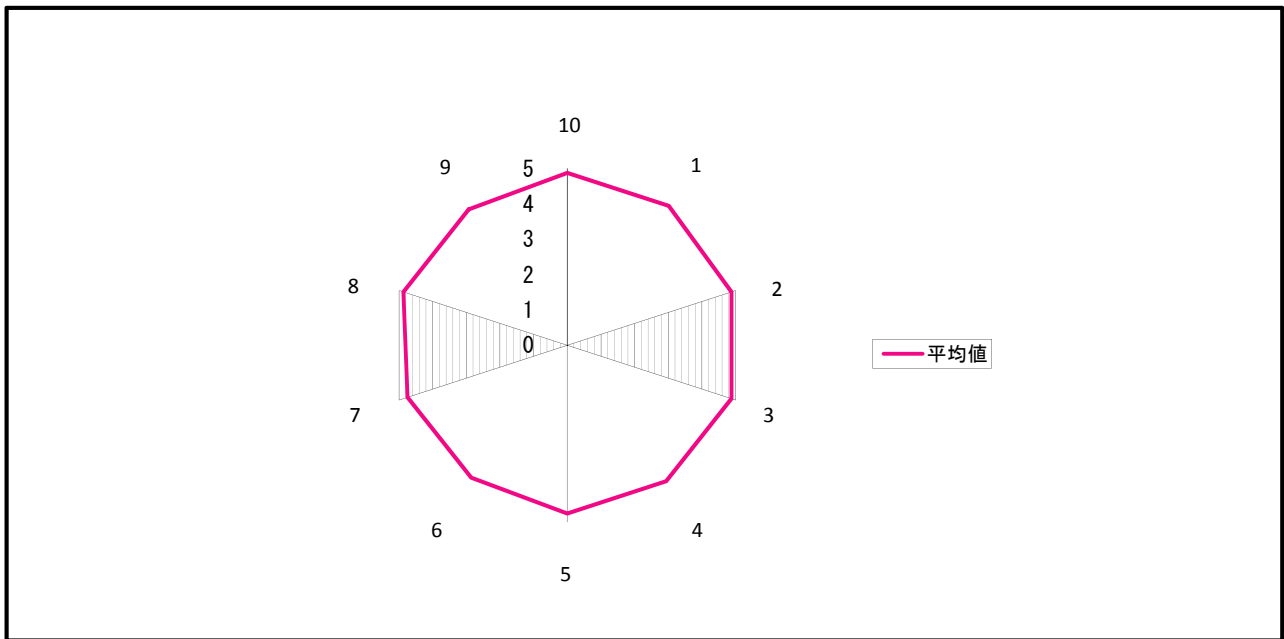
「言語教育基礎論Ⅱ」担当の英語コース担当教員との合同授業で、日本語・英語を取り上げて、言葉に関する問題を様々な面から考究した。授業担当者による話題提供では、他の授業担当者も加わったグループでの話し合いや作業を取り入れて授業を進めた。また、受講生による研究プレゼンテーションを行い、全員が、言葉について主体的に研究する場を作った。
 本年度の受講生は、3名と少なかったことが残念であったが、英語の学生とともに、和気藹々とした雰囲気の中で、授業を進めることができた。良かった点として「自分の考えの甘さを再確認することができた。英語の方と同じ授業を受けることで、自分の考えもしないような角度でものごとを考えることができた」という、合同授業ならではの意見が寄せられた。

結果報告書

授業科目名 日本語 I
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7		1			4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7		1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



教員のコメント

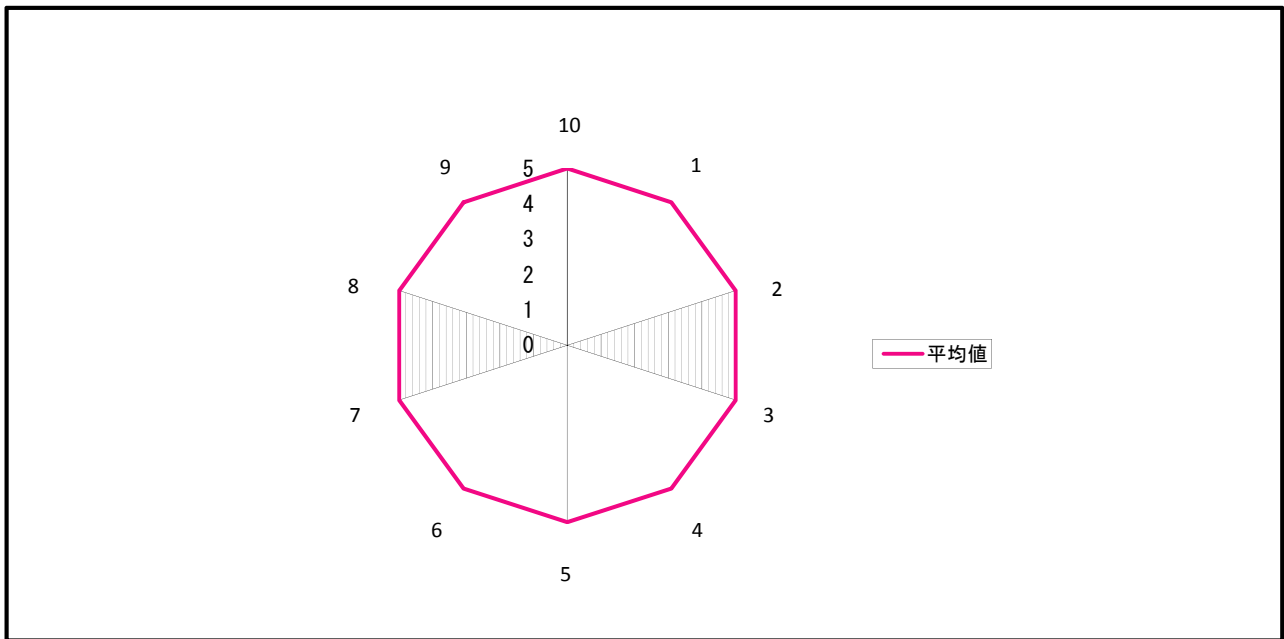
本授業では、本学で学ぶ留学生たちに、「グループで互いに協力し合える能力」、「データの収集やまとめを適切に行える能力」、「自分たちの考えを支持する証拠を探し出せる能力」、「自分たちの考えを日本語で適切に表現できる能力」等を身につけさせることを目的として、演習発表形式のスタイルを採った。参加者は10名(大学院留学生の履修1名、研究生の留学生の聴講3名、学部留学生(特別聴講学生)の聴講5名、日本人学生の聴講1名)であった。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「授業間でじゅんびする時間がある、とてもよかったです。もし、分からないところがあったら、すぐ聞けます。とてもよかったですと思います。」(原文ママ)、「留学生向けの授業だから、先生が話す時、スピードがそんなに速くないし、黒板で何かを書く時、ちゃんと平仮名をつけていて、とてもわかりやすかったです。」(原文ママ)など、授業の進め方や留学生の理解を助けるための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた(N1レベル～N3レベル)ため、全員のニーズに応えることは難しかったのであるが、できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう、今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名 日本語Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 妹尾 春子

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

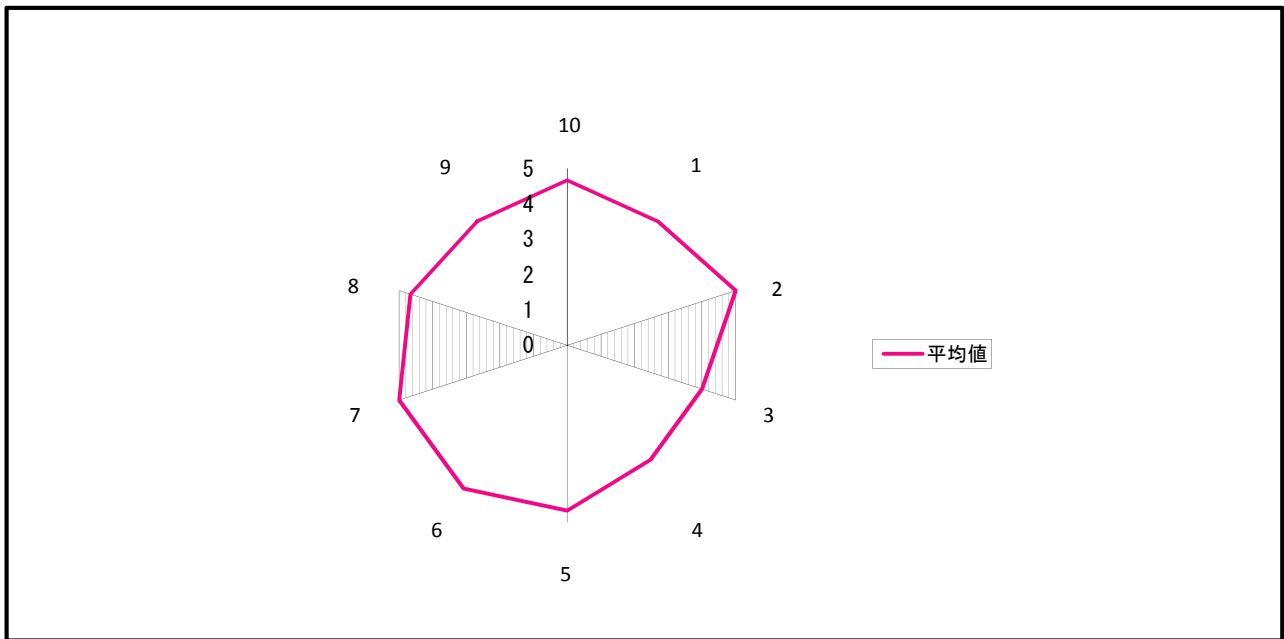
この授業は院生1名と特別聴講生5名の計6名が参加していた。
 授業では、青木保著「異文化理解」という本を読み進めながら、日本人の異文化に対する接し方や、とらえ方を見つけ出し、それに対する筆者の主張や考え方について皆で話し合い、理解を深めるようにした。授業の進め方は、学生の発表を主とした。発表担当者が自分の担当箇所の文章を読み、内容を聞き手に分かりやすく説明できるかどうかを評価した。理解が難しい文章もあったが、学生たちは大意をとらえ、自分たちの意見を交えながら工夫して発表していたのがよかったと思う。タイ、中国、内モンゴルの学生だったため、自分の国の異文化理解とも比較する意見が出たことは大変面白かった。
 授業後の学生からの要望には、「もう少し新しい本が良かった」「ディベートをもっとやりたかった」「内容が少し難しかった」などの声があった。今回は留学生用のテキストではなく、日本人母語話者が読む新書をはじめて使用してみた。不備も多々あったと思うため、これら学生の意見は今後の授業活動の参考にした。

結果報告書

授業科目名 日本古典語研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 原 卓志

回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	1				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1					4.7



教員のコメント

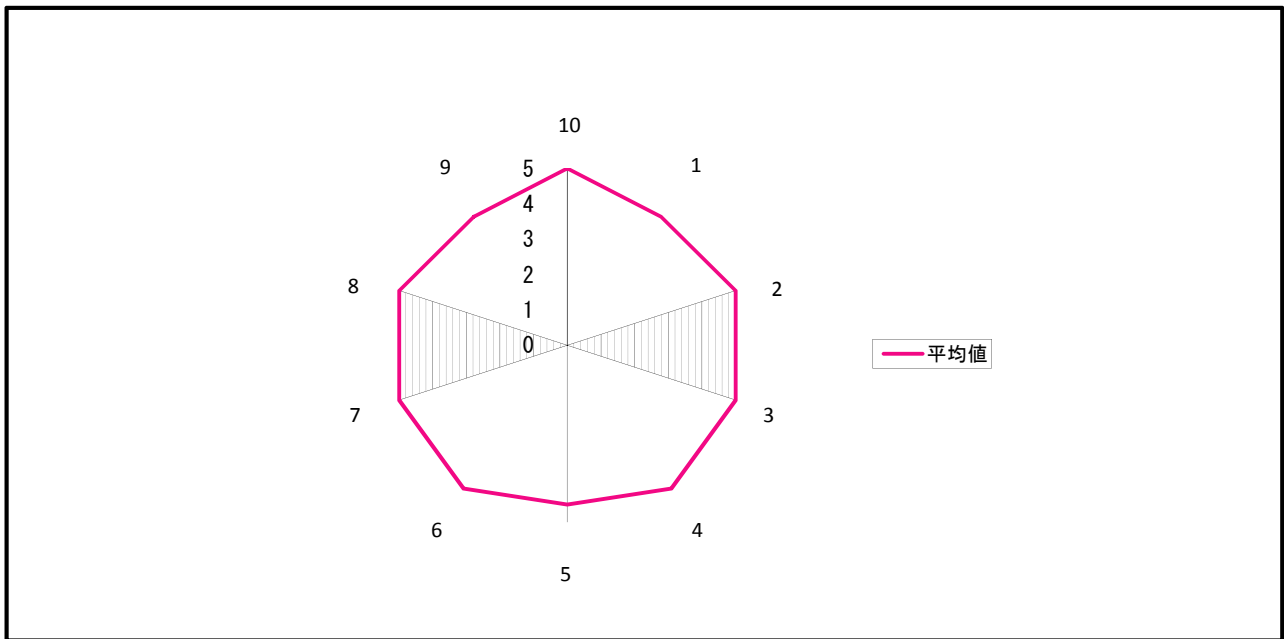
昨年度後期から引き続いて、小松島市の国伝山地蔵寺に伝存される『異船一條井大小名等諸事傳聞障而已之記』を取り上げて解説を進めた。
 本年度は、昨年度までに履修していた学生が居らず、くずし字読解に初挑戦する3名で読解することになったが、分からないなりに、文脈から文字を推測しつつ、読み進めていった。
 受講生からは、「他の受講生たちと協力して、読み進めることができ、楽しく受講できた」「気になっていたくずし字について、知ることができた」「全く持っていなかった知識を獲得することができた」といった、好評価を得ることができた。そして、「全く読まなかったものが少しずつ読めるようになって、おもしろく、予習するようになった」などと、主体的に取り組む姿も見られた。
 改善すべき(?)点としては、「受講生の数を増やすこと」という指摘がなされたが、この問題をどのように改善すべきなのか、思案のしどころである。

結果報告書

授業科目名 現代日本語演習
 評価実施日 平成28年9月15日
 担当教員名 田中 雅和

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

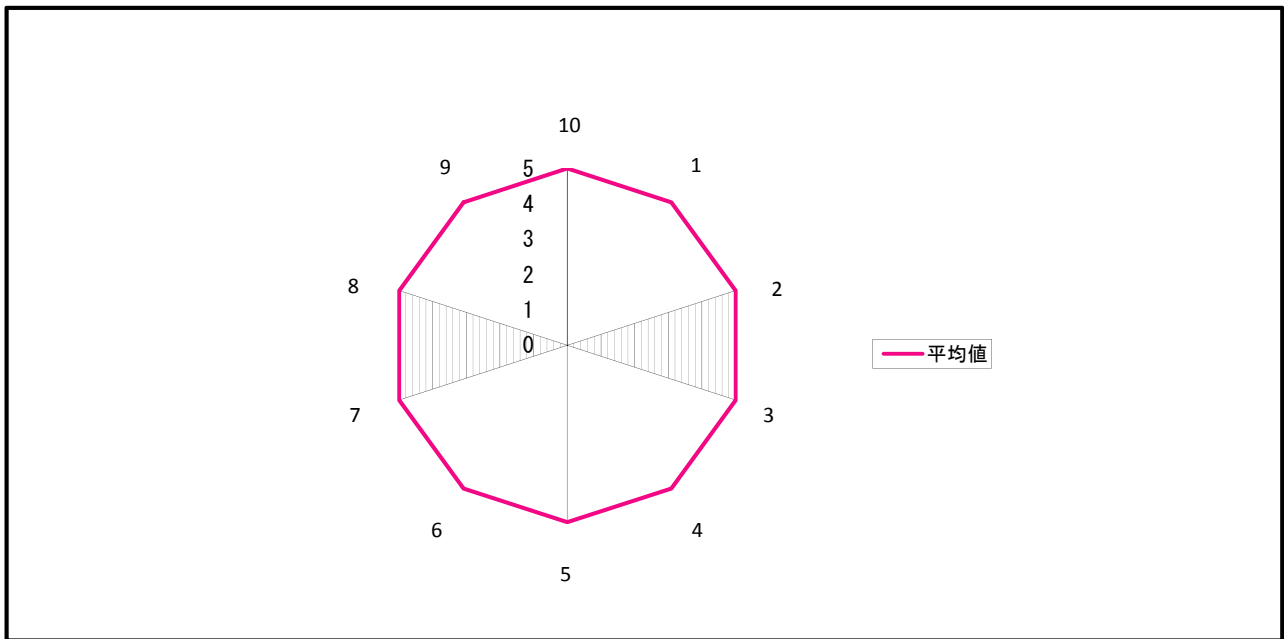
良い評価が得られて安堵しています。
 教科内容の専門的な知見や研究方法等が、国語科教育に携わる者の基本的な専門知識として重要で、教科教育に不可欠・有用であることを実感する契機にもらうことが目的でした。日本語の実態を把握するために、その生成と発展とを歴史的に跡付け、その特質を究明し、内容学としての「国語」の基礎を意識しながら、諸言語事象について考究してもらいました。何某かの成果があったとすれば、受講者のお二人が、極めて真摯に真面目な姿勢で、意欲的に取り組んで下さったお蔭だと思います。今後に活かされ、教員としての資質能力をより高めて、ご活躍なさることを期待しています。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究 I
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 黒田 俊太郎

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

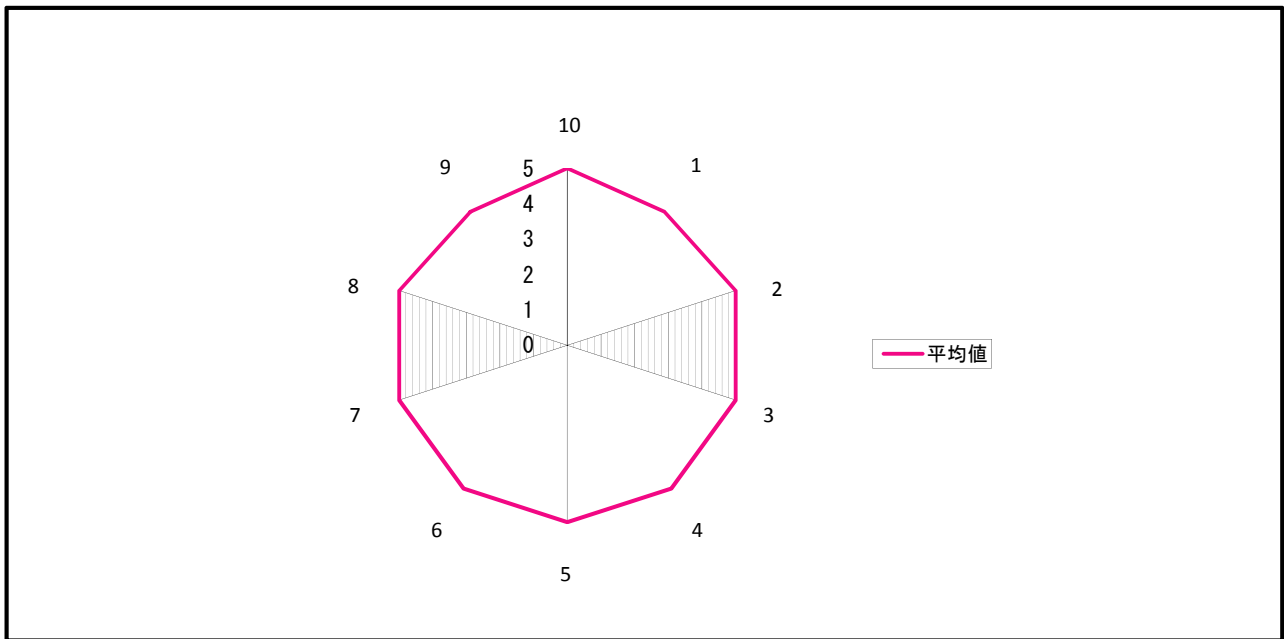
全ての項目において高い評価であった。今後もさらなる授業改善を心がけながら授業を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 小島 明子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

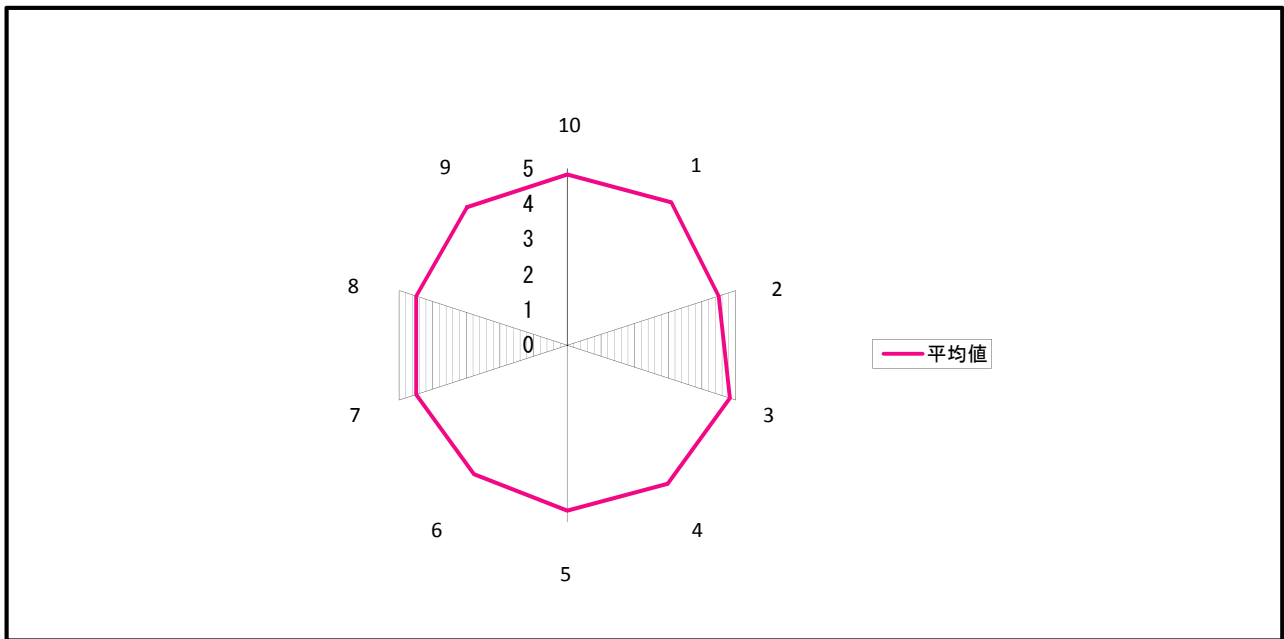
今回のこの授業は、受講者がわずか3名であったため、個々の院生の能力・理解の状況に常に目配りをしながら、授業を進めることができたため、全体として授業の評価が上がったと思われる。
 ただ、院生の古典分への知識が極めて低く、その分、やや到達点を低いところに設定せざるを得ない面も生じてしまい、その点をさらに底上げできるように工夫が必要であろうと考える。

結果報告書

授業科目名 日本語教育学研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 小野 由美子

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

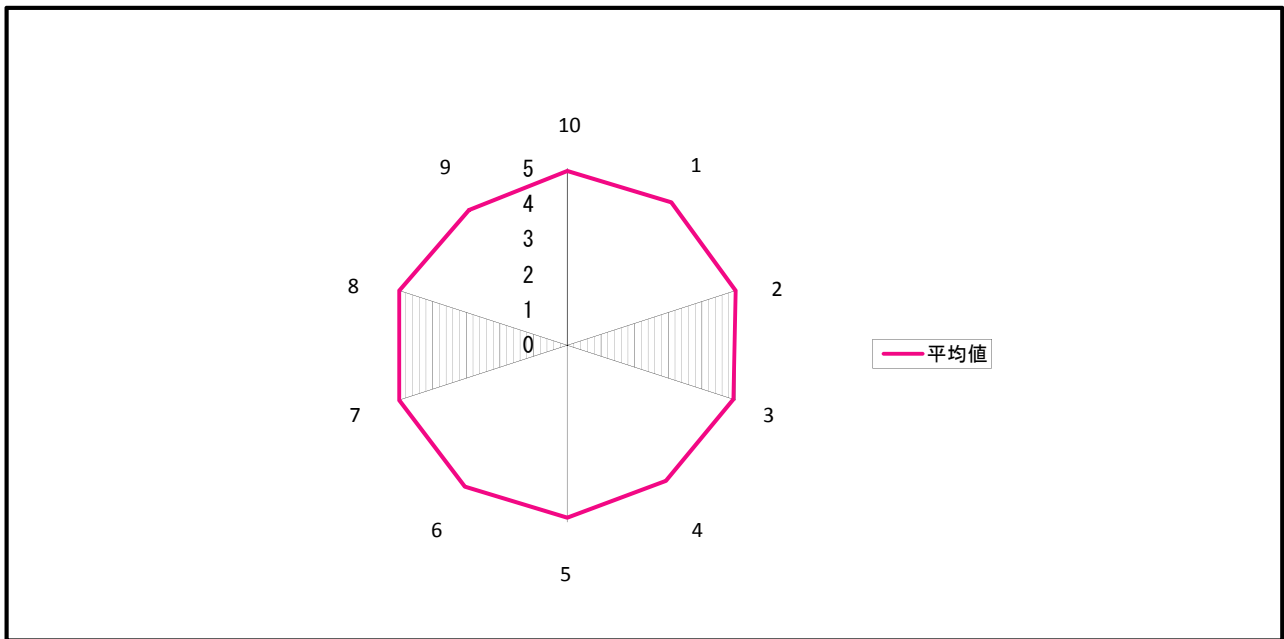
受講生は少人数ではあるが、各評価項目は4.5以上、総合評価(10)も4.8と院生も高い評価を下していると言える。また、授業への主体的取組(9)も4.8と自己評価が高い点は、授業者も達成感を覚える。授業概要(1)5.0、成績評価(4)4.8についての評価が高い点も授業趣旨をよく理解してくれていると言える。資料(7)機器(8)についてはもう少し改善の余地がありそうである。

結果報告書

授業科目名 社会言語学研究
 評価実施日 平成28年8月9日
 担当教員名 永田 良太

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	15					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13		2			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	2				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	15					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	1		1		4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	1				4.9



教員のコメント

本授業は、発話の解釈およびボライトネス理論の観点から、普段無意識に使用している日本語について意識化するとともに、日本語教師として必要な語用論的知識を身につけることを目標とした。留学生や様々なコースからの受講生も多く見られたが、前述のような授業目標を達成する上で、日本語教育を専門とする日本語教育分野の学生の積極的な授業参加に加えて、留学生や他コースの学生からも積極的な発言を得たことは有意義であった。参加留学生の母語である中国語と比較することで、日本語の語用論的特徴が一層明らかになるとともに、日本語学習者としての視点からの発言により、習得上の問題点を確認することができた。また、他コースの受講生からは、それぞれの専門的観点からの意見が出され、議論を深めることができた。

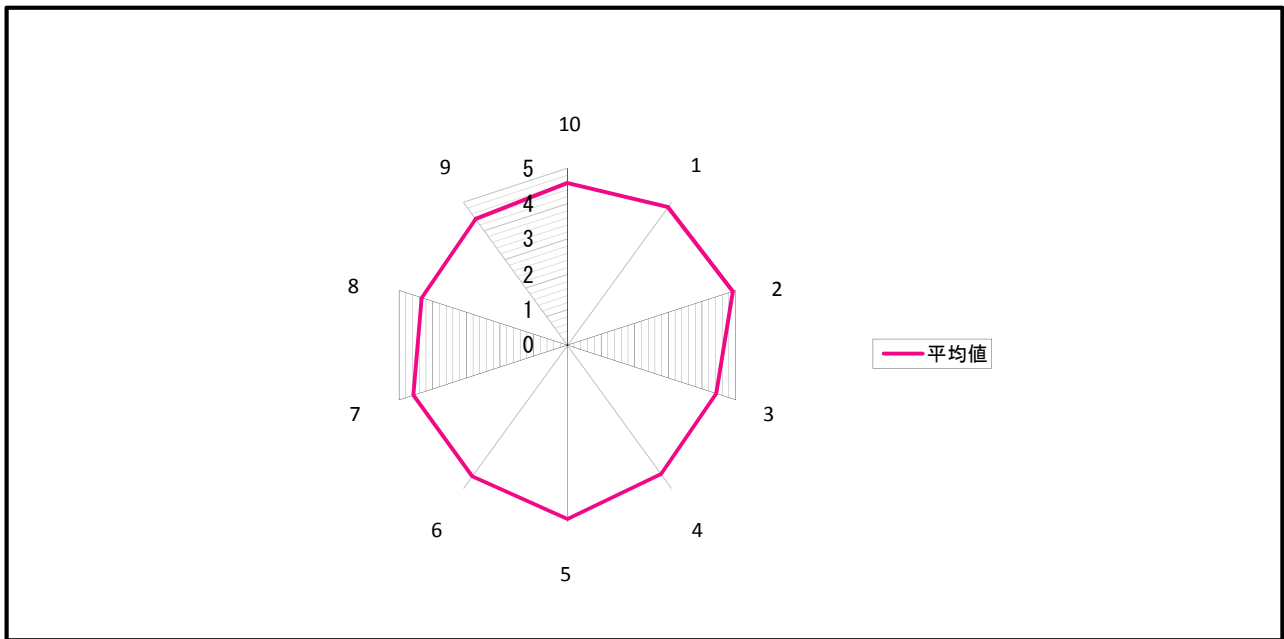
今回の評価結果を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は、成績評価の観点をさらに明確にするとともに、授業の進度や受講生の主体的な取り組みを促すことにも留意しつつ、さらなる授業改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名 対照言語学研究
 評価実施日 平成28年8月25日
 担当教員名 山川 太

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	2			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2	2			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	5				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	5				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	6	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5				4.6



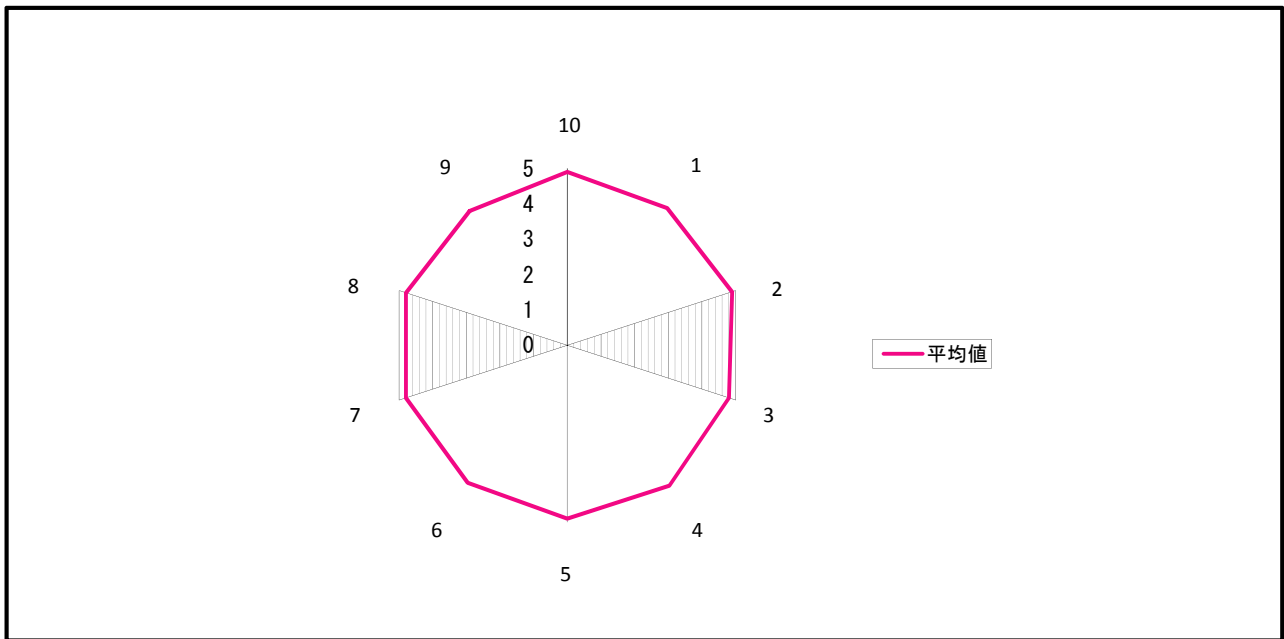
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 日本語文法研究
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9		1			4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



教員のコメント

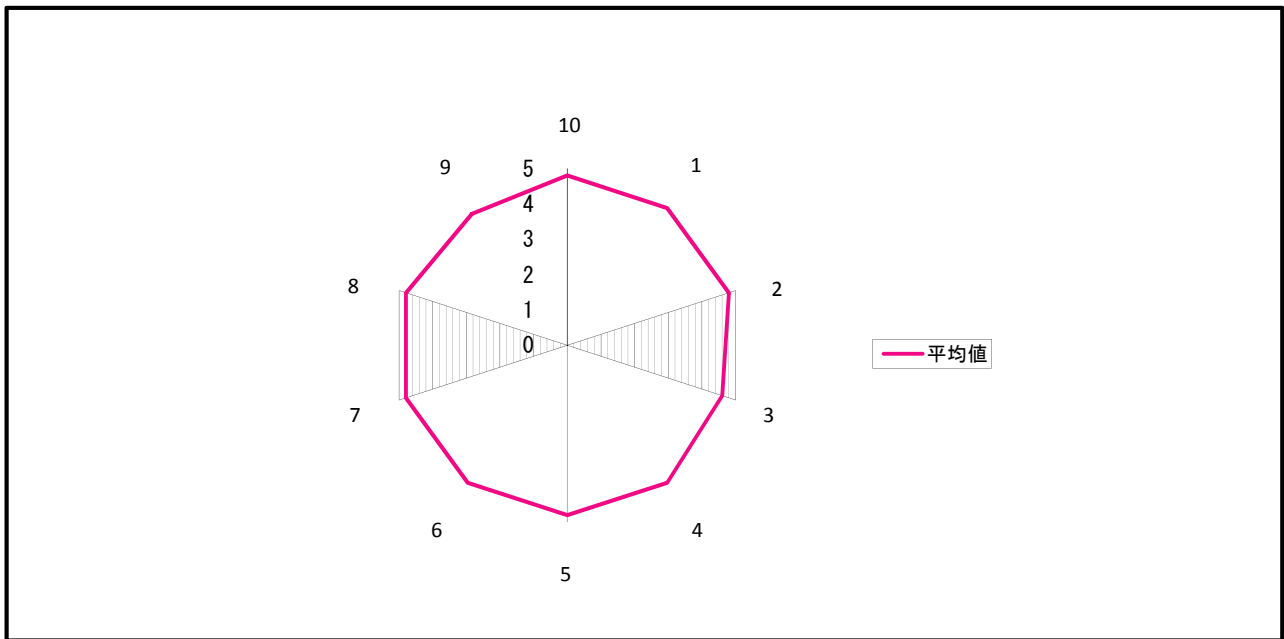
本授業では、日本語学習者が誤りやすい自他対応や授受表現など様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「日本語教育、国語教育の視点どちらからも日本語を学ぶことができ良かった」、「学生の発言の機会がとても多かった」など、授業の内容や形式(受講生参加型)を高く評価する声が多く見られた。一方で、もともと予定していた内容に比べ、扱う範囲が狭くなってしまったので、シラバスの内容との整合性に少し問題が残った。今後の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 言語習得・発達論
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

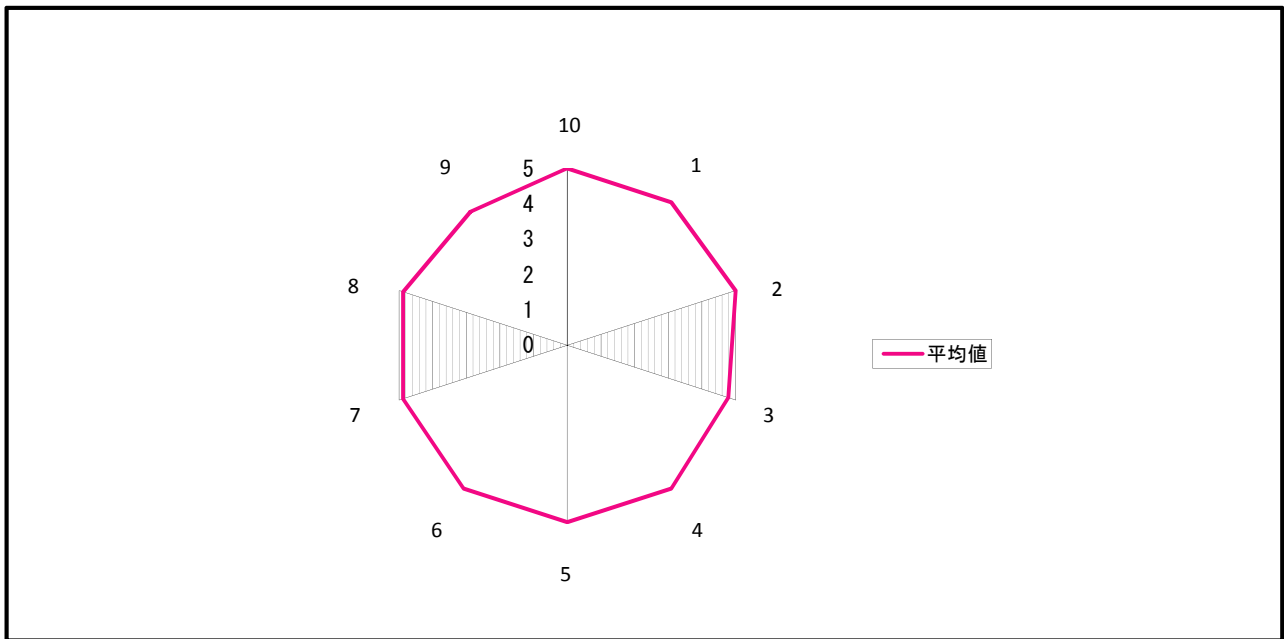
本授業では、日本語学習者の習得のメカニズムを理解することで、実際の教室活動に役立てられるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「言語習得に関わるテーマを受講生が発表することで議論が活発になったと思う。」「よく発表して、いろいろな収穫がありました。プレゼンテーション能力を高めました。」「(原文ママ)など、演習形式の授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、今年度は受講生が5名と少なく(昨年度は17名、一昨年度は12名)、例年に比べ、受講生の発表の負荷が非常に大きくなってしまったという問題があった。受講生の人数に応じて内容や進度を調整するなど、もっと臨機応変な配慮や工夫が必要だったかもしれない。今後の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 日本語音声表現研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



教員のコメント

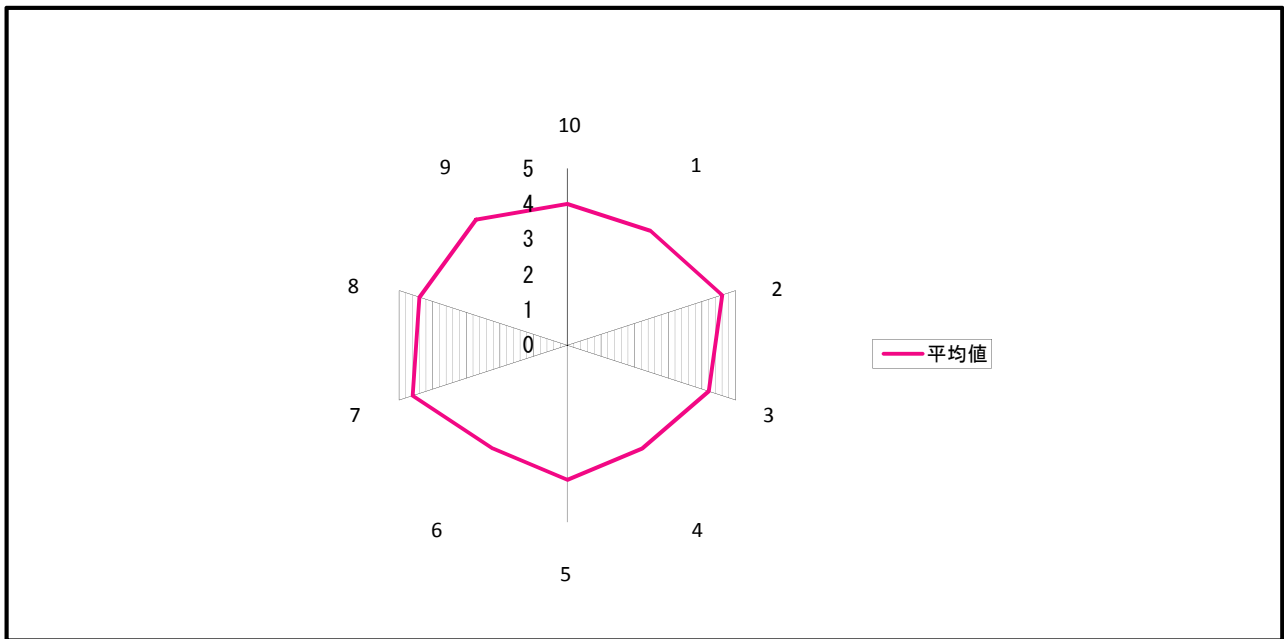
本授業では、モーラと音節、アクセント、イントネーションなど様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「ハンドアウトの内容にもとづいて受講生から発話を引き出しながら内容を説明していた」、「日本語母語話者であるが故に気付かない点を留学生を交えて話し合えるところが良かった」など、受講生の理解を促すための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。一方で、「グループで討論する機会が増えたら、いいと思う」という、授業の進め方について改善(再考)を求める声も出ていたので、今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 国語科教育学研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 村井 万里子

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3	1			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2	1	1		3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2	2			3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2	1	1		3.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1	2			4.0



教員のコメント

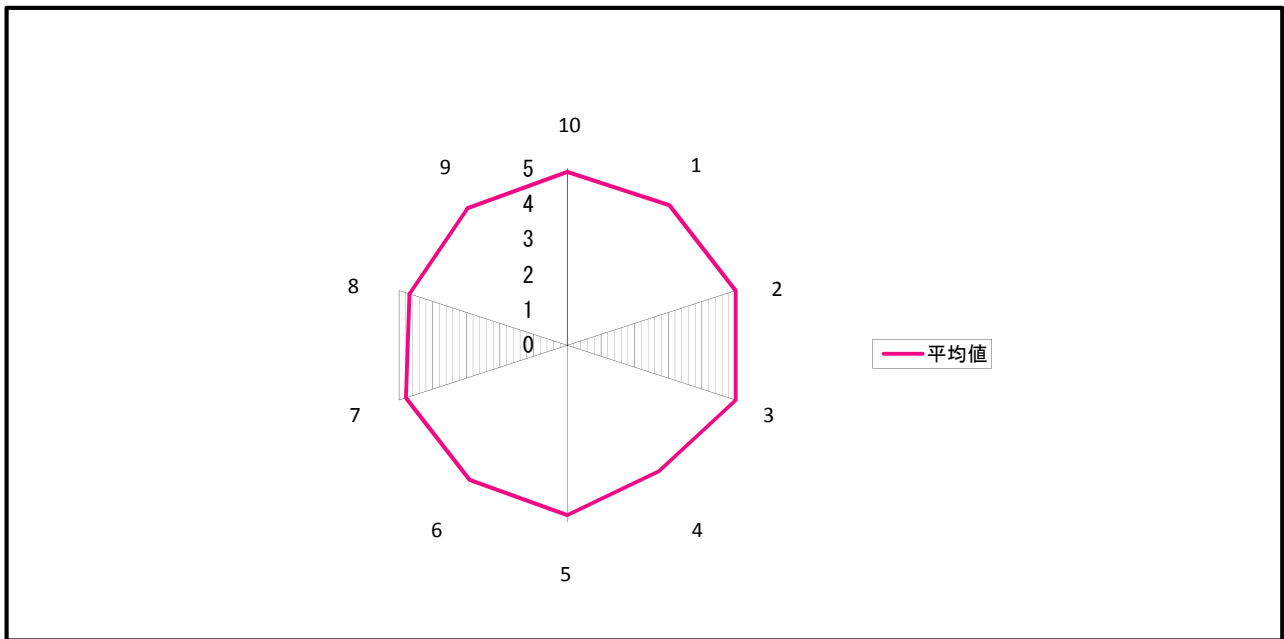
この授業科目の通常の内容よりも、少し専門性を強めて実施した。昨年度と引き続いて聴講した院生の状況を加味した。その結果、他の受講生には若干難度が上がったことが、このアンケート結果及び自由記述から見て取れた。最終活動(発表)は、授業内容の受容度と応用試しとして行ったが、授業の成果よりも受講生自身の問題意識・意欲・関心に左右される度合いが比較的大きかった。次年度に向けての課題である。

結果報告書

授業科目名 国語科授業研究
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	4	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



教員のコメント

全体として高い総合評価を付けていただきました。毎年のことですが、授業への取り組みに対する受講生の方自身の評点が高いので、満足度も高くなっているのだと思います。グループワークを設定しているので、受講生の方が主体的に考える機会が多く持てたことがよかったようです。

授業は教材分析を中心としていますので、具体的・実践的な内容だと評価していただきました。テキストの解釈ですので、現職の方もストリートの方も同じように発言できたことが、お互いにとってよかったように感じます。また、様々なコースの方が受講してくださったので、視点が広がり、議論が活性化しました。一方で、私が受講生の方の多様な解釈を十分に咀嚼しきれなかった点もあったと思います。

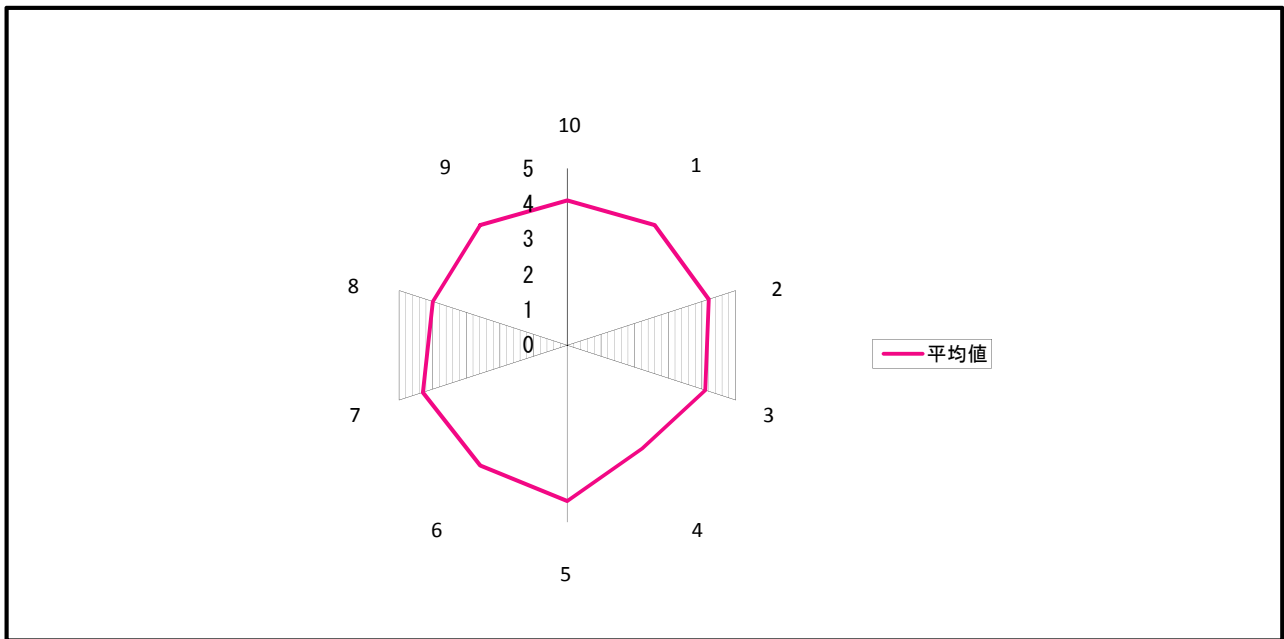
今年度は扱ったテキストが小学校に偏っていたので、中高の教材も扱ってほしいという要望がありました。また、評価方法についてうまく伝えられていない点もあったようです。これらも踏まえて、来年度に生かしていきたいと考えています。

結果報告書

授業科目名 国語科教材開発研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 余郷 裕次

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2	1		1	4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4			1	4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	2		1	4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	3	1	1	3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2			1	4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1		1	4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1	1		1	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1	1	1	1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4			1	4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1	2		1	4.1



教員のコメント

「総合評価」は、4.1と例年に比べてかなり低い得点評価であった。この結果は、コメントが好意的なことから、10名の受講生の内1名が、⑤にマークすべきところを、全て①にマークしたことが要因である推測している。しかし、②の評価が2カ所あることや、③の評価があることを考えると、反省すべき点があると考えた。また、今年度も受講生が10名となったしまったことも課題である。今後も、受講生20名程度以上が望ましいと考える。

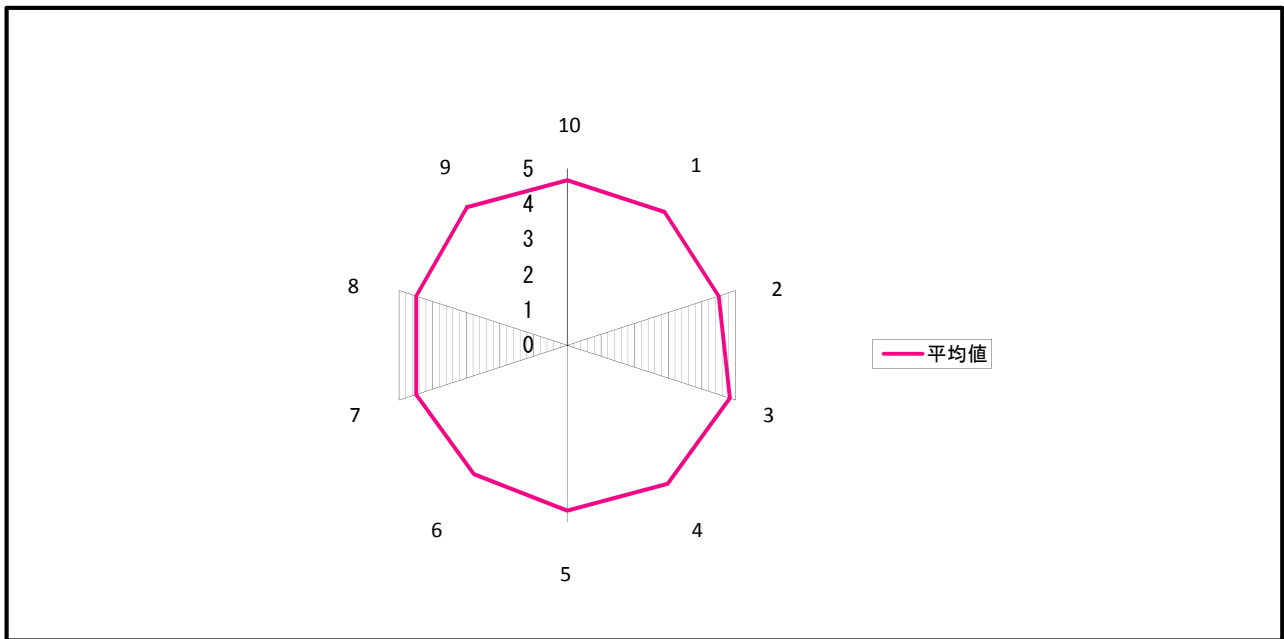
受講生のコメントとして、「(2)この授業でよかったと思われる点について書いてください。」に対して、「絵本に仕かけられている様々な工夫点と、読者の心理に関連させた事柄が学べた点」、「他の人の読み聞かせを聞けることで、自分の反省にもつながった。」など、例年通り好意的なコメントが得られた。また、「絵本の朗読など、自分なり力を尽くして取り組んだ。」、「他の人とも協同で取り組んだ。」など、積極的受講態度がうかがわれるコメントも見られた。反省点として、学部の教材との重複感を指摘するコメントがあった。同じ教材を扱いながらも、学部と大学院との質的相違が受講者に伝わるよう工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 日本語教育法研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 小野 由美子

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5		1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



教員のコメント

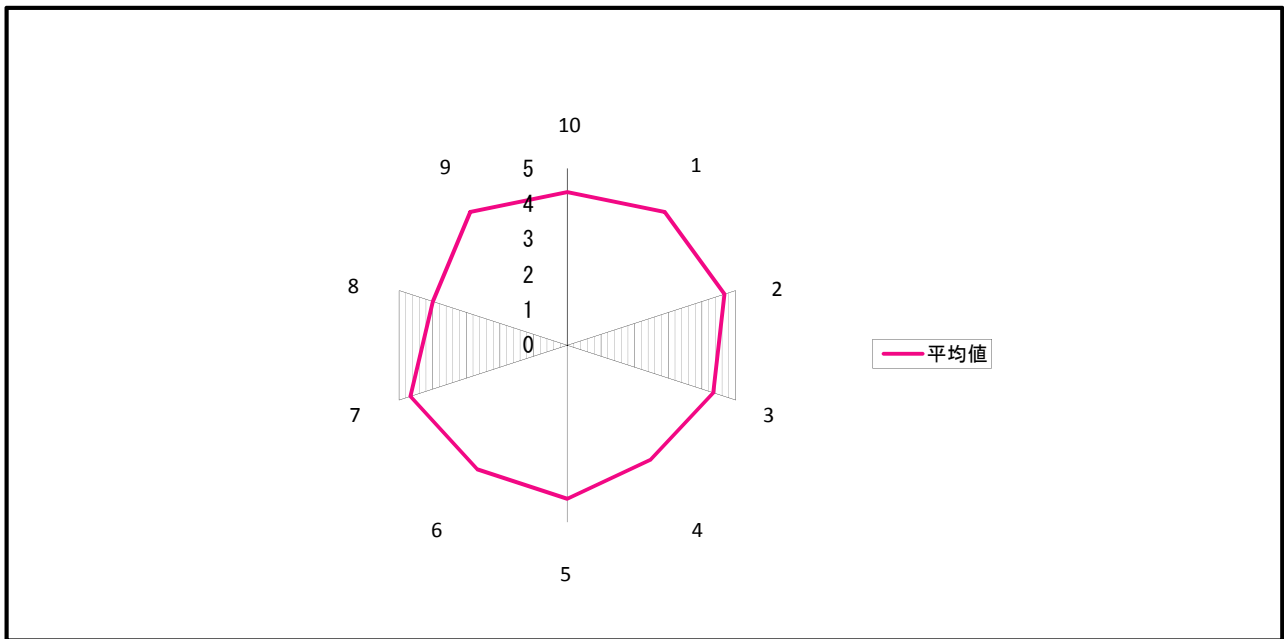
受講生は少人数ではあるが、各評価項目は4.5以上、総合評価(10)も4.7と院生も高い評価を下していると言える。また、授業への主体的取組(9)も4.8と自己評価が高い点は、授業者も達成感を覚える。資料(7)機器(8)についてはもう少し改善の余地がありそうである。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(国語科)
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 村井 万里子, 原 卓志, 余郷 裕次, 小島 明子, 幾田 伸司, 黒田 俊太郎, 田中 大

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2		1			4.3



教員のコメント

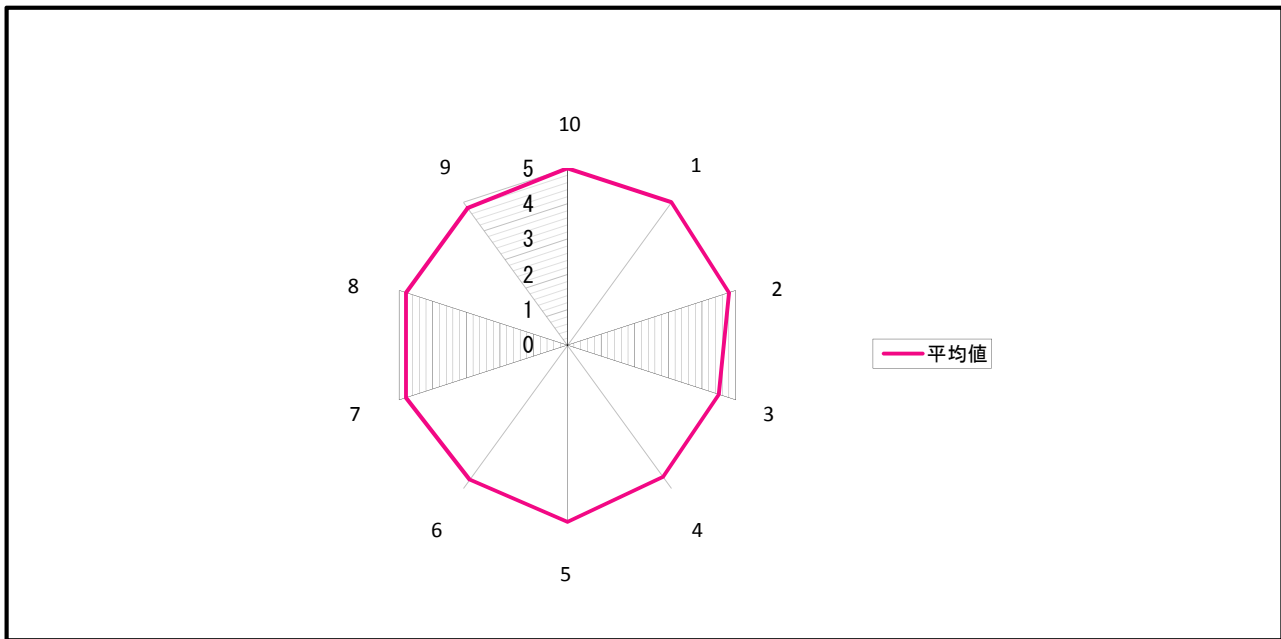
○国語科教育の専門内容を全体の見取り図が描けるように教授する、というこの科目のねらいは達成された。
 ○予想されたことだが、1人あたりの時間数の少なさにどう対応すべきかは、課題である。
 ○受講生の自由記述でも、「国語の多岐にわたる分野の基礎的なことから、横断的にまんべんなくふれられる点がよかった」「1人あたりの先生の授業数が少ないので、浅く広くなってしまう。」という指摘があった。
 ○「日本語教育分野専攻生にとってこの必修科目は大変そうだ」、という指摘があったが、当の専攻生の感想ではなさそうである。修士レベルの難度が達成されていた証左であると推察される。

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 藪下 克彦, 眞野 美穂

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	4				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



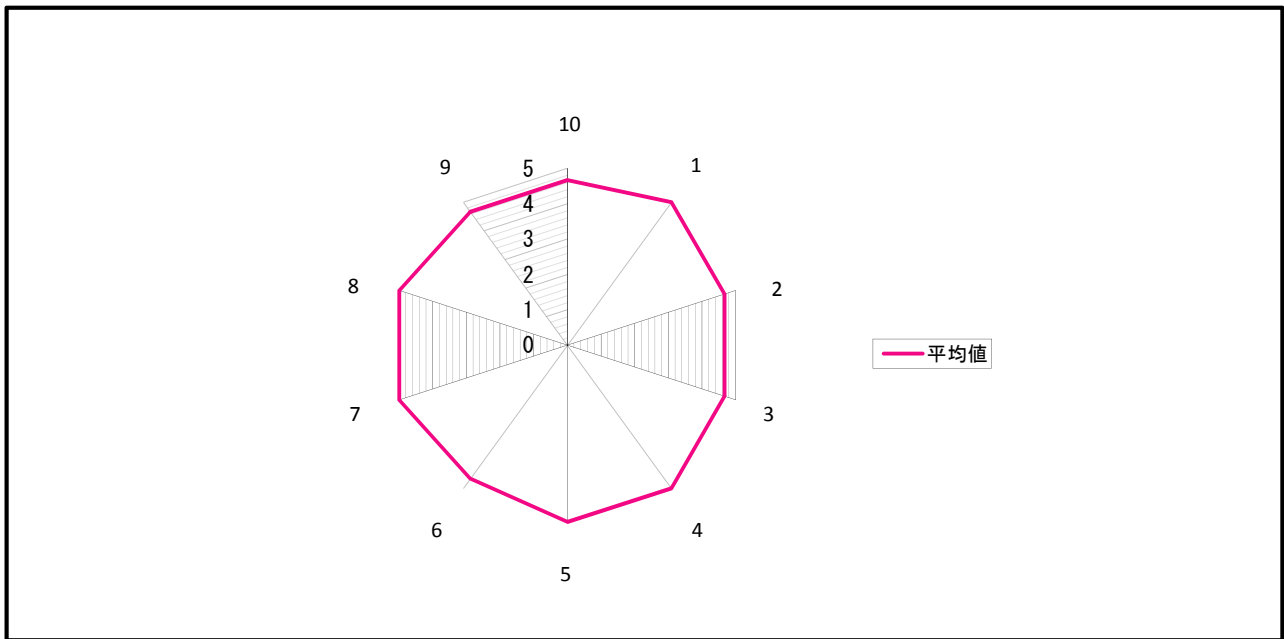
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 英語学研究 I (英文法理論)
 評価実施日 平成28年7月27日
 担当教員名 藪下 克彦

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



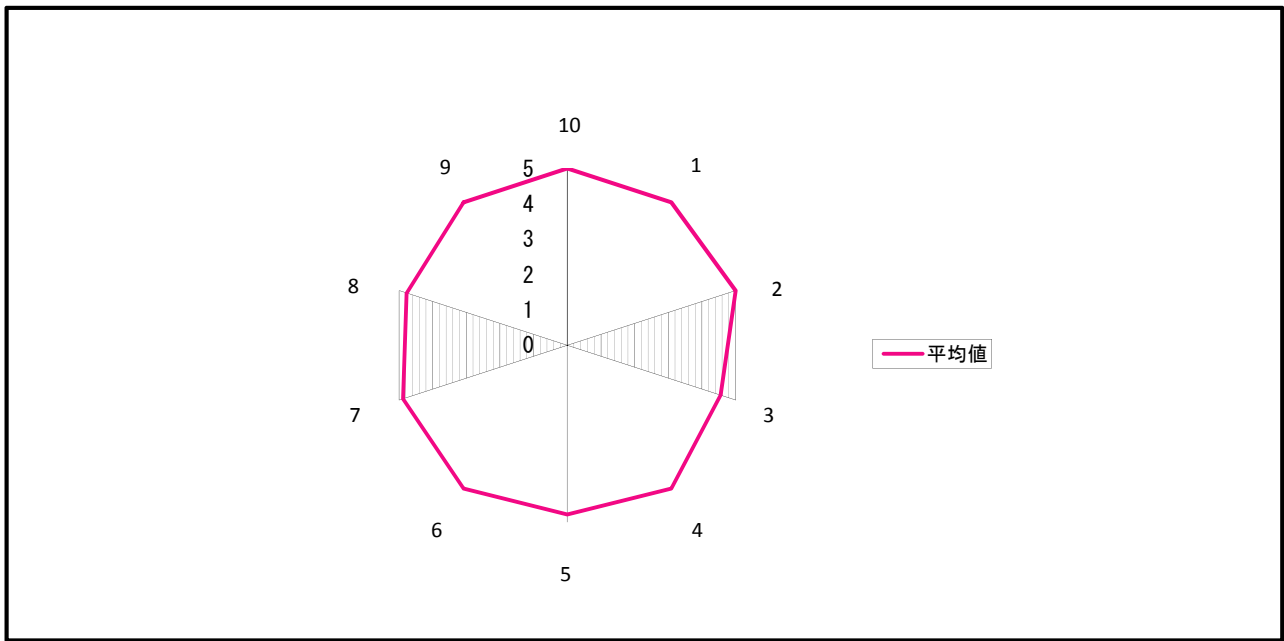
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 英語学研究Ⅱ(言語表現)
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 眞野 美穂

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8				1	5.0



教員のコメント

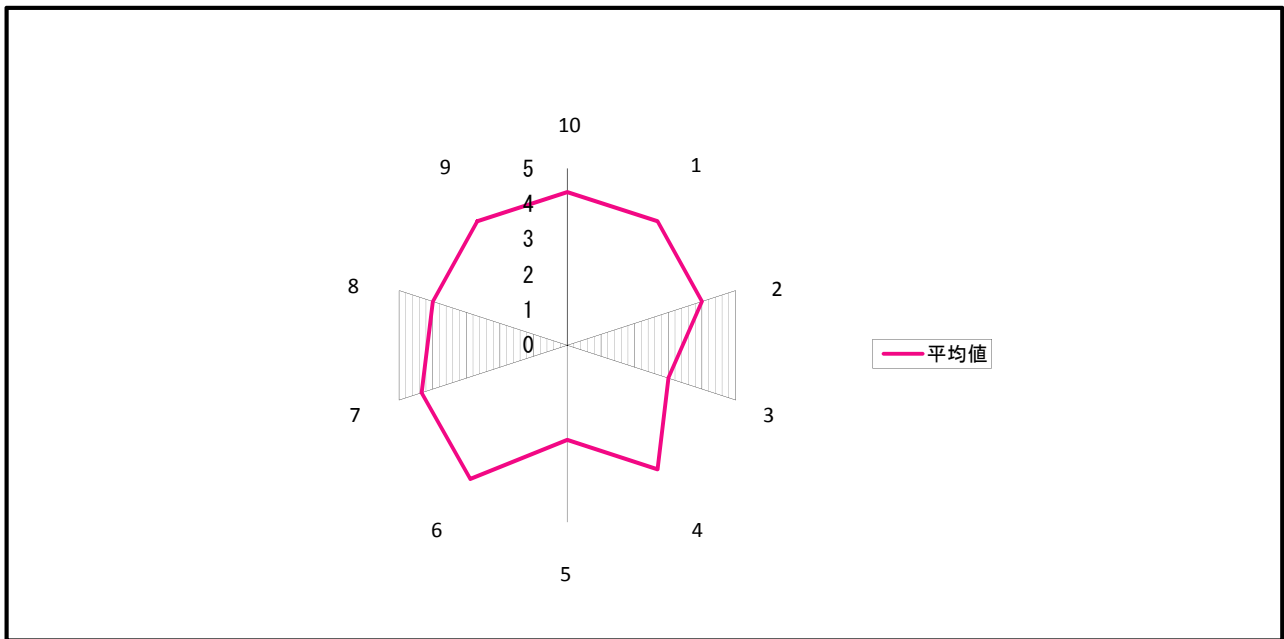
論文を批判的に読むといふかなり履修者にとっては難易度の高い授業であったが、できるだけ様々な英語学・英語教育分野にまたがるテーマを選び、その枠組みにも多様性を持たせ、前提知識をまとめて紹介するなど、工夫をこらした。その結果、授業評価からは、積極的にしっかり取り組んだ様子と、内容への満足感が感じられる結果となった。自由記述からも、同様の意見が得られたので、来年度以降もテーマ選択には注意を払いつつ、工夫しながら授業を計画したいと思う。

結果報告書

授業科目名 英米文化研究 I (文化史)
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 宮崎 隆義

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2			1		4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			3			3.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1		2		2.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	2				4.3



教員のコメント

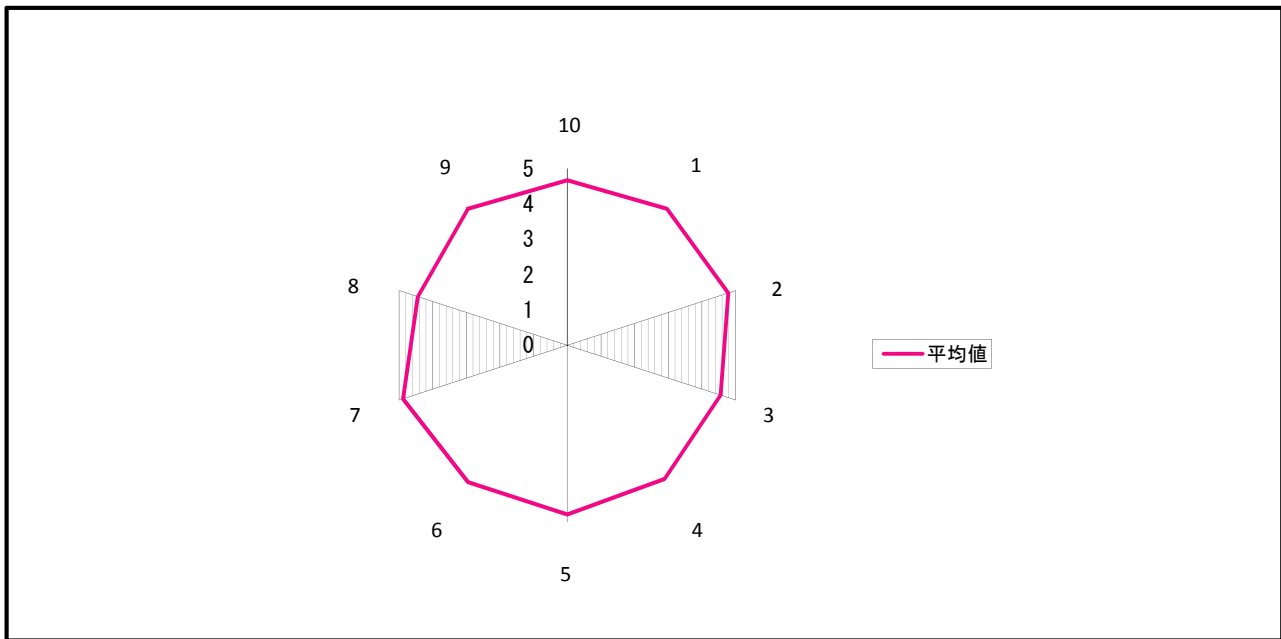
英語教育の方法や実践等に直接結びつくものではなく、英語という言葉の持つ面白さと力、そして、その言語が紡ぎ出す物語ということに重点を置きました。中学校、高校の現場にすぐ役立つものというよりは、英語に関わる教師が素養として幅広い知識を身に付けていく基盤になればという意図を込めておりました。授業の進み具合が、早かったのか遅かったのかが、受講生によっては差があるかと思いますが、丁寧な説明を心掛けたのが評価してもらえてよかったと思います。ですが、無駄と思われる部分については、省略しても大丈夫だったのかもしれないと考えております。また、文学作品、物語を、生徒の自立学習のきっかけにもできるのではとの可能性も示し、それを理解してもらえたのではと思います。

結果報告書

授業科目名 アカデミック・ライティング II
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 吉川 エリザベス

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3				4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	7	2				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	3	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3				4.7



教員のコメント

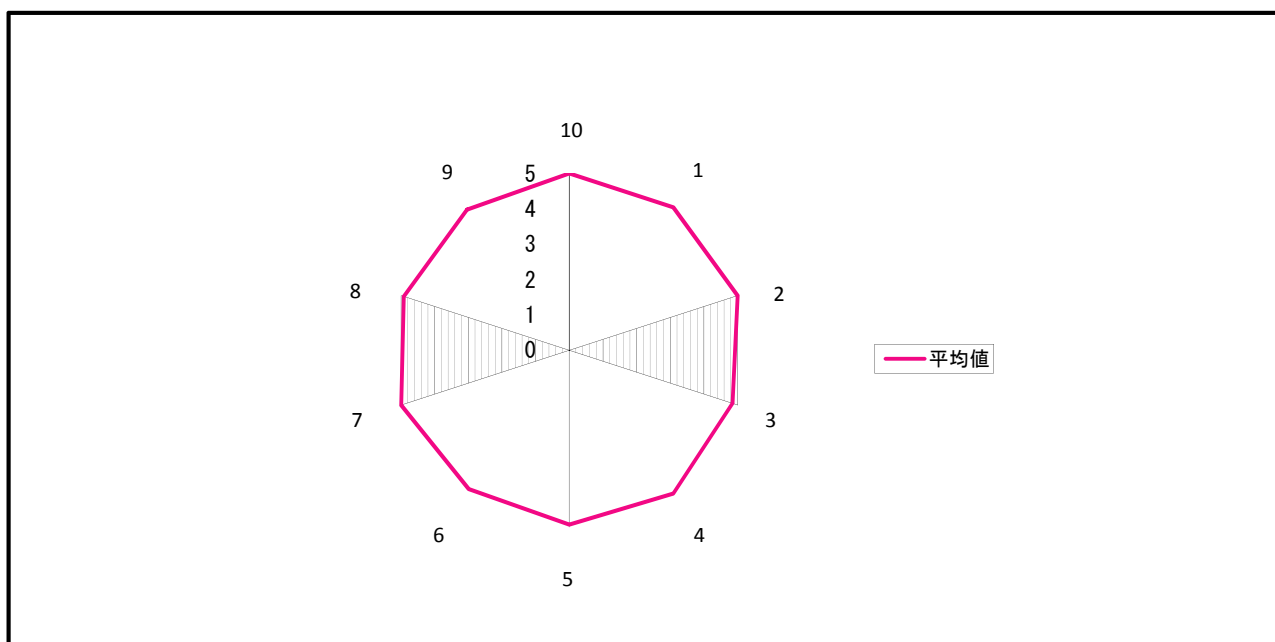
Students seem to generally find this class helpful. However I should be mindful of their comments so that I can make further improvements, such as to ensure they understand the syllabus and the grading criteria. I will strive to do my best for students so that they can improve their writing styles.

結果報告書

授業科目名 パブリック・スピーキング
 評価実施日 平成28年7月20日
 担当教員名 吉川 エリザベス

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13					5.0



教員のコメント

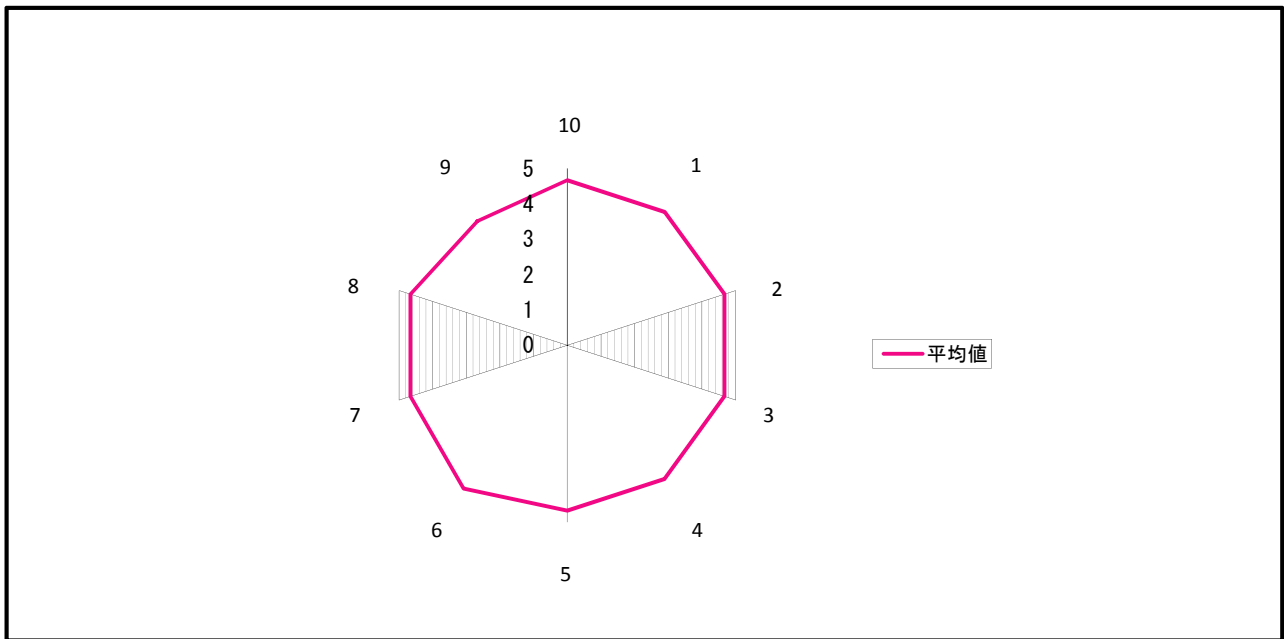
Students seem to like this course in general. I should continue to strive to improve the course so as to challenge students and help them develop both their English skills and their presentation skills through my explanation and handouts.

結果報告書

授業科目名 小学校英語活動構成論
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 石濱 博之

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

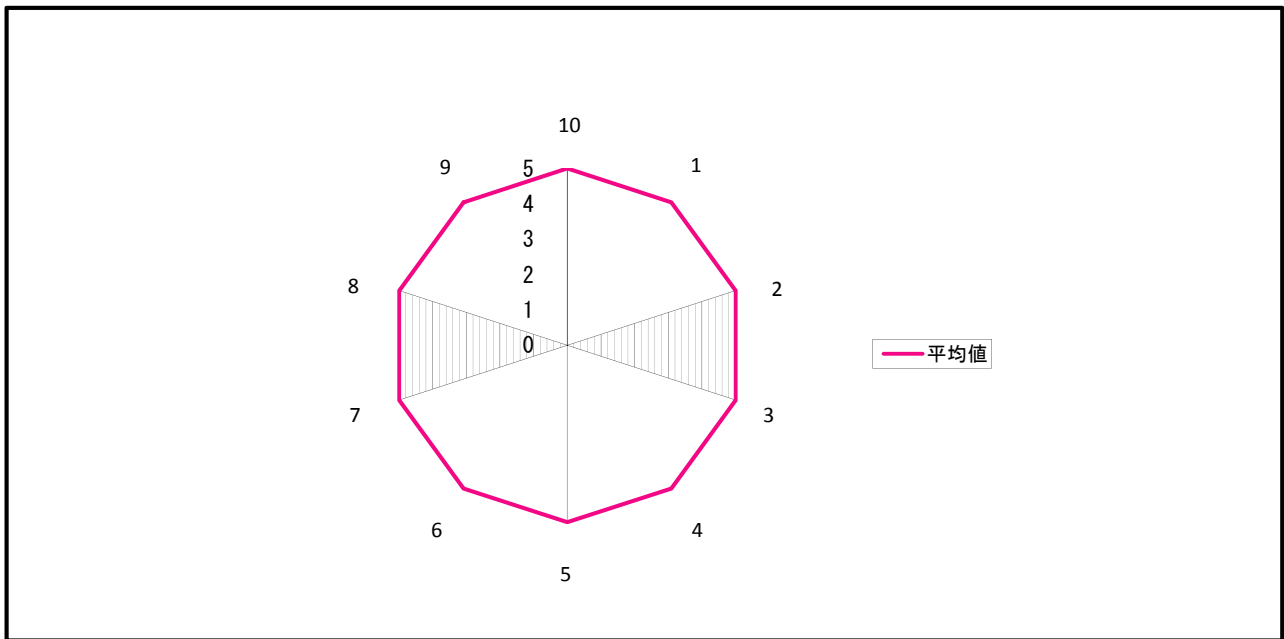
基本的な指導方法を提案したが、その方法論を学んだと思う。ただし、その仕組みを実際に使える場面にやるには、事例を多く示していきたい。

結果報告書

授業科目名 初等中等英語科教育特論 I
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 石濱 博之

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1				1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

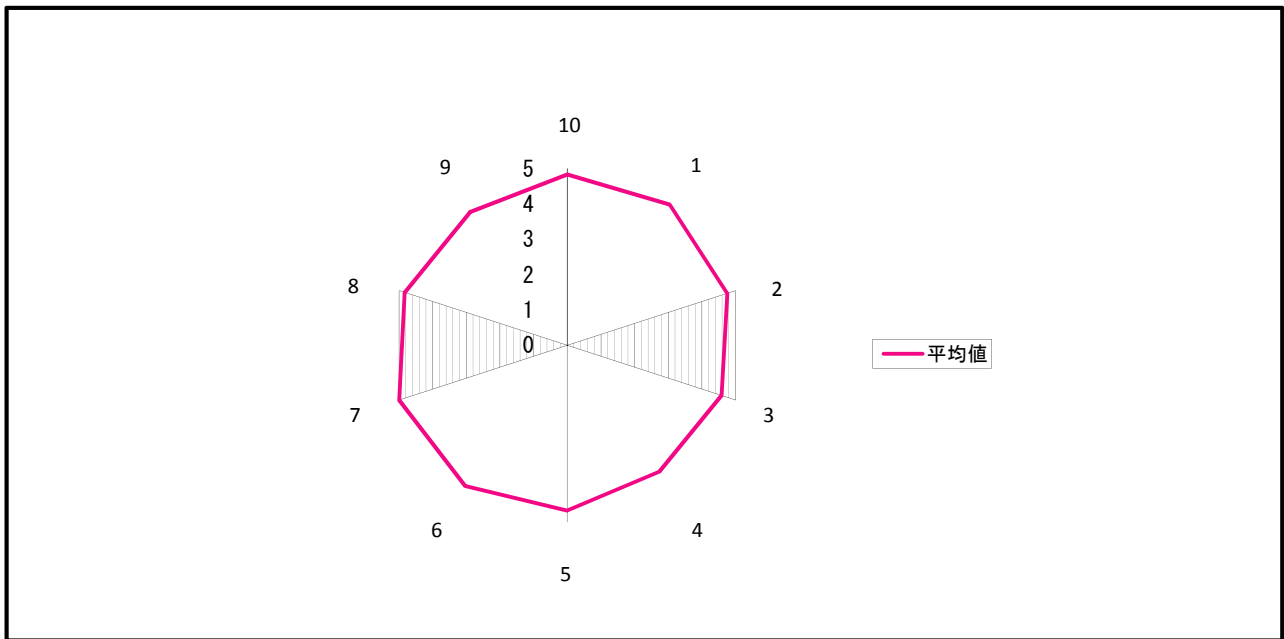
英語教員としての必要な文献を読んでいった。大学院生であれば、このような作業は必要だし、そこから自分の方法論を見つけてほしいと願った授業展開をした。

結果報告書

授業科目名 初等中等英語科教育特論Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 山森 直人

回答者数 12 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11			1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2		1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	5	1				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2					4.8



教員のコメント

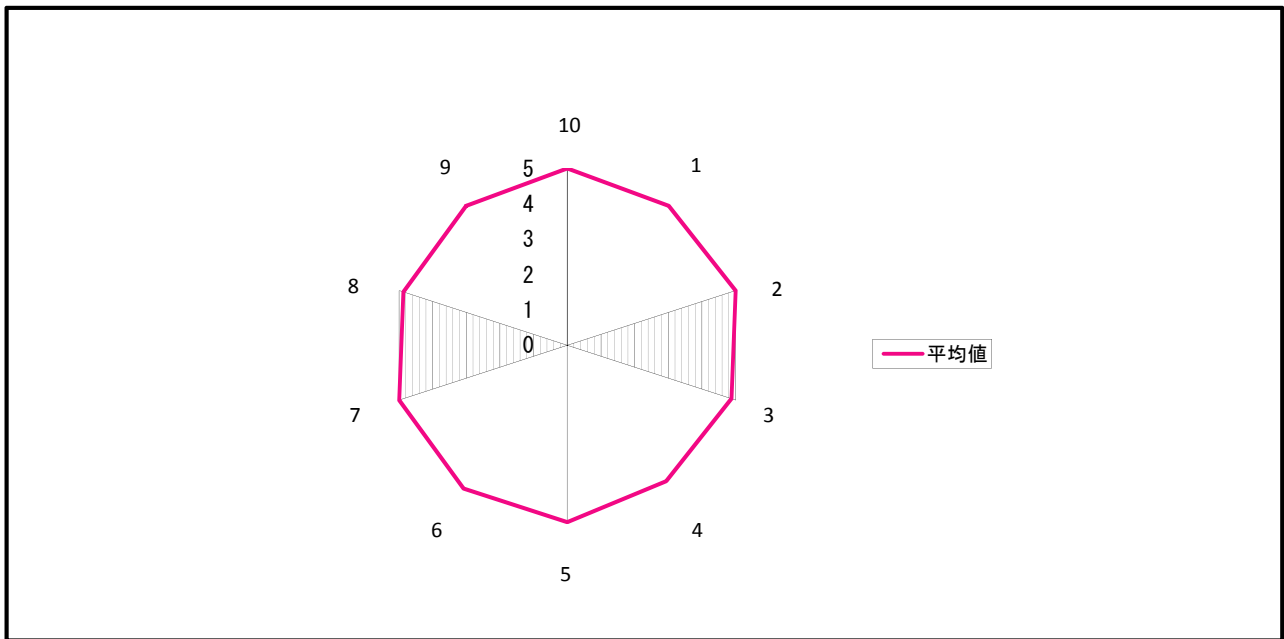
総合評価が4.8であり、高評価を得たと考える。質問「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。」については4.4と相対的に点数が低く、回答もばらついた感がある。評価の提示方法など見直したい。
 本授業には毎年1-2人留学生が参加しており、補助的に英語を使用してきた。今回も留学生が2人参加していたため、日本語使用を主としつつも、これまで以上に英語を用いて授業を実施した。その結果、同じ内容を2つの言語でくり返すことになるため、授業内容全体をカバーすることに難しさを感じた。また、学生からは「英語のみでよい」という意見がある一方で、「英語と日本語両方で話してくれたので、わかりやすかった」という意見もあった。授業媒体としての英語使用の意図を明確化する(例えば、留学生のため、受講生の英語力向上のためため、など)とともに、授業進捗との関連もふまえ、適切な言語使用・選択のあり方について検討したい。

結果報告書

授業科目名 小学校英語習得論
 評価実施日 平成28年8月5日
 担当教員名 畑江 美佳

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7		1			4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

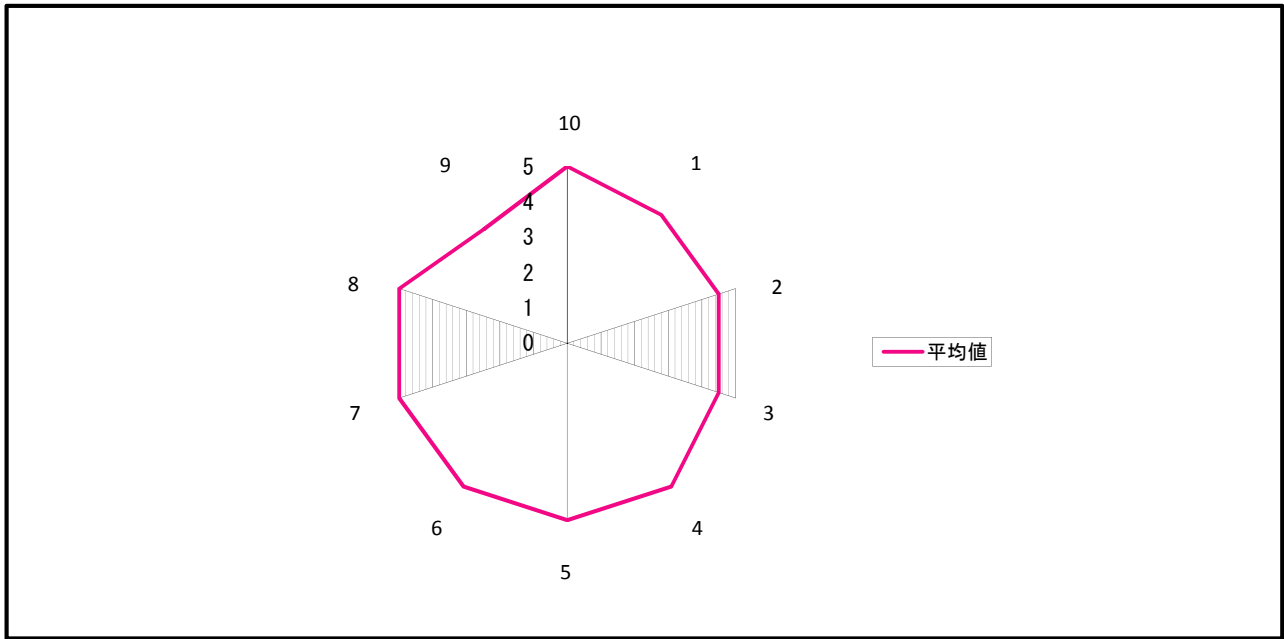
小学校英語習得論は、理論の部分も多いが、授業は必ずディスカッションや簡単なプレゼンを課し、双方向型の授業を心がけた。また、最新の英語教育に関する文科省の資料等を活用し、未来志向の議論ができたと思う。自由記述には、「専門分野でありとても役立つ内容だった」「多くの教材を体験することができた」「プレゼンがあったので、しっかりと準備して積極的に取り組むことができた」「毎回意見を交換する場面があり、自分の視野も広がりました」「シラバスに沿って授業が行われた。自分の興味・関心のある内容をすごく勉強することができた」という記述があった。学生のレベルや意識も高く、真剣に授業に取り組む様子に指導側も刺激された。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 町田 哲

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

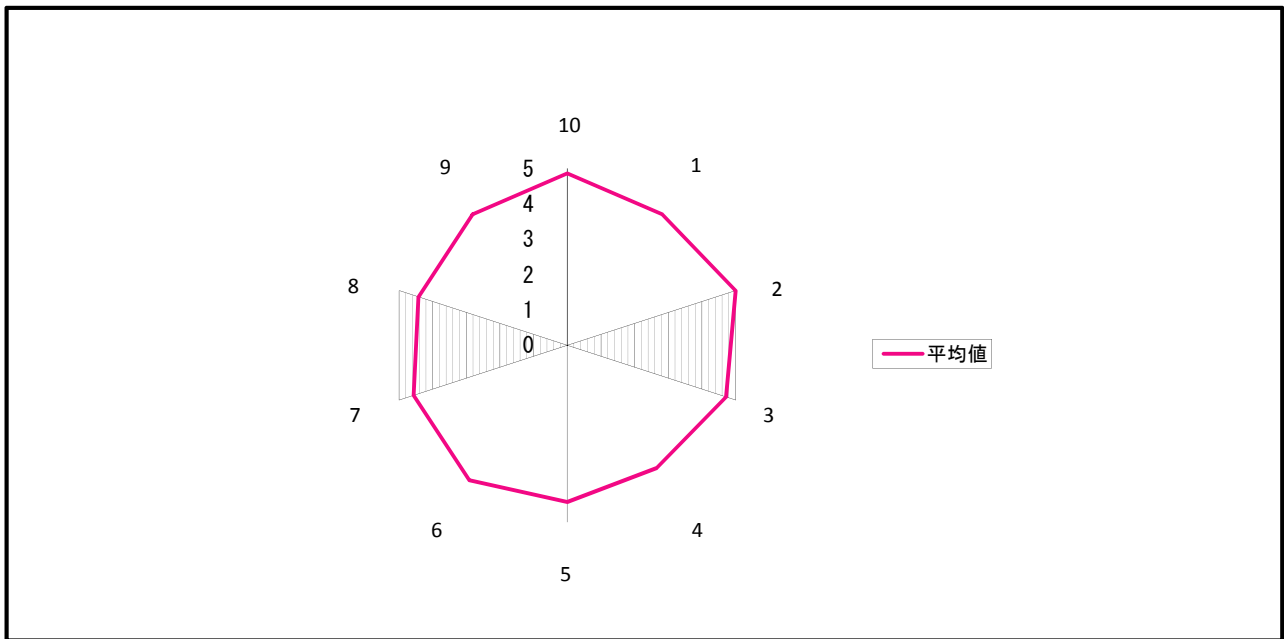
今年度の歴史学研究Ⅰでは、身分制をテーマに、近世日本における身分制の成立とその変容過程を、講義とあわせて主要論文を読み込みながら進めた。論文演習的要素を含めたことで、受講生は努力が必要となったが、積極的に参加し、議論することができた。そのことが総合点5点につながったものと考えられる。各自の歴史的手法・視角を深めることにつながったものと考えたい。ただ、受講生数が少なかったことはやむをえないこととはいえ、残念であった。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅲ
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	4				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

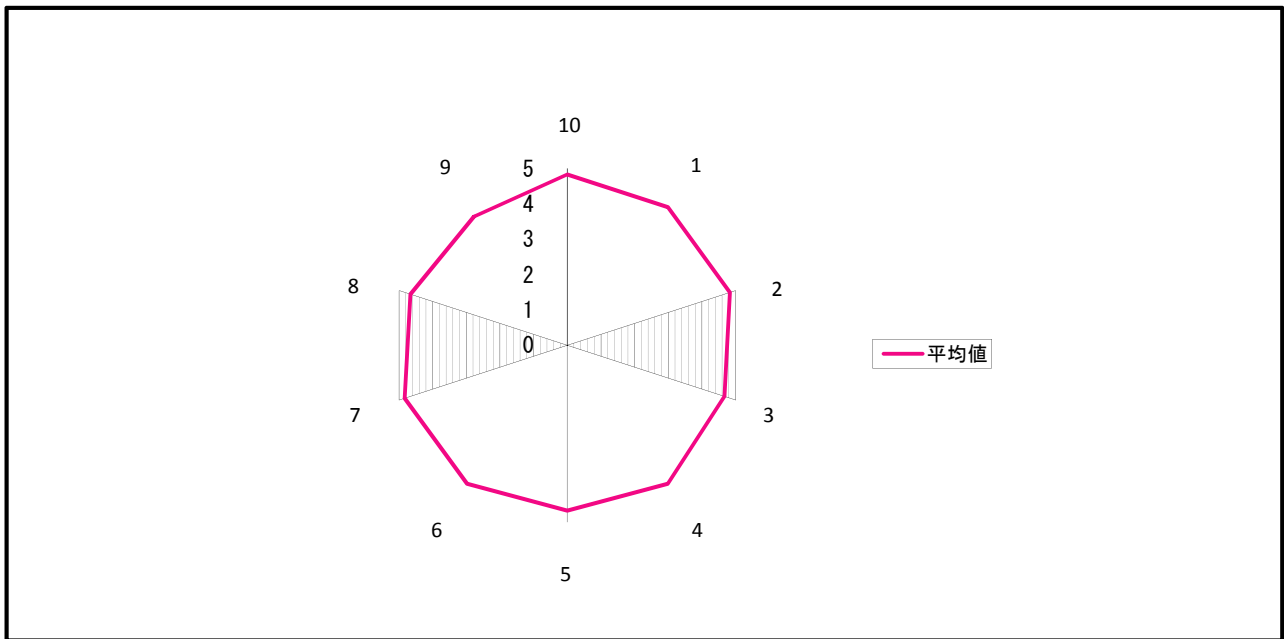
本授業はナチズムを事例に、新旧高等学校教科書の記述内容を比較しその変化の背景を歴史学上の研究史に基づいて検討することで、歴史学における「見解・解釈の変化」を明らかにすることを目的としている。今年度は受講生が7人であった。全体的に見て、各質問項目ともほとんどが「5」ないし「4」と評価しており、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。質問10でほぼ全員が「5」と評価している点からも、受講生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。来年度はさらに内容の精選を図り、受講生にわかりやすい講義を目指したい。

結果報告書

授業科目名 地理学研究 I
 評価実施日 平成28年7月20日
 担当教員名 畠山 輝雄

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

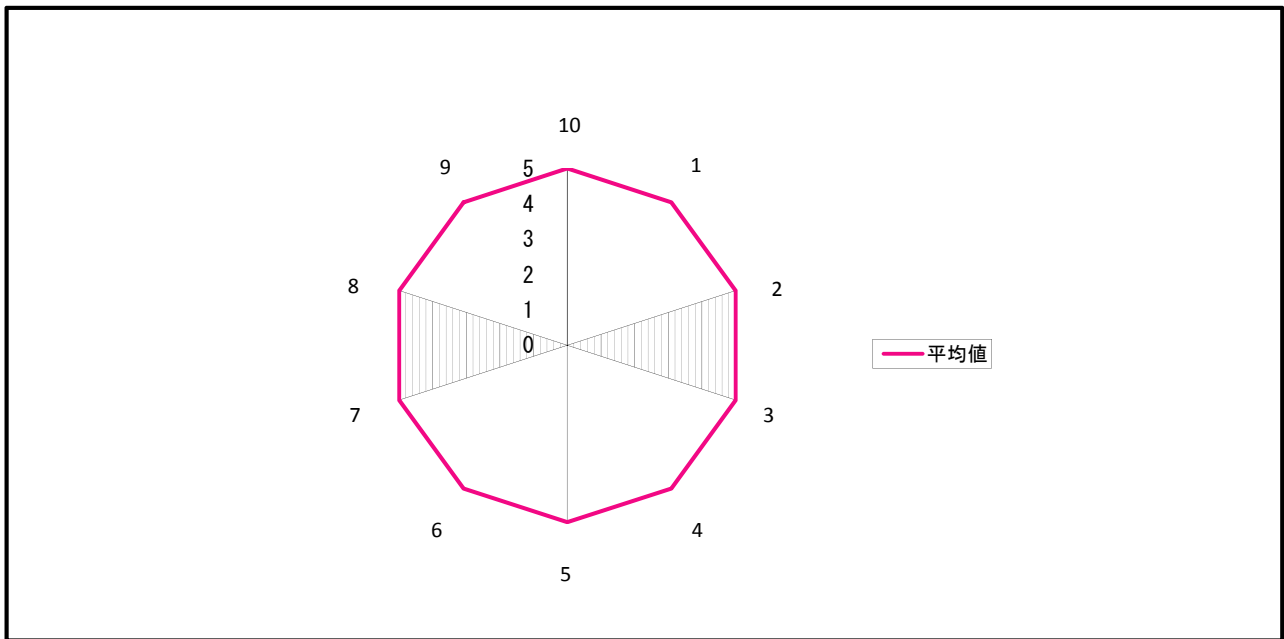
おおむね良好な評価が得られたため、次年度以降も大学院生の能力向上のため、継続して教育をしていきたい。

結果報告書

授業科目名 法学・政治学研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 麻生 多聞

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

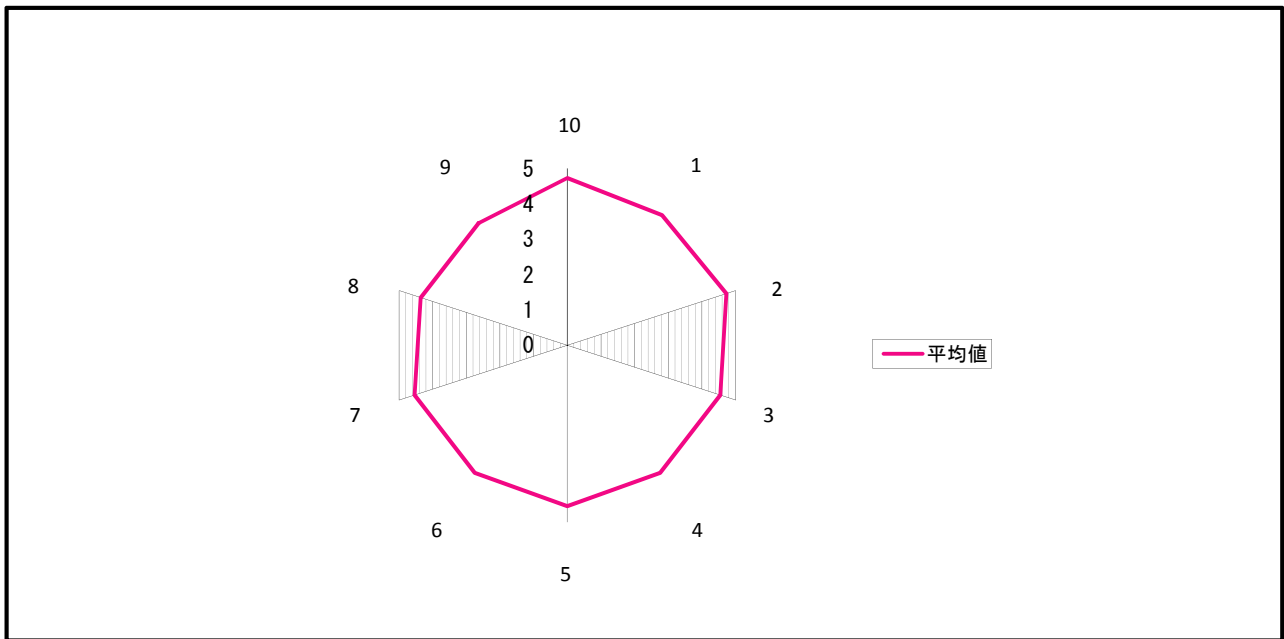
過大な評価をいただき恐縮です。今年度は履修者が2名であり、憲法学の演習書を演習形式で講読するという形式をとりましたが、欠席することなく予習を欠かすこともなく、履修者の2名がいずれも最大限の努力をこの時間に注いでくれたと思います。学校現場に赴任することとなる2名ですが、本演習の成果を教育実践に活用できるものと確信しています。

結果報告書

授業科目名 社会科教育学研究
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 伊藤 直之

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	4	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	5				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	2	2			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	6	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3				4.7



教員のコメント

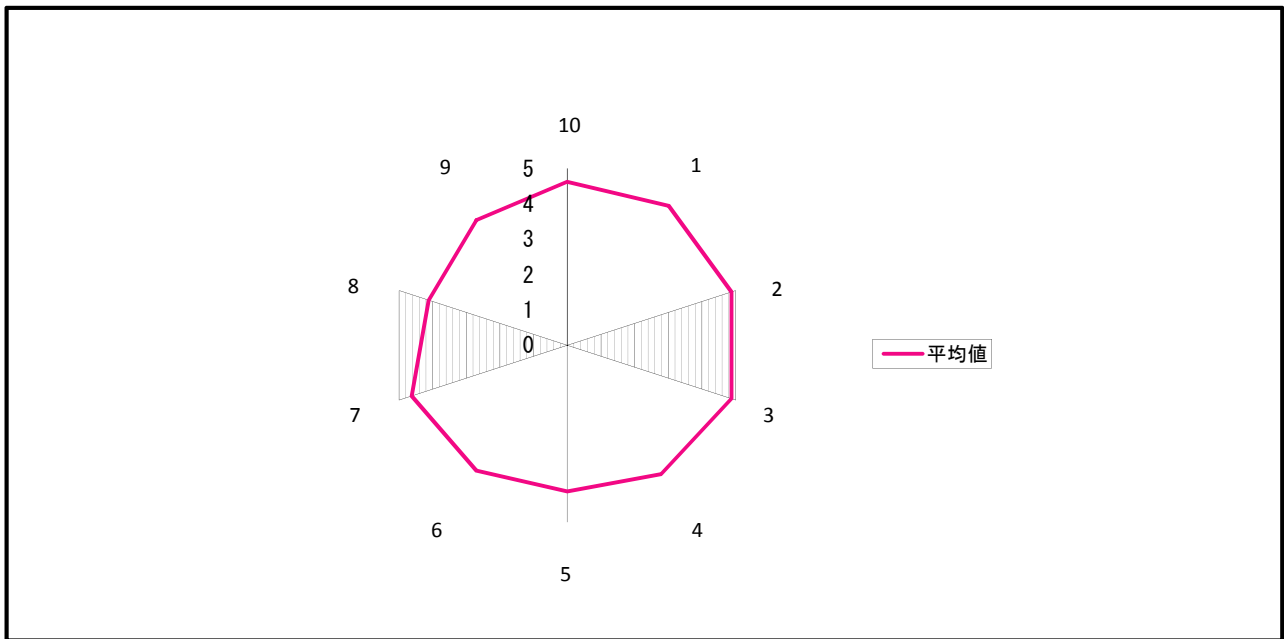
概ね良好な評価が得られたが、説明のわかりやすさや板書・視聴覚機器の使用の点で、課題があるように思われる。スライド映写ばかりに委ねるのではなく、今一度、話し方や黒板の有効活用を見直してみたい。

結果報告書

授業科目名 社会科授業研究
 評価実施日 平成28年7月27日
 担当教員名 梅津 正美

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	4		1		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2		1		4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	3				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3	2			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	2			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3				4.6



教員のコメント

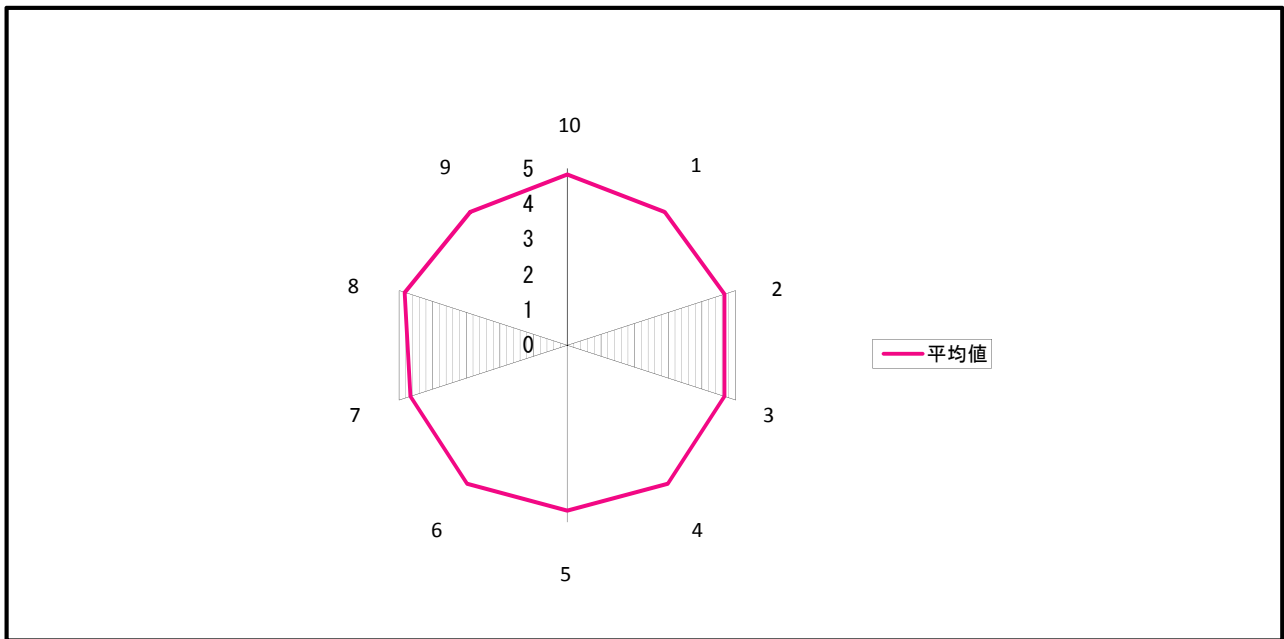
学校における社会科授業研究を構想し実施するための力量を培うために、学校現場の状況をふまえて授業づくりの理論と実践の往還を大切にして本授業を展開した。学校現場で行われた授業研究を事例に取り上げ、その仮説・実践・評価・改善のプロセスを読み解くように講義と演習を行った。授業の内容に関する3項目の評価の平均は4.9であるし、総合評価も4.6ということであるので、本授業の目的と内容のもつ意義は、概ね受講生に理解されたと判断される。この評価をふまえながら、今後も本授業の改善を進めていきたい。

結果報告書

授業科目名 数理科学研究
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 宮口 智成

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

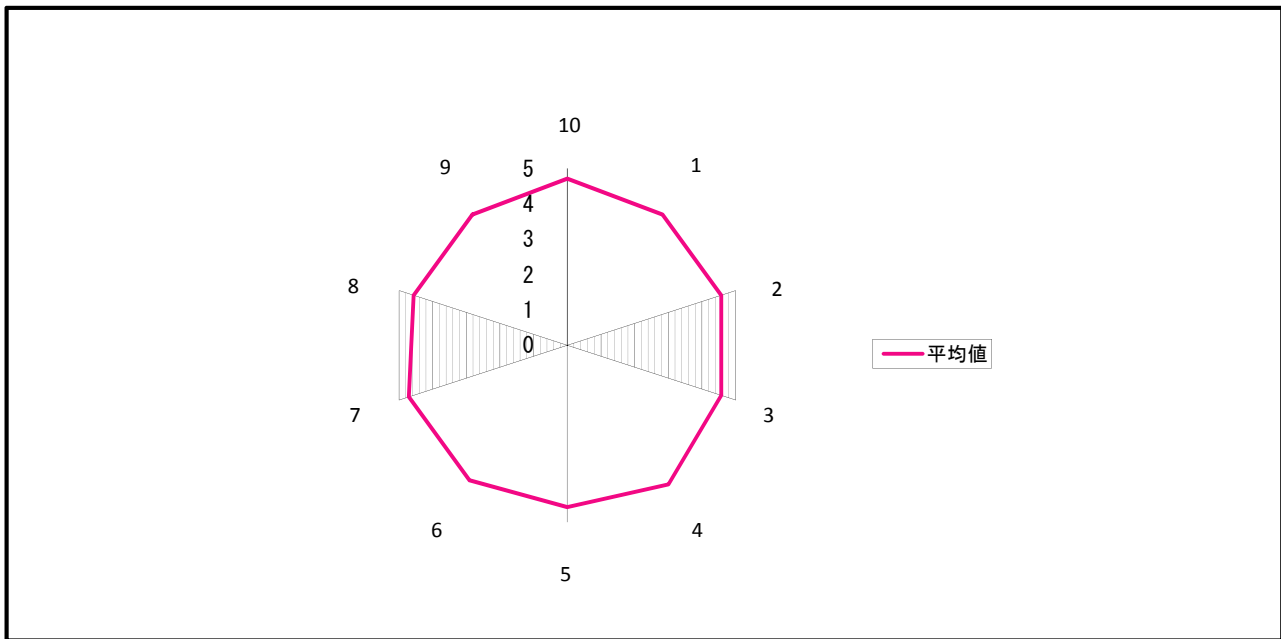
全ての項目について、高い評価を得ることができた。次年度は内容や教材をさらに改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 数理科学演習
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 宮口 智成

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2				4.7



教員のコメント

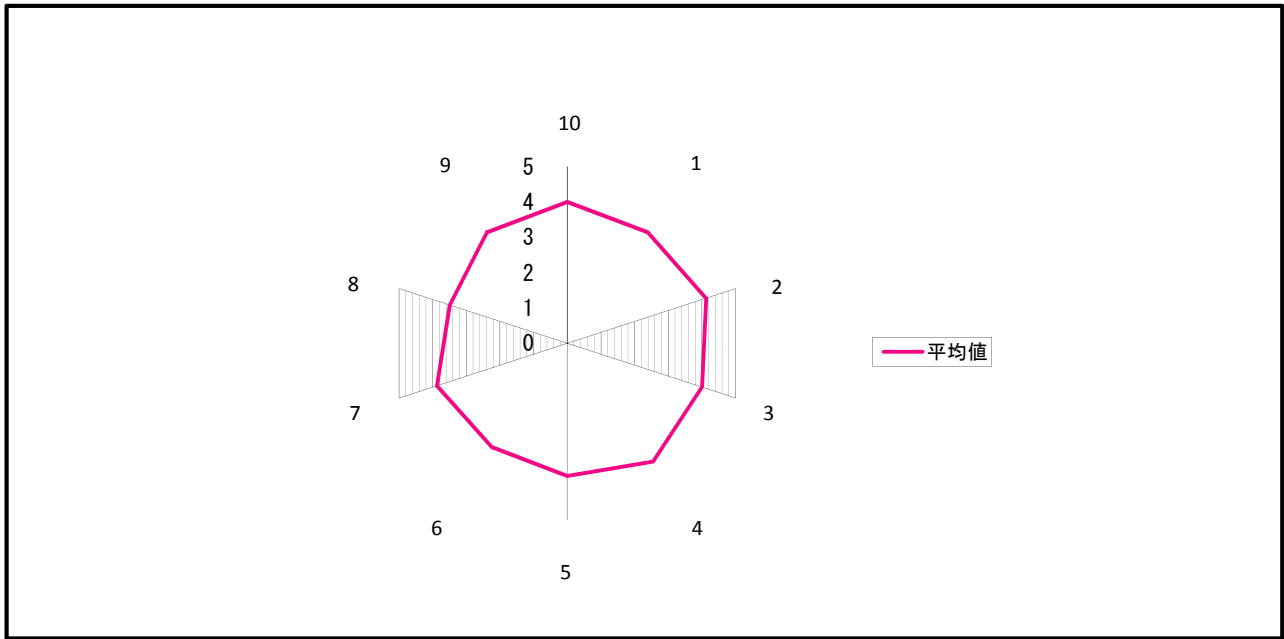
全ての項目について、高い評価を得ることができた。次年度は内容や教材をさらに改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 代数学研究
 評価実施日 平成28年7月21日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3	3			3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3	2			4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5		1		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	3			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3	2	1		3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1	1	1	3.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	4	1	1		3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	3		3		3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3		2		3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	4	2			4.0



教員のコメント

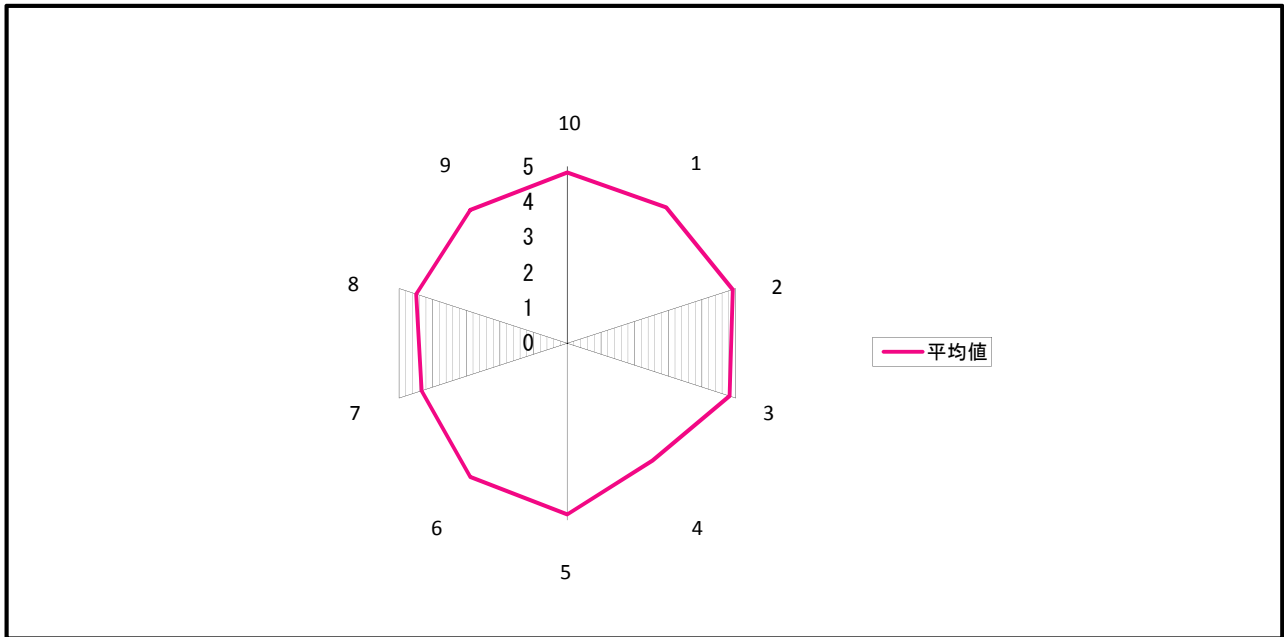
すべての平均値が3.5以上であり、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」という問いに対して評価の平均値が4.1であったので、この授業が受講者に一樣の評価は受けていると思われる。しかし、「(5)授業の進む速さは、適切であった」、「(6)受講生に分かりやすく説明した」、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」という問いに対して評価の平均値が3.5～3.8の範囲に留まっていたので、今後、これらの点に関して改善していきたい。総合評価として「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いの平均値が4.0であったので大多数の受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われるが、この平均値は昨年の平均値4.5よりかなり低い数値である。このことを反省して、板書の工夫や適切に視聴覚機器を使用することなどを積極的に行い、授業の進む速さも学生の理解度に合わせた適切なものに改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 数学科教育学研究
 評価実施日 平成28年7月22日
 担当教員名 秋田 美代

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2			1	4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	3		1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	4	2			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2				4.8



教員のコメント

この授業科目の主な目標は、数学教育の目標論、カリキュラム論、内容論、方法論、評価論等について考察し、生徒の基礎的学力、関心・意欲、創造性等を高める数学学習理論について理解すること、及び数学教育における実践的な課題に対する解決策についての認識を深めることであった。

総合評価の平均値は4.8、評価の平均値が高かった質問項目は、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(5)授業の進む速さは、適切であった」であり、授業の内容については受講生の数学の指導力や数学教育についての専門的知識を向上させることができるものであったと判断できた。一方、「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」、「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」であり、説明方法、評価方法等について、受講者が捉えにくいものになっていることが心配されるため、受講者に分かりやすくする工夫の必要性を感じた。

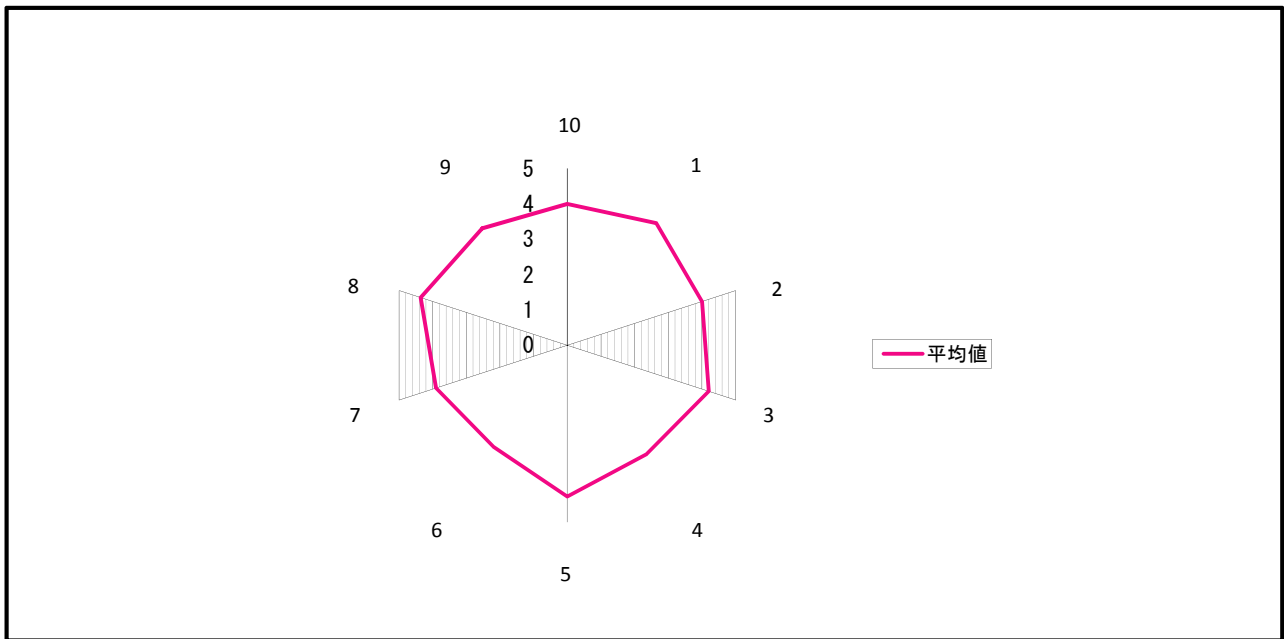
次年度は、資料の提示方法、板書の構成方法、成績評価についての説明方法等で改善を行うことが課題である。

結果報告書

授業科目名 数学科教材開発研究
 評価実施日 平成28年7月21日
 担当教員名 佐伯 昭彦

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	4	2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2	1	1	1	4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	2	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	5	2	1		3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2	3			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	2		2	3.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	4	4			3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	5	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2			2	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3			2	4.0



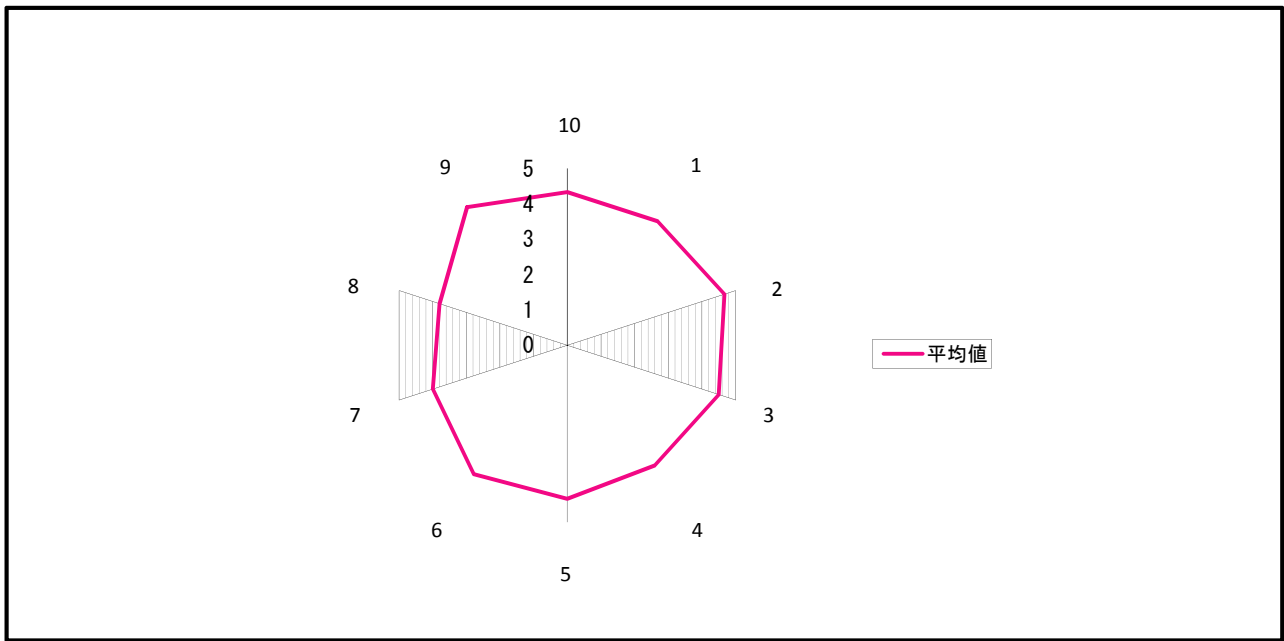
教員のコメント

本授業では、数学教育におけるICT活用について実際の教材を体験すること、数学授業を設計するために有用な理論を学生自身が調べ発表する活動を通して、教材開発に関わる資質・能力を高めることを目的として行った。その結果、総合評価が4.0であり、かつ、7つの項目が4.0以上の評価を得ることができた。本授業の目的は概ね達成できたと考えられる。総合評価を1とした学生が2名いたが、何れの学生も項目9「授業に主体的・積極的に取り組んだ」の評価を1としている。本授業は、ICT活用や模擬授業を行うアクティブラーニング型授業を行っており、グループ活動や学生の意見を発言する機会が多い。このため、ここで積極的に参加出来なかった学生への対応の仕方が今後の課題となった。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(数学科)
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 宮口 智成, 松岡 隆, 平野 康之, 成川 公昭 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	1		1	4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	3	1		1	4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	2		1	3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2	1			4.3



教員のコメント

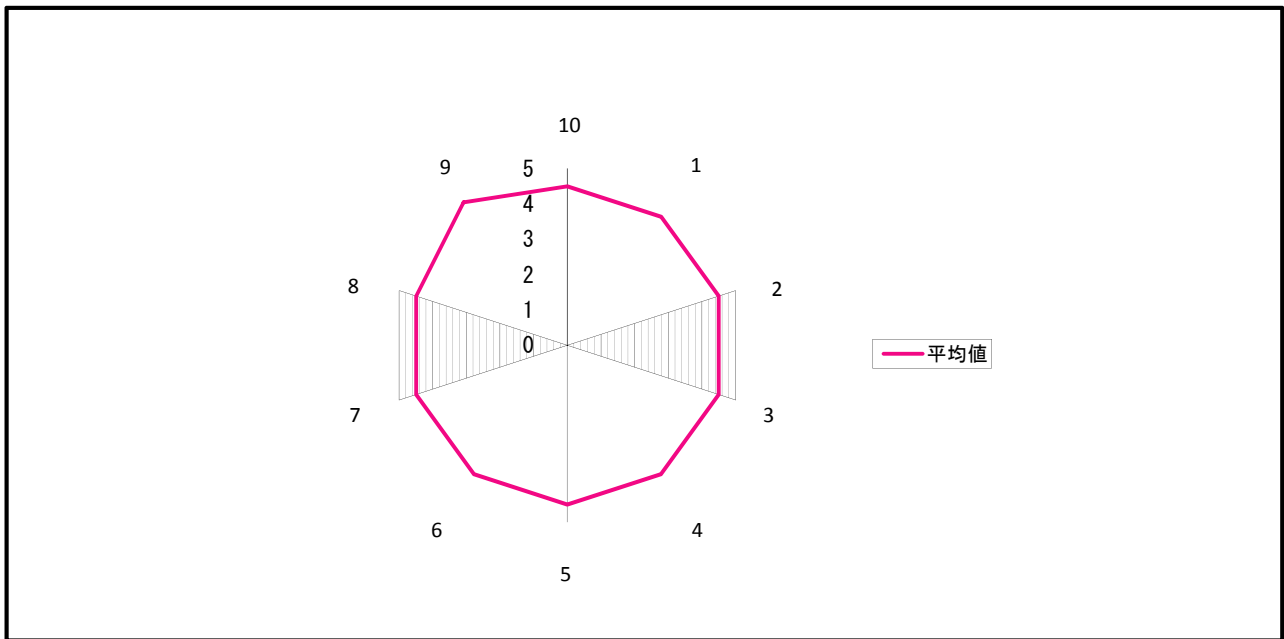
概ね高い評価を得ることができたが、「板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」の項目は比較的評価が低かった。次年度以降、改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 物理学特論 I
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 本田 亮

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



教員のコメント

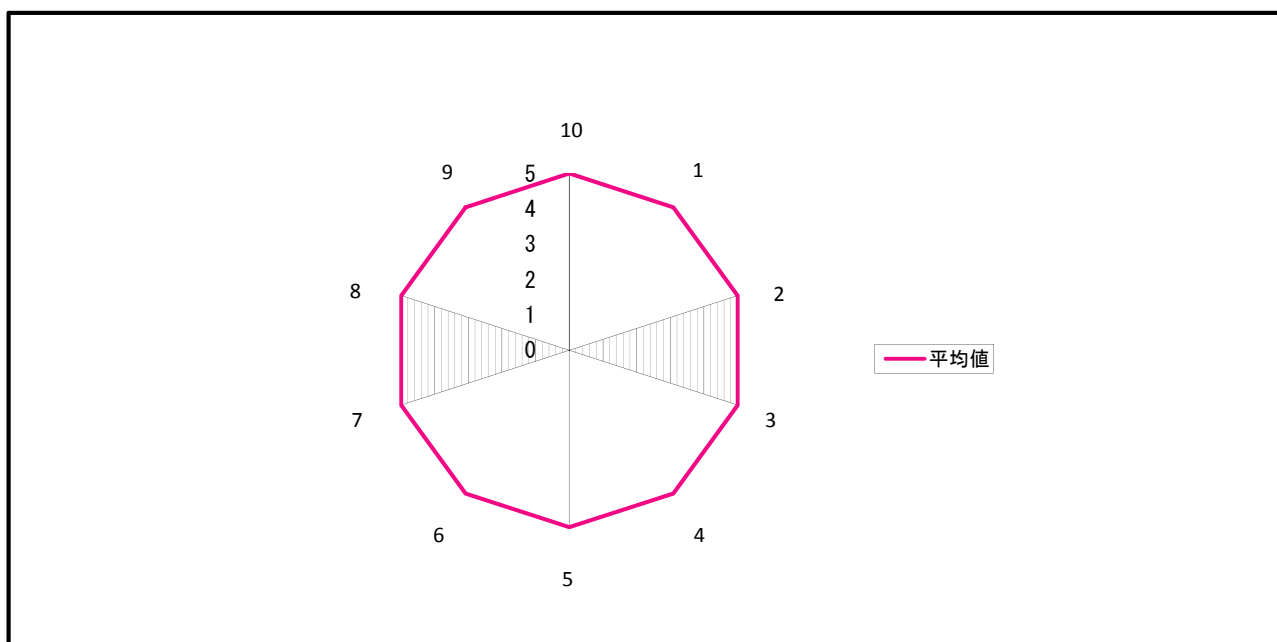
受講生が少ないため、受講生の希望するトピックスを授業で取り上げることができた。受講生に予習と授業中での説明を課したが、彼らもそれに対処した。

結果報告書

授業科目名 物理学特論IV
 評価実施日 平成28年7月27日
 担当教員名 本田 亮

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

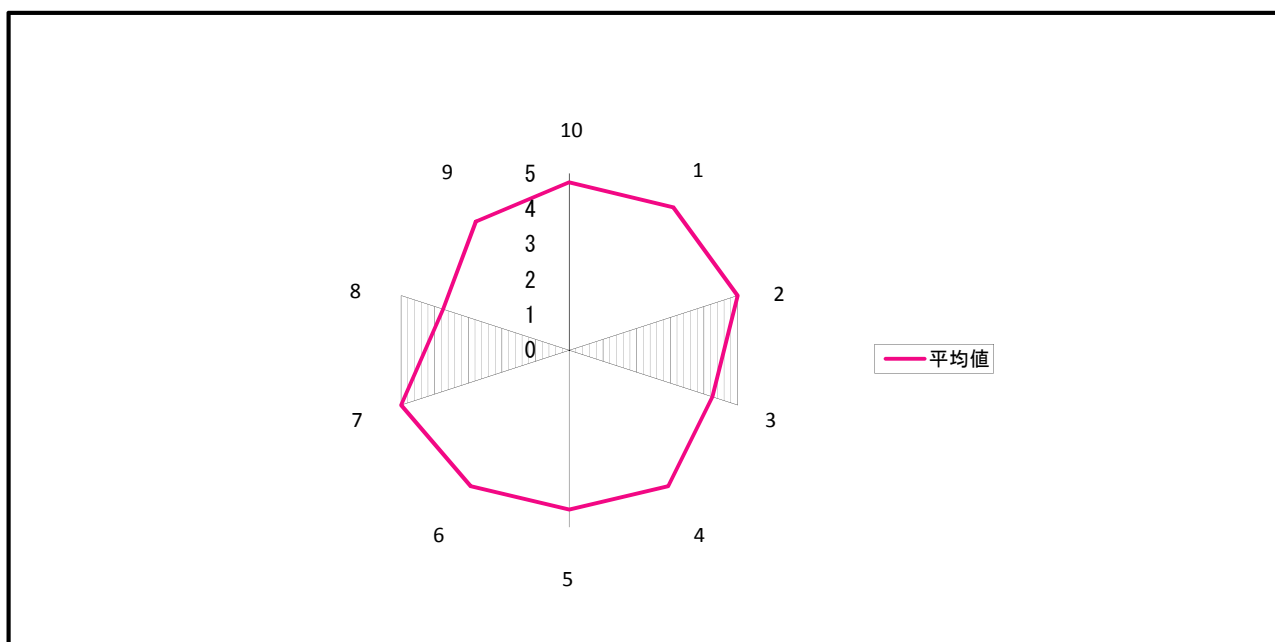
受講生が1人であったため、授業評価アンケートの統計的な価値がなく、これに対する意味のあるコメントはできない。授業は、受講生の学習履歴に対する考慮と受講生の予習によって成り立った。

結果報告書

授業科目名 生物科学特論Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月21日
 担当教員名 工藤 慎一

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	2			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

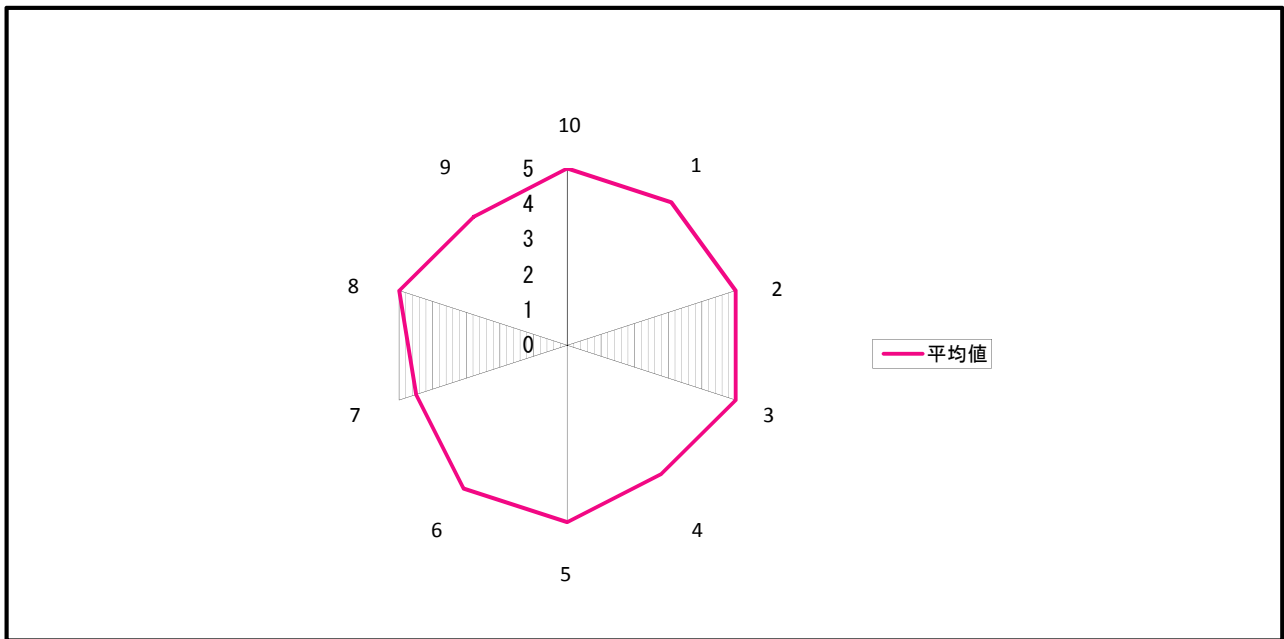
授業内容と方法、共に問題はないと考えている。

結果報告書

授業科目名 地球科学特論Ⅱ
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 村田 守

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

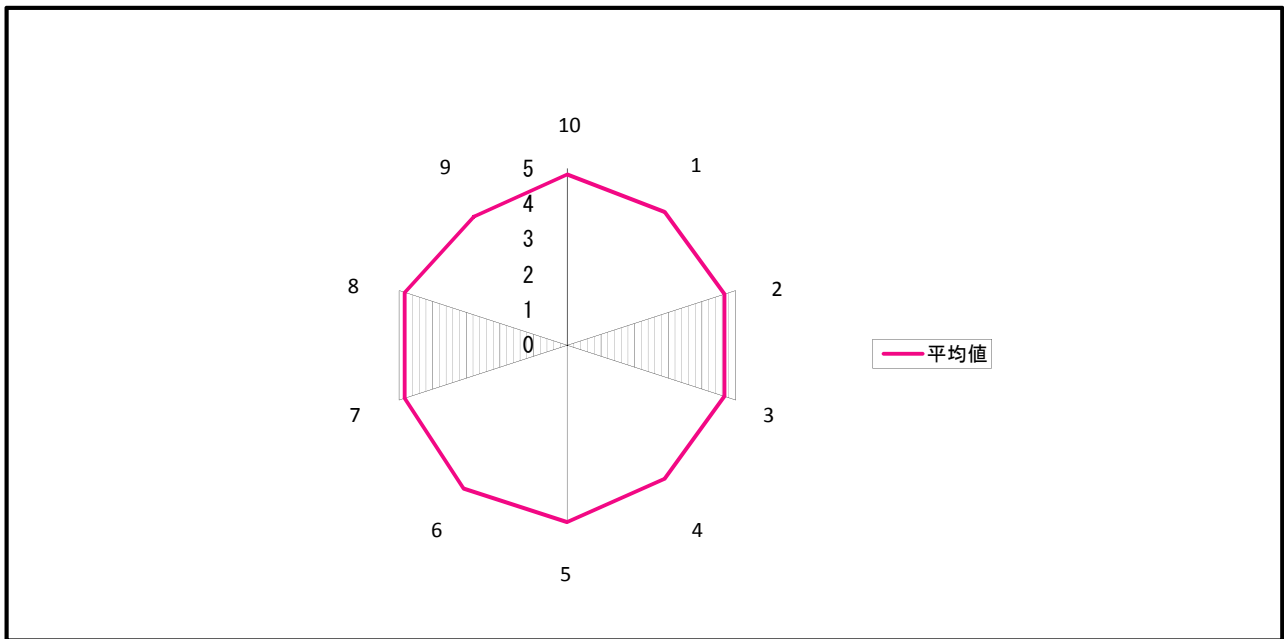
受講生3名(アンケート回答2名)が全員理科コース以外の学生であり、受講生の知識水準に合わせたいくつかの講義パターンは準備しているものの、大学院の講義の水準いかにして確保するかが大きな問題として残る。

結果報告書

授業科目名 地質学・古生物学特論
 評価実施日 平成28年7月6日
 担当教員名 香西 武, 村田 守, 小澤 大成,
 足立 奈津子

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

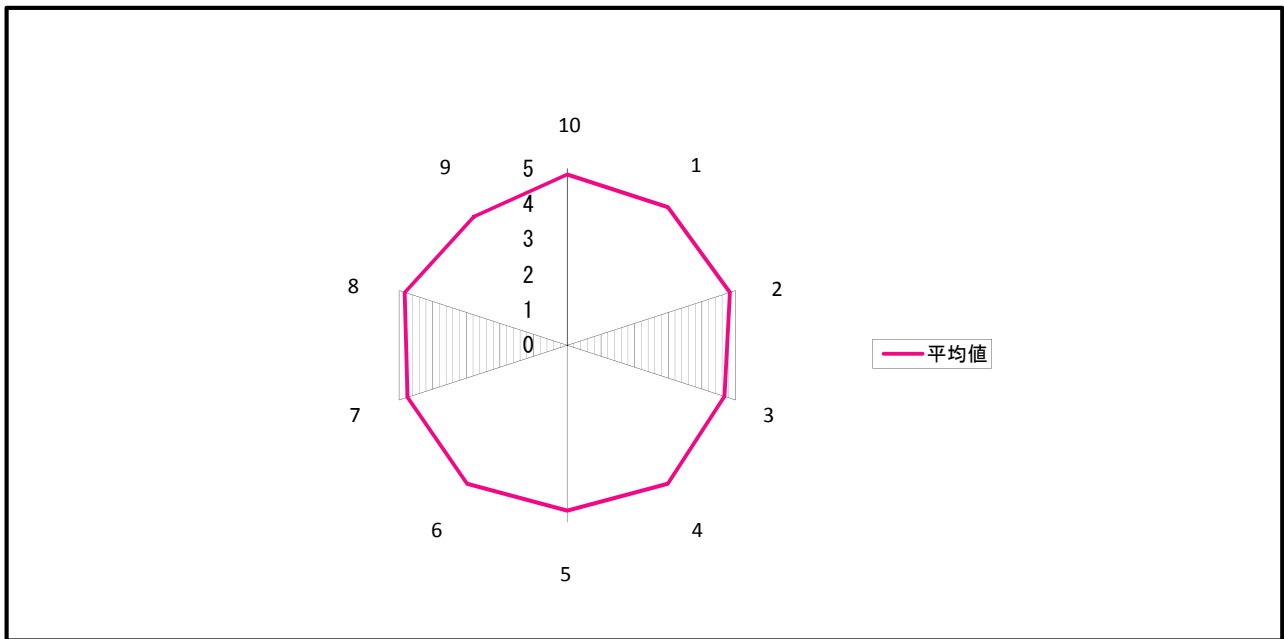
受講生が少なく、それぞれのニーズにあった学習内容が提供できる環境が整っているため、受講生にはおおむね満足できる授業となったようである。今後も、このような姿勢で授業を担当するつもりである。

結果報告書

授業科目名 声楽発声法
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 頃安 利秀

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	2					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	1		1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2					4.8



教員のコメント

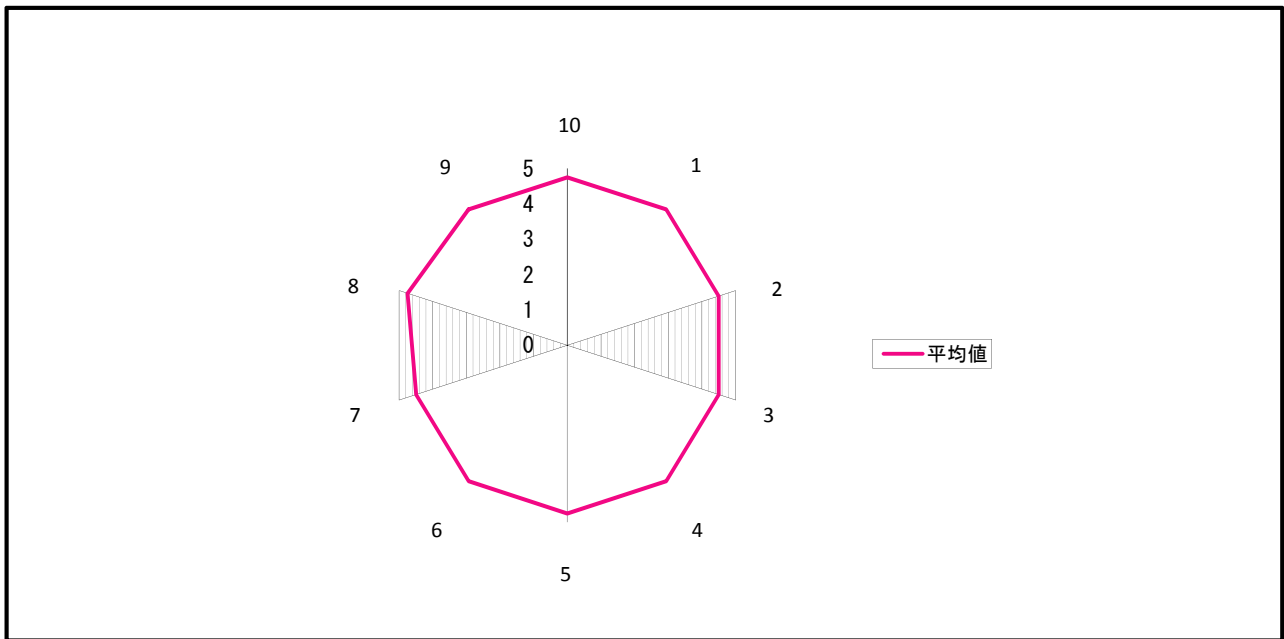
総合評価が4.8という高い評価がされているので、概ね授業として十分に理解されたものと考えられる。ただ受講生からの積極性をもっと引き出せるような努力が必要であったのかもしれない。受講生の中には、音楽コース以外の学生も多く含まれていたため、授業の進む速さが速いと感じる学生もいたようである。授業構成としては、前半で発声についての理論を説明し、後半でそれを実践的に歌うことにつなげていくという形をとっているが、授業の内容としては、これで十分に理解されたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏基礎演習
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 森 正, 田中 巳穂

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

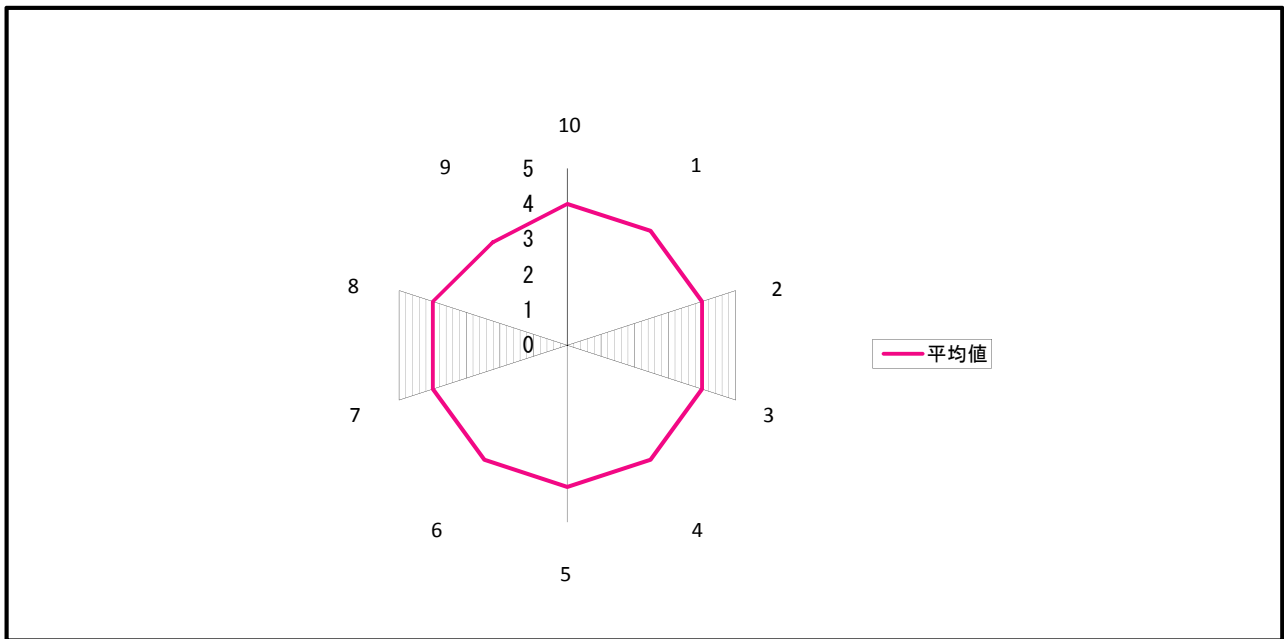
課題研究でピアノを選択している学生もいれば、その他の分野を選択している学生もいて、その結果、学生の学習状況やこれまでの経験値は様々であったが、個人レッスンを中心に授業を進めた結果、各学生の状態に応じた指導を行なうことができた。ただ個人レッスンだけでなく、授業内容から考えても、やはり集団授業の長所はあると考える。勿論、授業の進め方の中心はこれからも個人レッスンになるが、今後は、このような様々な学生の集まりでも可能な集団授業の方法を検討し、取り入れたい。

結果報告書

授業科目名 学校教材ピアノ伴奏法
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 森 正

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1			1	4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1			1	4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1			1	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1			1	4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1			1	4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1			1	4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1			1	4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1			1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1		1	3.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1			1	4.0



教員のコメント

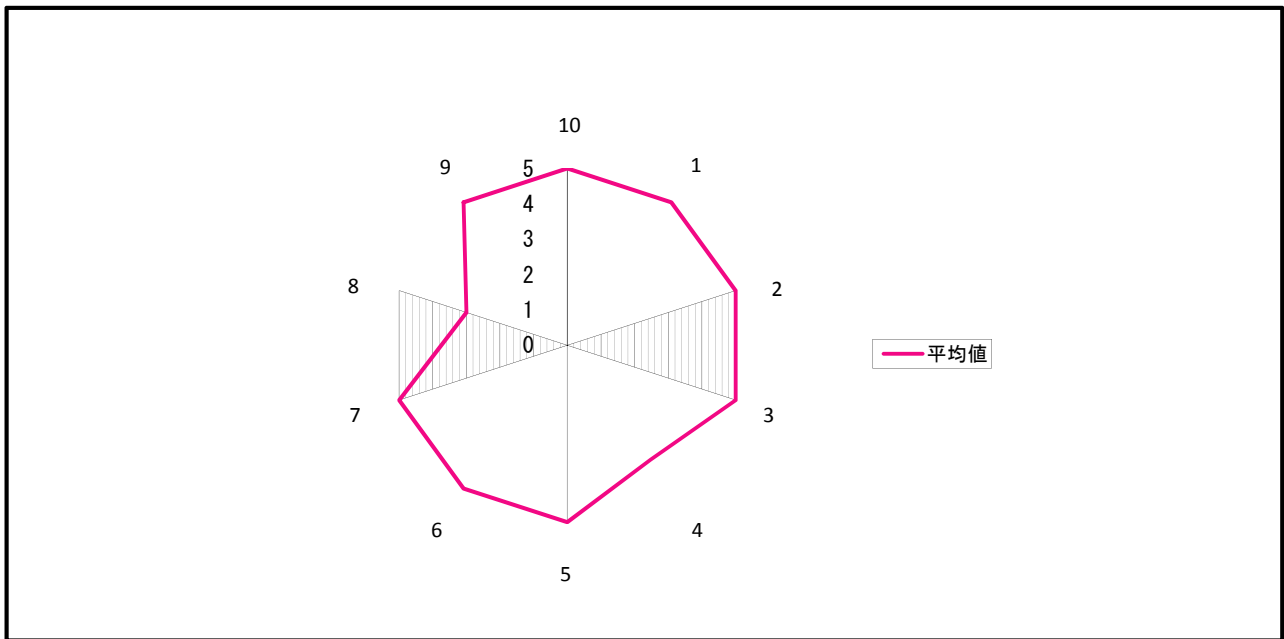
自由記述欄の記載から推測すると、評価の1と5の意味を逆に考えていた受講生が1名いたようである。受講生4名のうち、音楽コース以外に所属する学生が3名ということで、どの程度の内容で授業が出来るかが最初は懸念されたが、この学生たちも、非常に熱心に課題に取り組み、ピアノの演奏における経験不足から、演奏技術の点では多少心もとないところもあったが、授業で歌唱共通教材をどのように取り扱ったらよいのか、というこの授業の趣旨から考えると、十分に成果が上げられたと思う。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏法
 評価実施日 平成28年7月21日
 担当教員名 森 正

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		1				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。			1			3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

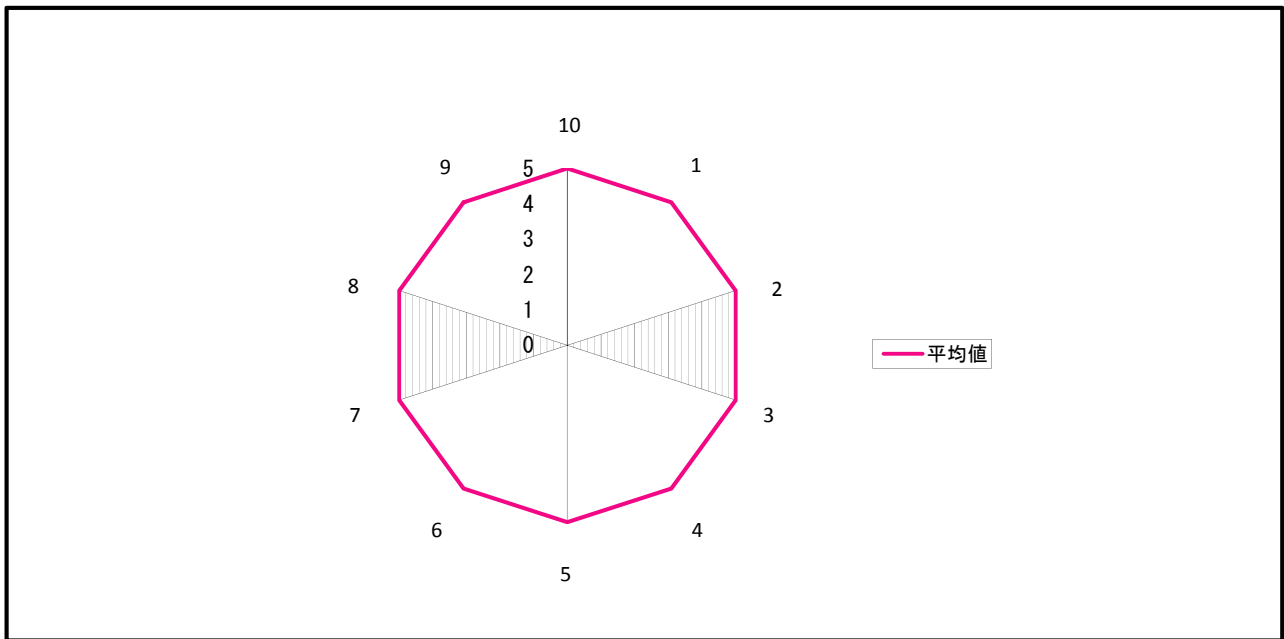
受講生1名の授業で、しかも課題研究との関連から、7月に開催された音楽コースの主催する学内演奏会に出演を予定していた学生であったので、非常に熱心に取り組んでいた。授業では、単なるピアノの演奏法に留まらず、受講生が中学校の教員を目指していたことから、そこで有益であると考えられるピアノ初見視奏も取り入れ、東京都の教員採用試験に合格することが出来た。1コマを学生ひとりのために使うという、非常に贅沢な授業であると思うが、その成果はあったと思う。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器総合演習
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 山根 秀憲

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

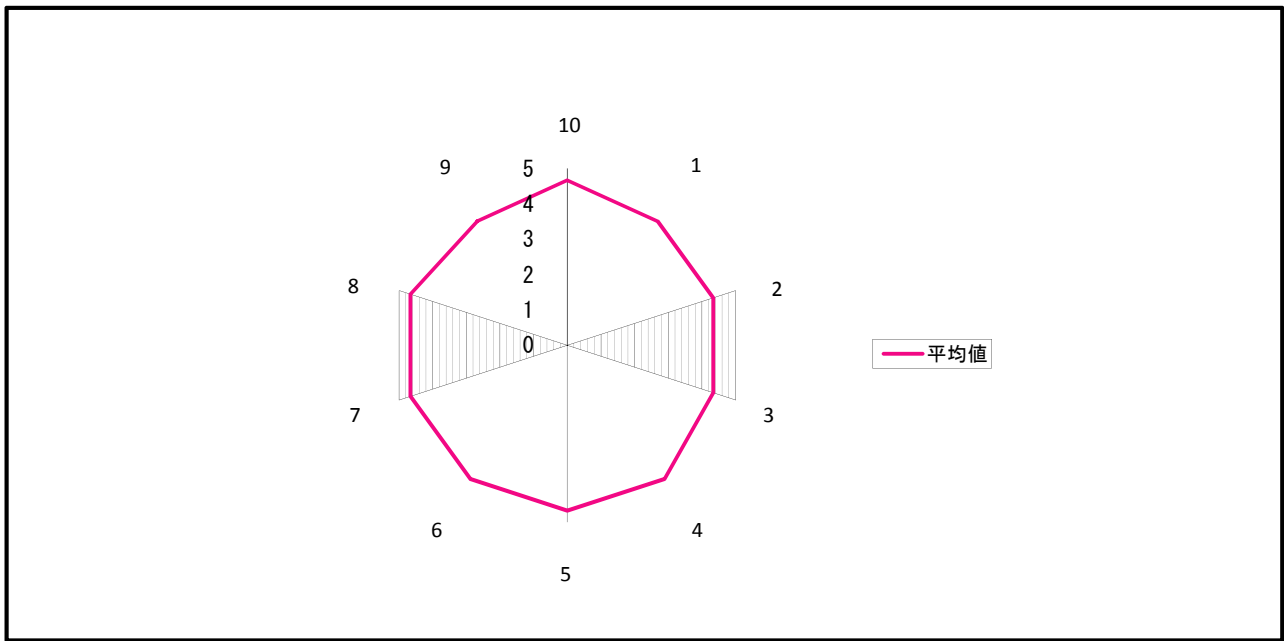
受講者が2人という大変人数の少ない授業であった。一人は、作曲分野を専攻していたため、毎回の授業で小品を作曲し、この授業の中で、教員を含めて全員で演奏した。作曲する側からすると、演奏する人の演奏能力を知った上で作曲することができた。もう一人の受講者にとっては、作曲者が自らのために書いた作品を演奏する、という貴重な体験となったと思われる。受講者が少なかったのは、音楽コースの入学者が少なかったことに原因がある。受講生が少なかったため、個々のニーズに沿った授業ができた。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器演奏基礎
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 山根 秀憲

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

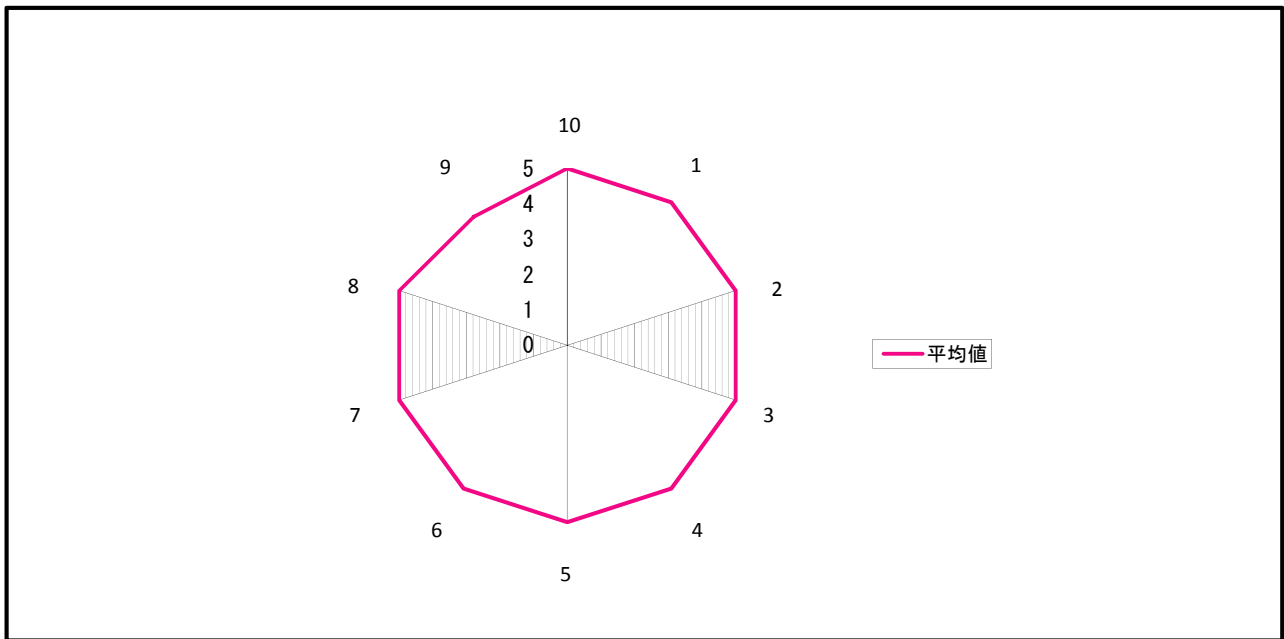
受講者が3人という大変人数の少ない授業であった。本授業では、受講者の希望により選択した楽器の演奏について学習する。しかし、授業の趣旨としては、自らの選択した楽器以外の楽器の事柄についても、他の受講者の学習を見聞きすることを通して学びを広め、深めることを求めている。この点に関して、受講者が少ないことにより授業内で見聞できる楽器の種類が非常に少なくなってしまった。クラス授業として展開することのメリットが十分には得られなかったことが残念である。この弱点を補うために、授業中に他の楽器に関する話題の提供に努めてきたが、理解は不十分と言わざるをえない。また、受講者の傾向として、多種多様な楽器への積極的な関与を求めようとしていないように思われる。

結果報告書

授業科目名 指揮法基礎演習
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

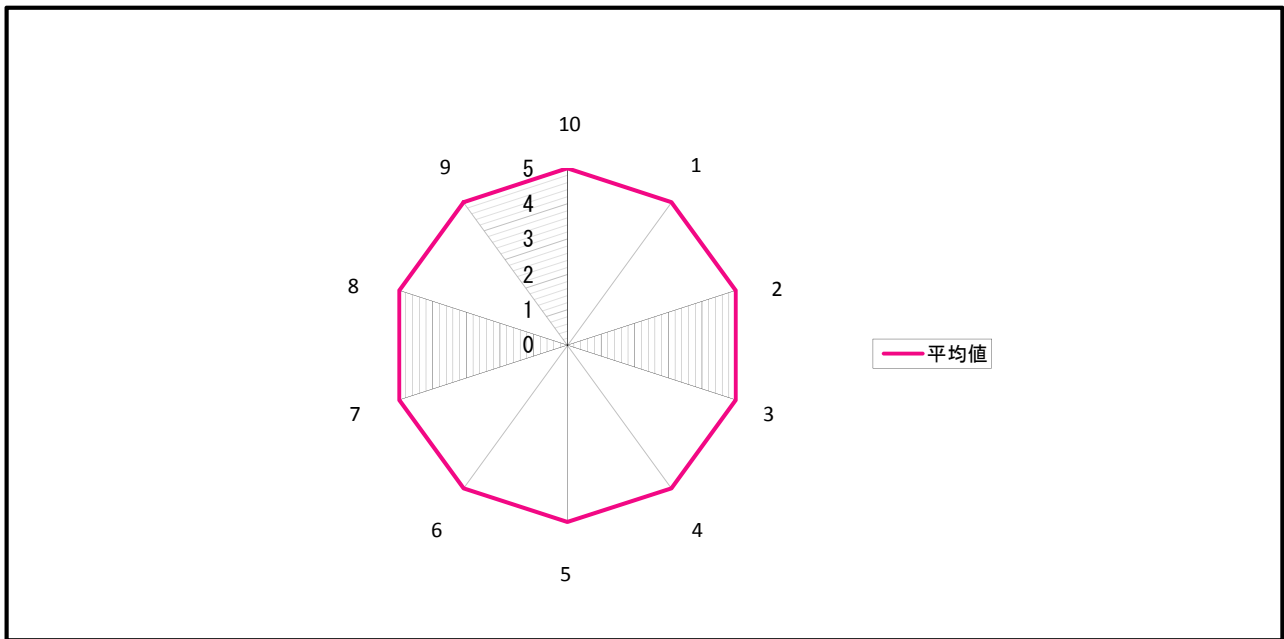
今年度の受講生は2名(+聴講生1名)と、あまりにも少なすぎた。今回のアンケートの結果は残念ながら参考にならない。

結果報告書

授業科目名 楽曲分析研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 松岡 貴史

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



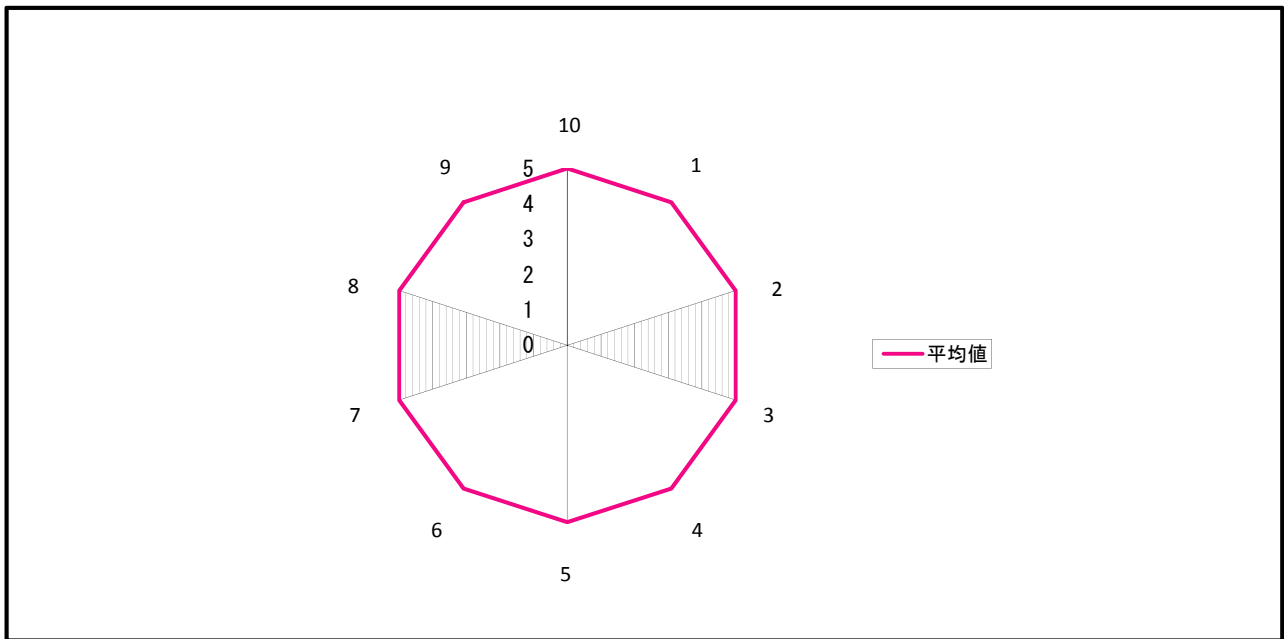
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 絵画制作研究
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 鈴木 久人

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

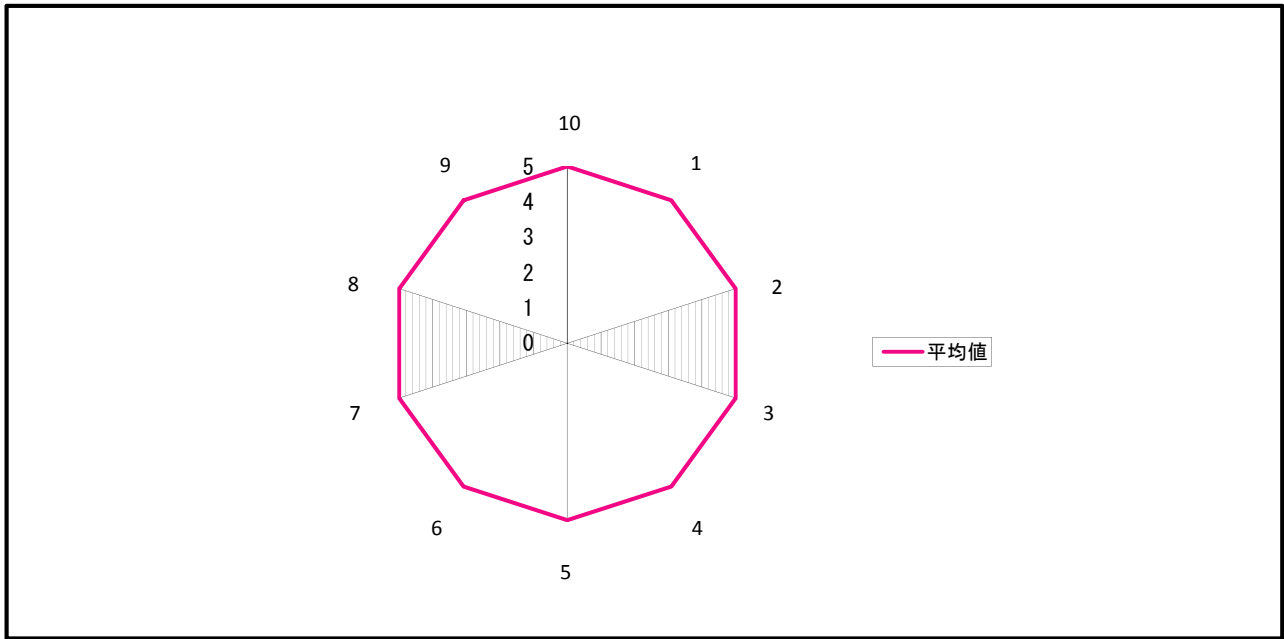
質問項目、総合評価ともにすべて5.0の評価であり、自由筆記の項目もこの授業に対して好意的なものであった。しかし、受講者は1人であり、今回はこれに対するコメントは控えたと思う。アンケートに丁寧に記入いただいた学生には感謝している。

結果報告書

授業科目名 石彫制作演習
 評価実施日 平成28年8月5日
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

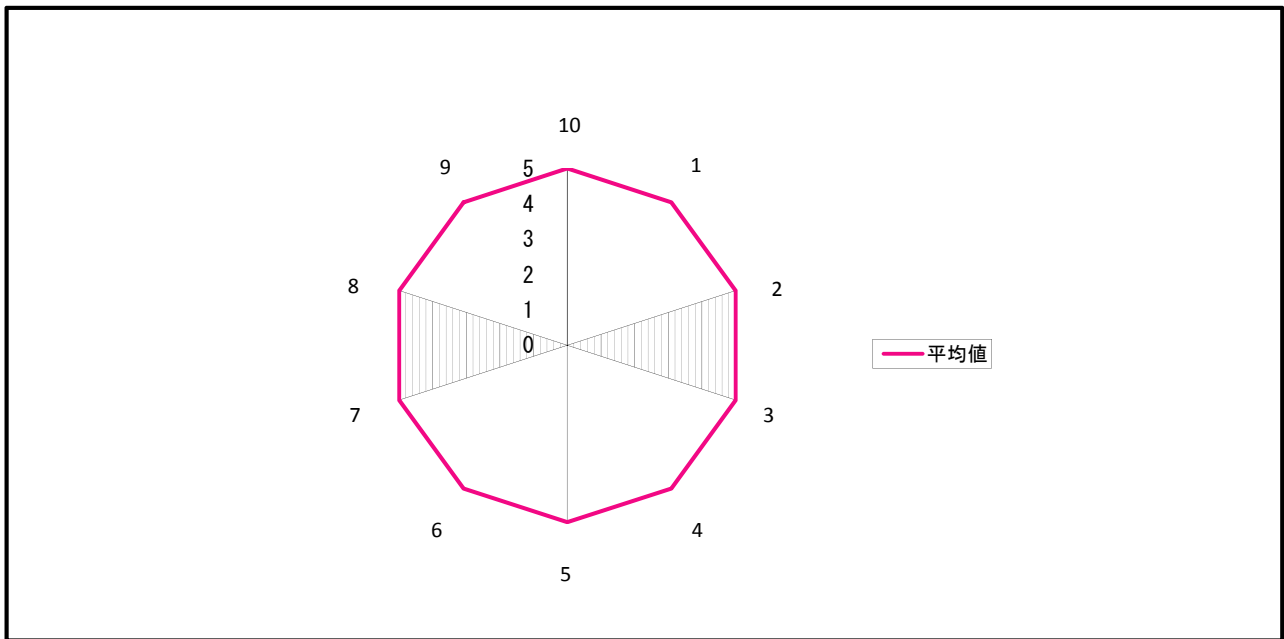
本年度は履修者が一人であった。本アンケートはすべての項目で5である。回答者として悪い点をつけずらかったかもしれないが、感想文の内容はこちらの石彫に対する熱意を感じたという内容などであった。一人の履修で難しい面もあったが、石彫の魅力を伝えることに例年以上にプロジェクターを使うなどして授業の工夫を行った結果であると考え。少ない受講者における授業のあり方の勉強になった。

結果報告書

授業科目名 陶芸制作演習
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 栗原 慶

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

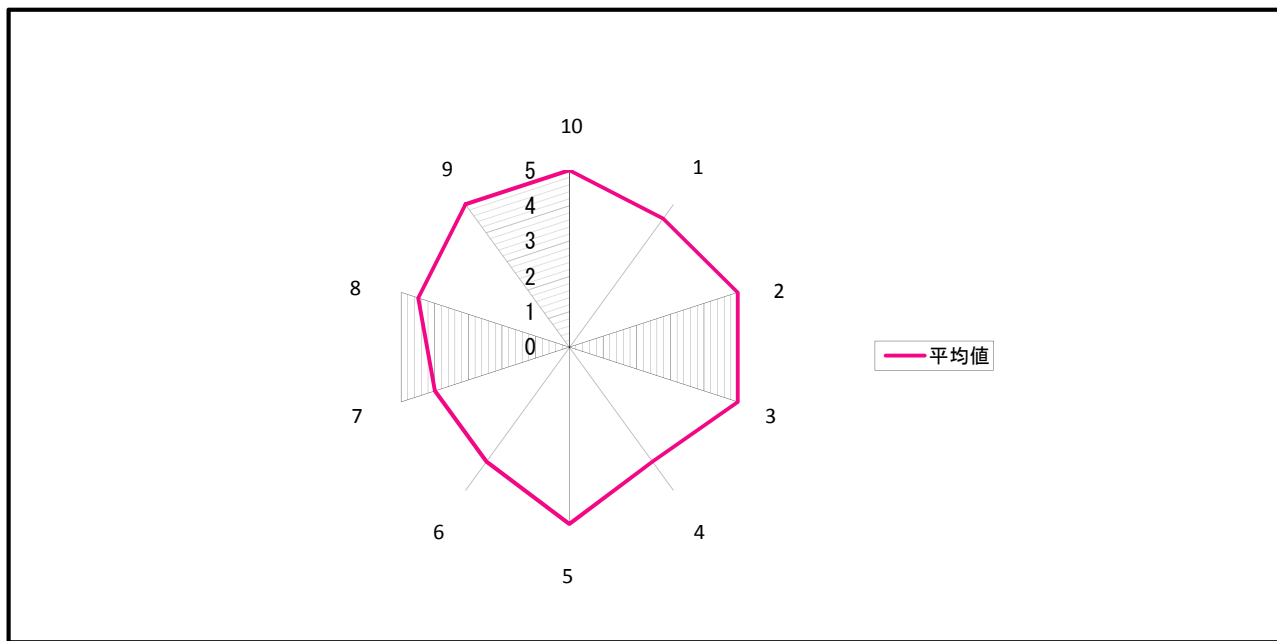
受講者すべてから5点評価を受けたことは素直に喜ばしい。考えられる理由として、教室のスペースに対して受講人数が適度で作業が行いやすかった点と、15回の中で基本から応用までが体験できたことがあると思う。グループ分けをし、ロクロ機械での制作と作業台での制作を分けて行ったことで、指導を集中して細かく行えたこともよかった。しかし今回は受講人数が適度だったことや、受講学生一人一人が真剣に取り組んでくれたおかげであったこと等、運営上学生側に助けられた面もあり、今後も同じようにいく保証はないので気を引き締めたい。また授業外の時間での窯たき作業やメンテナンスにも時間や手間をかけねばならず、教員一人で出来ることを超えてしまっているところもあるので、内容を落とさず、省力化できることや、学生と協力出来ることを探っていきたい。

結果報告書

授業科目名 総合造形研究
 評価実施日 平成28年9月17日
 担当教員名 高橋 耕平

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。		2				4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。		2				4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



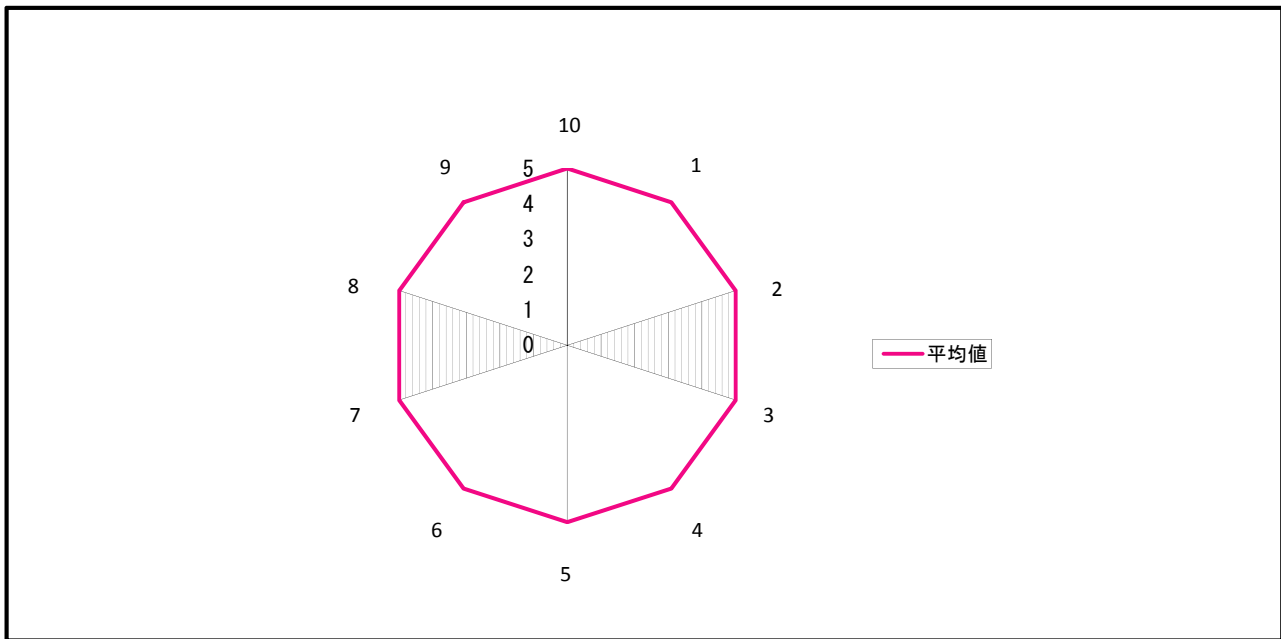
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 美術科授業研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

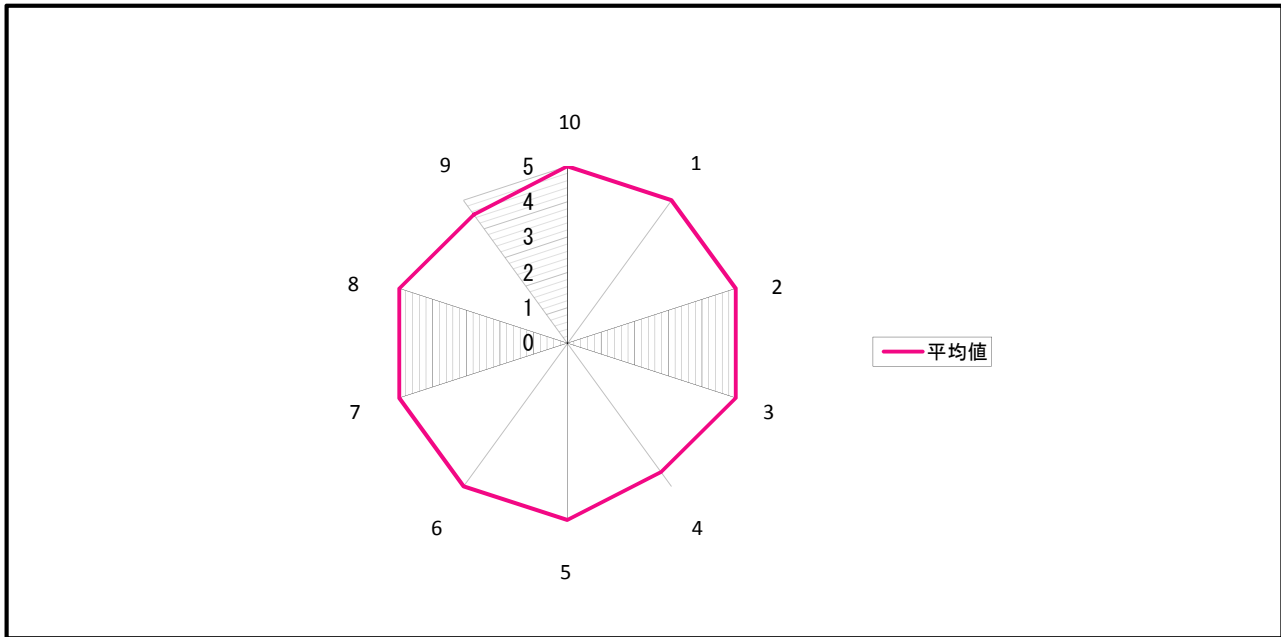
1名の授業評価が、どれほどの意味を持つのか、はなはだ疑問ではあるが、受講生個人の学びの要求を満たしたとは言えそうである。今後も授業改善を怠らずに、よい評価を得られるよう、精進したい。

結果報告書

授業科目名 美術科教材開発研究
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 山田 芳明

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



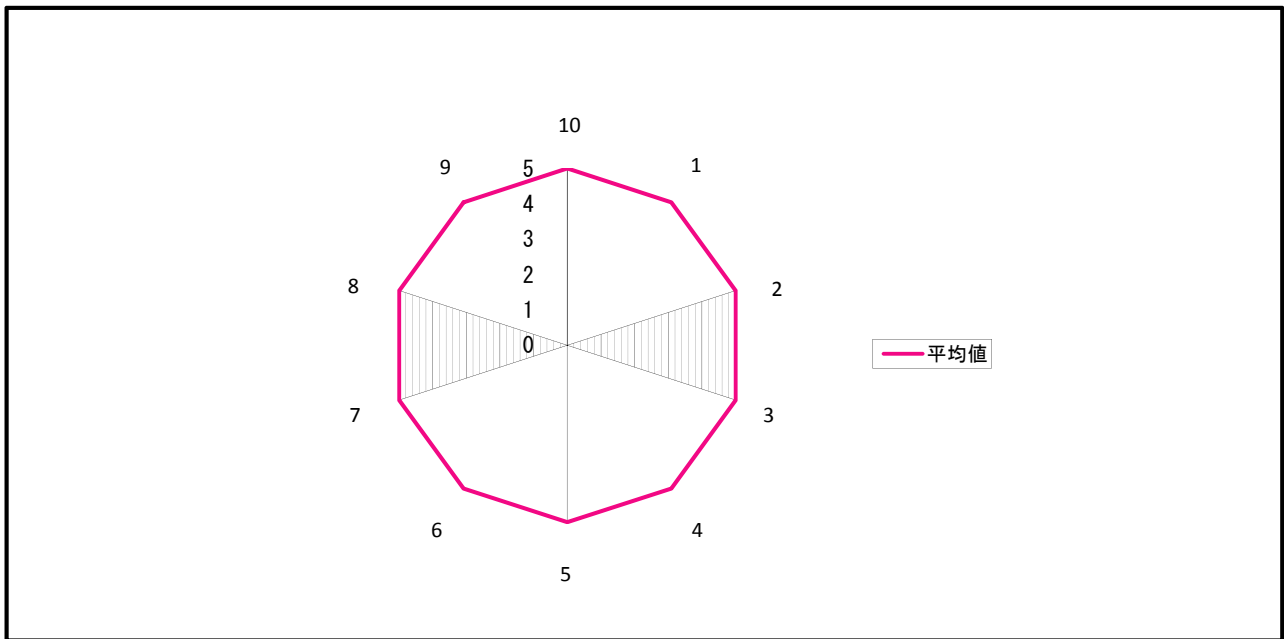
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 美術科教育研究法演習
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

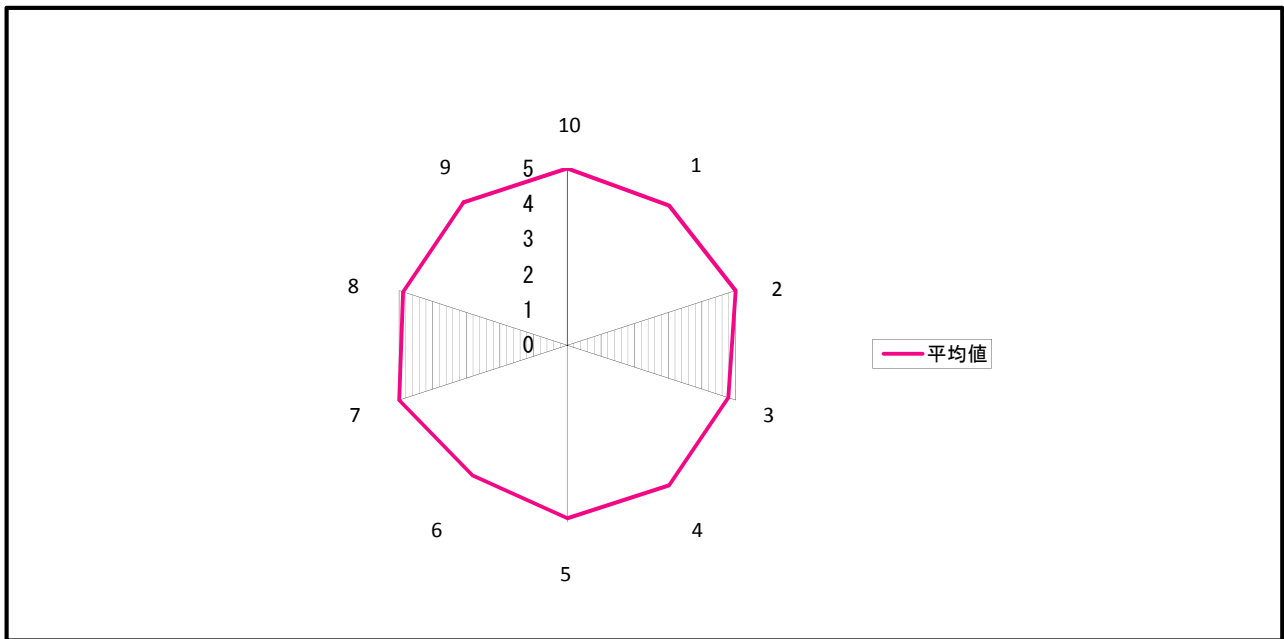
1名の授業評価が、どれほどの意味を持つのか、はなはだ疑問ではあるが、受講生個人の学びの要求を満たしたとは言えそうである。今後も授業改善を怠らずに、よい評価を得られるよう、精進したい。

結果報告書

授業科目名 スポーツ社会学研究
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 木原 資裕

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	4				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



教員のコメント

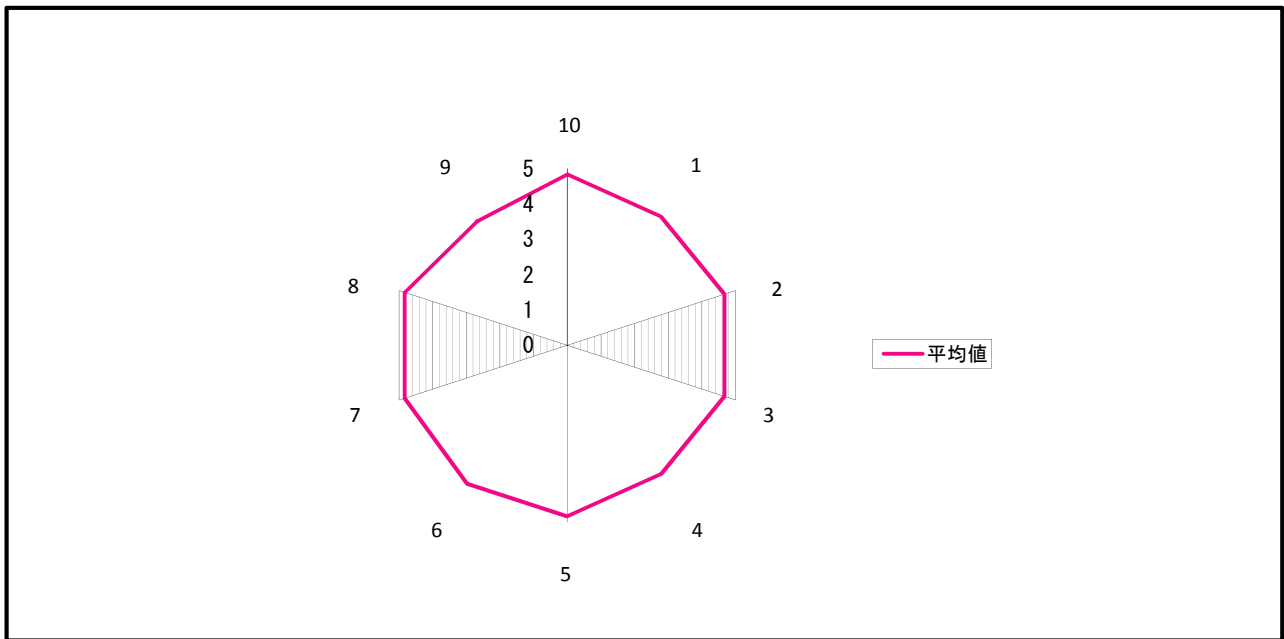
総合評価「10.この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」に受講生全員が「5」と評価しているおり、授業の意図がかなり理解できていたものと思われる。しかし、一方で「6.受講生にわかりやすく説明した」は平均値4.6であり、授業内容の説明に、まだ改善の余地があることが示されている。全般的に高評価を得ているが、これにおごることなく、授業内容と授業の展開力を高めていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 学校体育経営研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 藤田 雅文

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

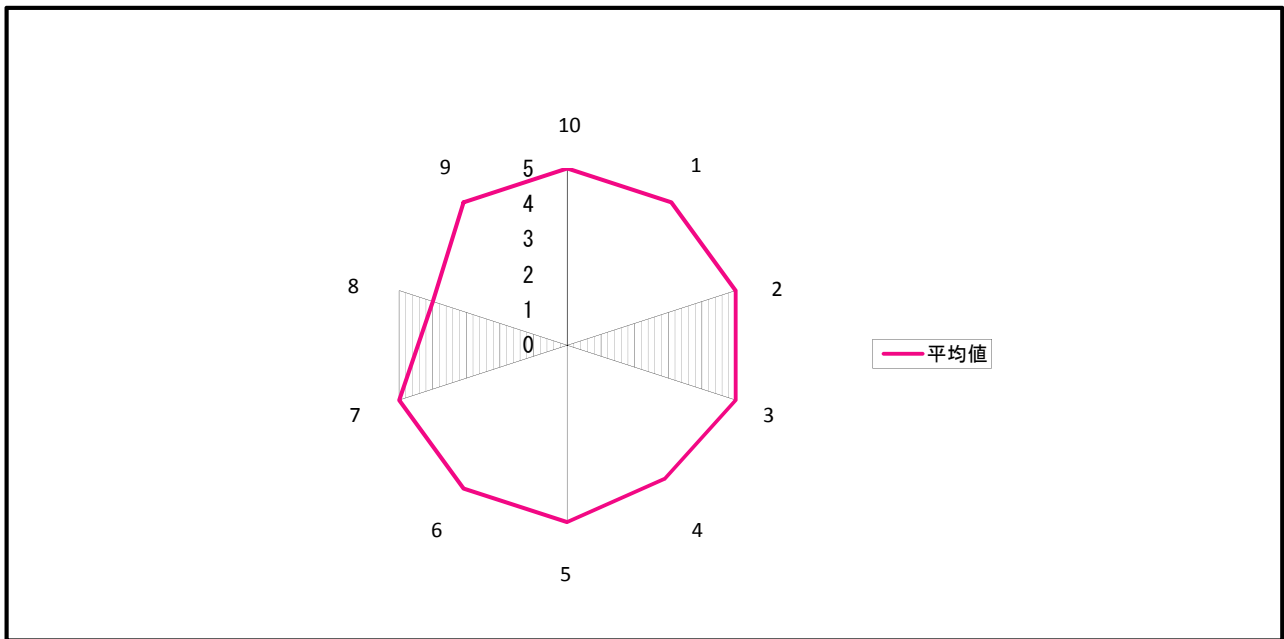
総合評価の平均評価点は4.8であり、極めて高い評価を得たと考えている。
 来年度以降も同様の内容と方法で授業を進めていきたいと考えている。なお、良かった点について4名から以下の回答があった。
 1.体育授業においてどのようなことに気をつけながら授業を進めてゆかねばならないのかがよく分かった。
 2.毎回の授業で資料が配布されたので見直しができる。
 3.実際に教師になった時に役立つ内容であった。
 4.実際に教員になってから活かせる知識を得た。試験も授業内容を反映する良い問題であった。

結果報告書

授業科目名 体育・スポーツ心理学研究
 評価実施日 平成28年9月15日
 担当教員名 村上 妃斗美

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

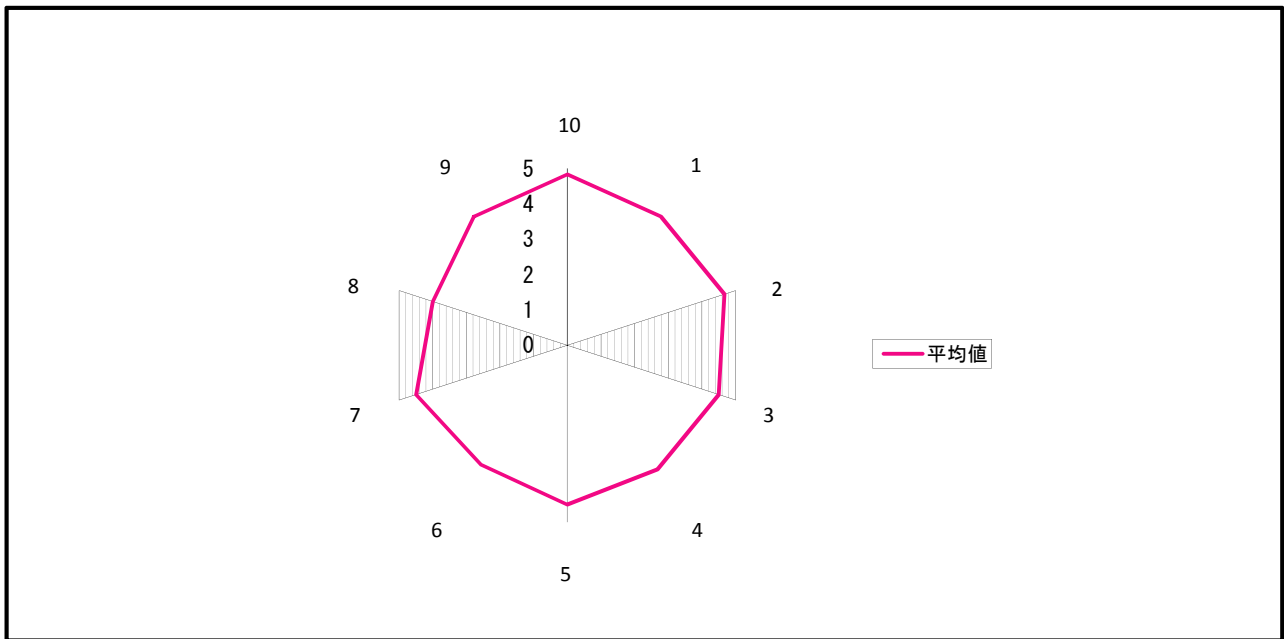
本講義では、履修者が3名と少なかったため1人1人に対応できたと考えられる。いずれの履修者も積極的に参加し、発言もあったためコミュニケーションを多くとることができた。しかし、アンケート結果より、板書や視聴覚機器の活用について工夫が必要であったと考えられる。また、成績評価の方法や基準についての説明も具体的にすべきであったと考えられる。次年度は、今回の履修者の意見を参考に授業の開講時期についても検討する必要があると思われる。

結果報告書

授業科目名 運動学研究
 評価実施日 平成28年7月1日
 担当教員名 乾 信之

回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	1				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3	1				4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント

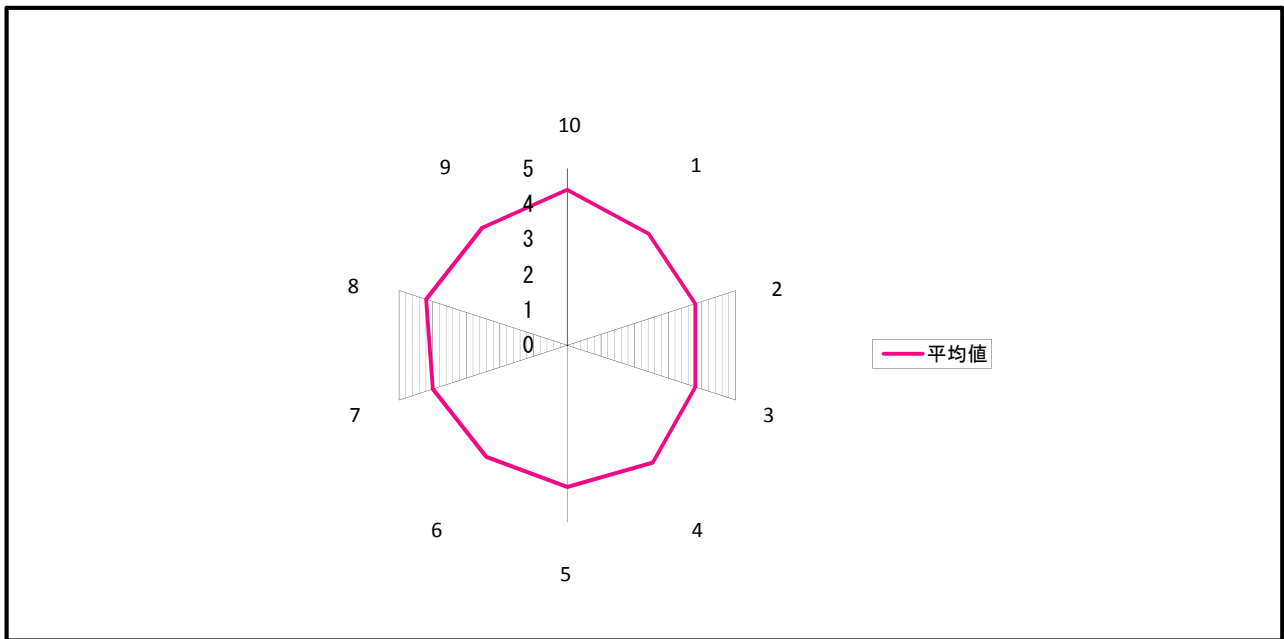
月刊体育科教育, 体育の科学, 日経サイエンスから論文を選び, その内容を受講生に発表してもらい, 論議した。これは従来からの形式であり, アクティブ・ラーニングといわれる前からすでにアクティブ・ラーニングになっていた。「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」は高い得点になっているが, 発表者は高い得点に対応した活動をしているが, 他の受講生は必ずしも予習をしておらず, この得点に対応していない。この点が改善されなければならない。

結果報告書

授業科目名 スポーツ・バイオメカニクス研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 松井 敦典

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3	4			3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3	3	1		3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4	2		1	3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	5	2			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	4	3			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	2		1	3.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2	4			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	2			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	1	1		4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	4	1			4.4



教員のコメント

本授業は、保健体育科の授業を担当したり、スポーツの指導をしたりする上で必要な、身体運動の動きに関する物理的な基本知識を取り扱っている。経験や勤に頼らず、具体的な根拠を持って指導にあたるための考え方や方法を取り扱っている。受講生の回答や自由記述からは、このような狙いをよく理解し、それを将来の職業で活用することを前提に授業に取り組んでいる様子がわかる。しかし、内容の理解の程度についてはあまり芳しくないようであり、例年の受講状況や、同程度の内容を取り扱う学部授業の受講生と比較しても、若干の理解不足が見られた。

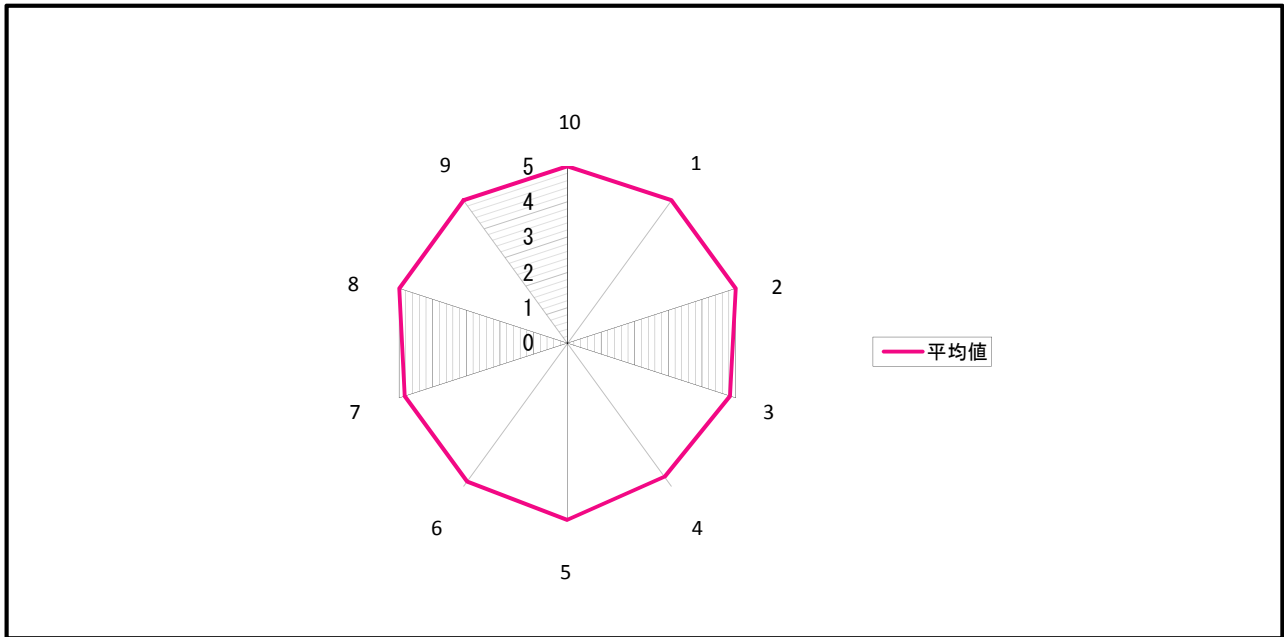
保健体育を専攻する学生は、高校時代の進学指導等において主に文系向けの取扱いを受けている場合が多く、数学・物理をはじめとする自然科学的な理解に必要な知識が十分とは言えない面がある。今後もこの傾向は継続すると思われるので、本授業の目的を達成するためにもそれらを補完する何らかの取り組みが必要と思われる。

結果報告書

授業科目名 スポーツ・トレーニング演習
 評価実施日 平成28年9月19日
 担当教員名 南 隆尚

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



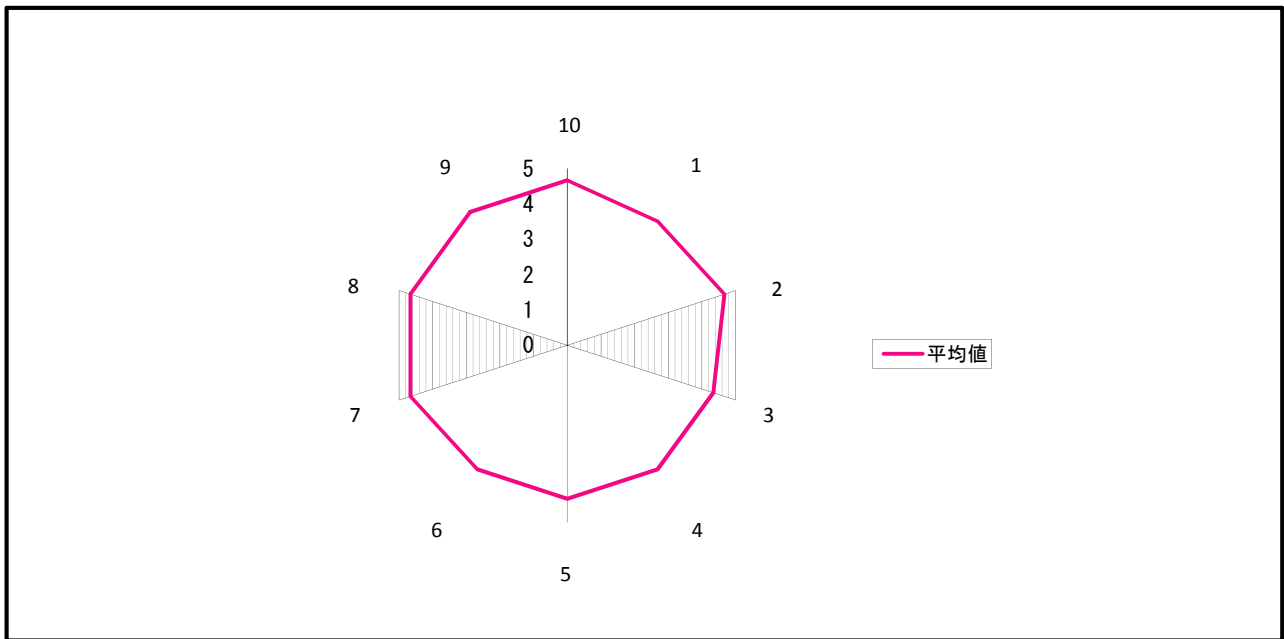
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 学校保健学研究
 評価実施日 平成28年9月30日
 担当教員名 吉本 佐雅子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2		1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2		1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

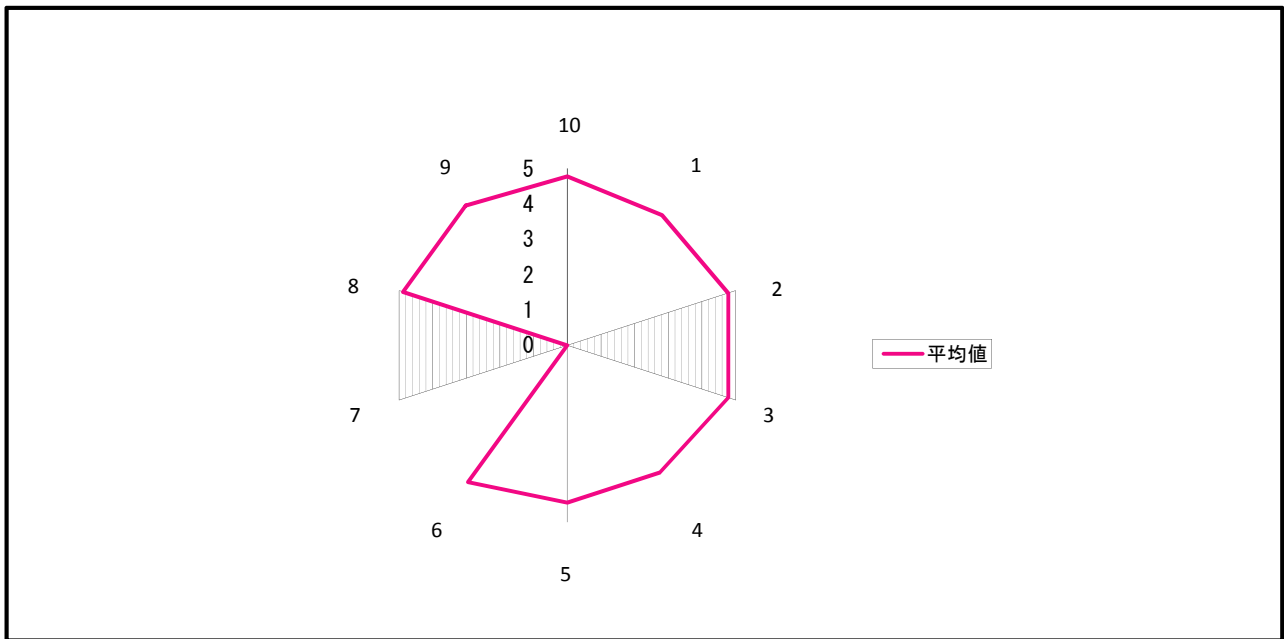
集中講義のため、講義形式のみでは学生の関心を持続する事は難しいと感じ、演習的な講義を取り入れた。具体的には、受講者は修士論文を作成している時期に当たるため、それに役に立つよう、データのまとめ方、図、表の描き方を練習させた。講義は一般的な学校保健関連、統計関連等を行ったが、内容が散漫になった事を反省している。しかし、総合評価が比較的良かったのは、受講者が3名で互いに話しながら講義を進め、現実に修士論文に役に立つ内容を行ったためと考えられる。

結果報告書

授業科目名 運動生理学研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 田中 弘之

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	5				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	5				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



教員のコメント

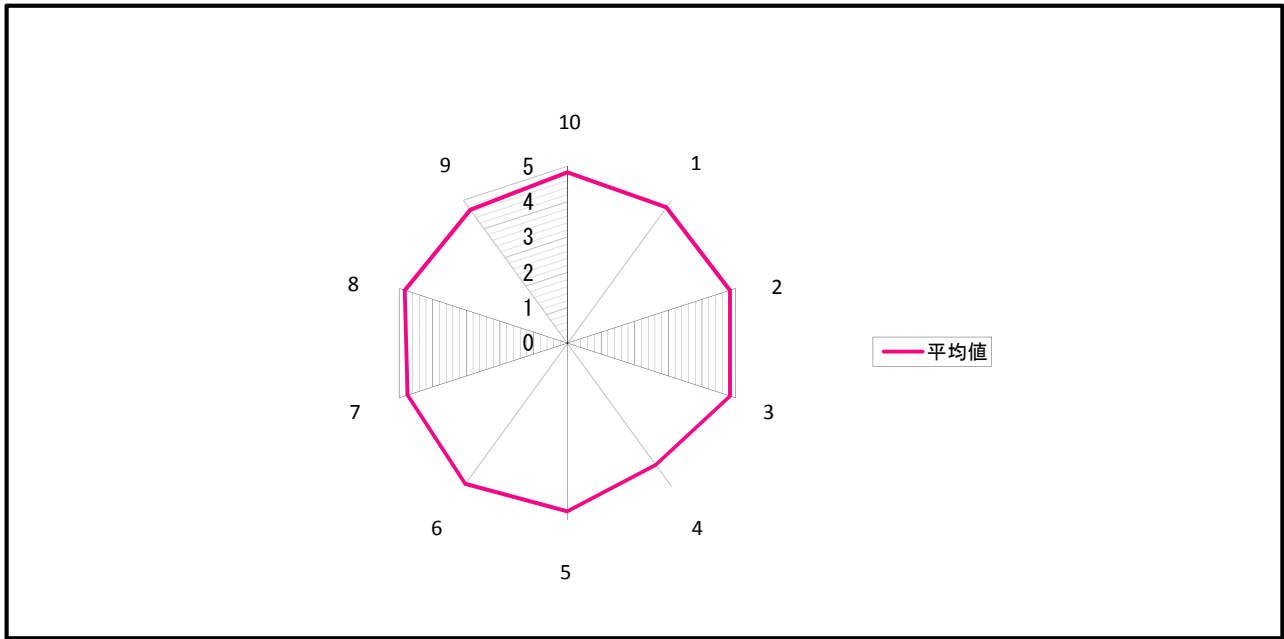
評価の平均値は4.7であり、総合評価においても4.8と判断されていることから、例年通り、当初の講義目的は概ね達成されたと考えられる。
 【授業に主体的・積極的に取り組んだ。】について、『授業中に出た疑問点について調べた』『毎回出される課題を必ずやった』『授業中、先生からの発問が多く、積極的に取り組むことができた』など、主体的、能動的な取り組みがあり、従来よりも授業改善の成果が高まったと思われる。
 その他の自由記述欄の概観では、『体育教員として重要な内容を基本から応用まで学ぶことができた』『小学校、中学校段階における体育の重要性について知ることができた』『学生の疑問をしっかりと解決していた』など、概ね好評であった。
 改善するべき点として、例年、講義の進度について指摘を受け続けており、今年度は速度を落としたため『ゆっくりと進んでいたため、最後がバタバタした』との記述もあり、講義進度については、毎年を受講生の反応を確かめながら、今後も効率的な授業展開に一層の創意工夫を重ねたい。

結果報告書

授業科目名 保健体育科教育学研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 梅野 圭史

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	7	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	3				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2				4.8



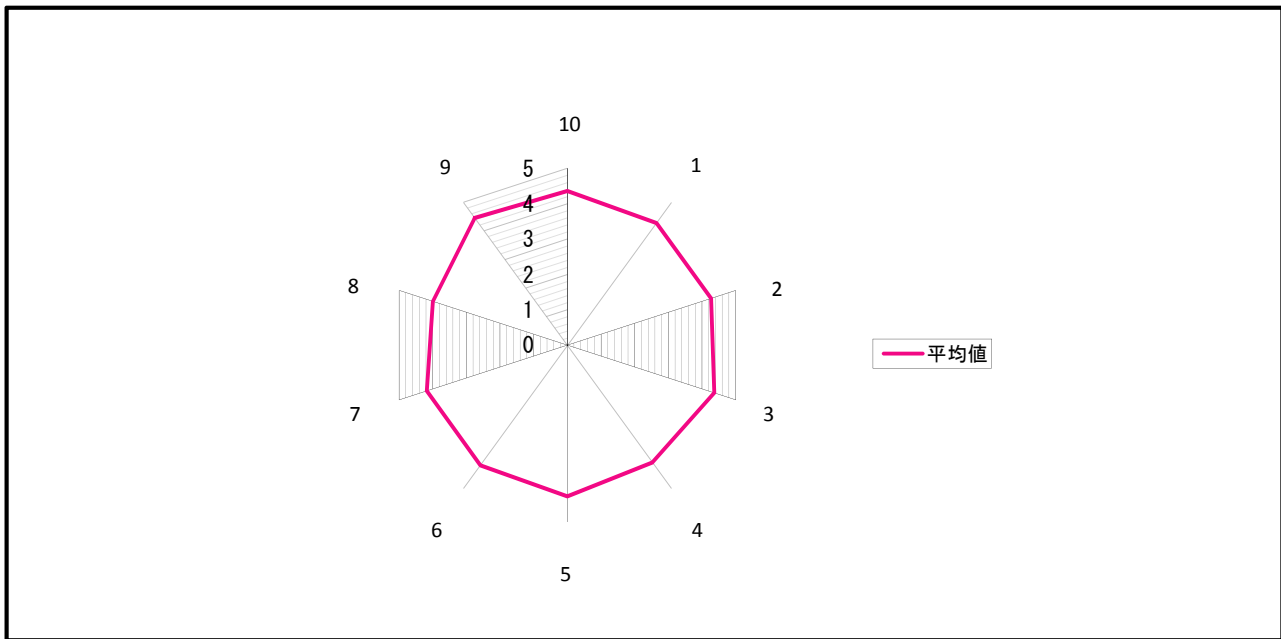
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 体育教授学研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 綿引 勝美, 湯口 雅史

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	6	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	6	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	5	1	1		4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	4	2			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	4	2		1	4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	5	2			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	2	1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	5	1			4.4



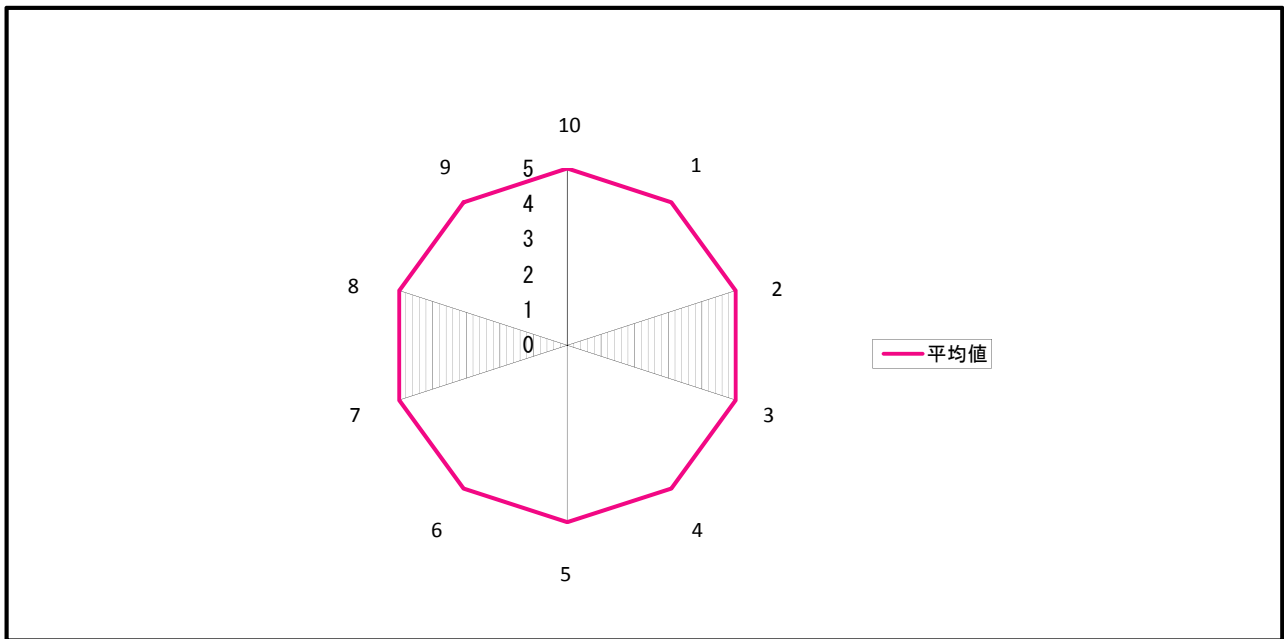
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 情報処理研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

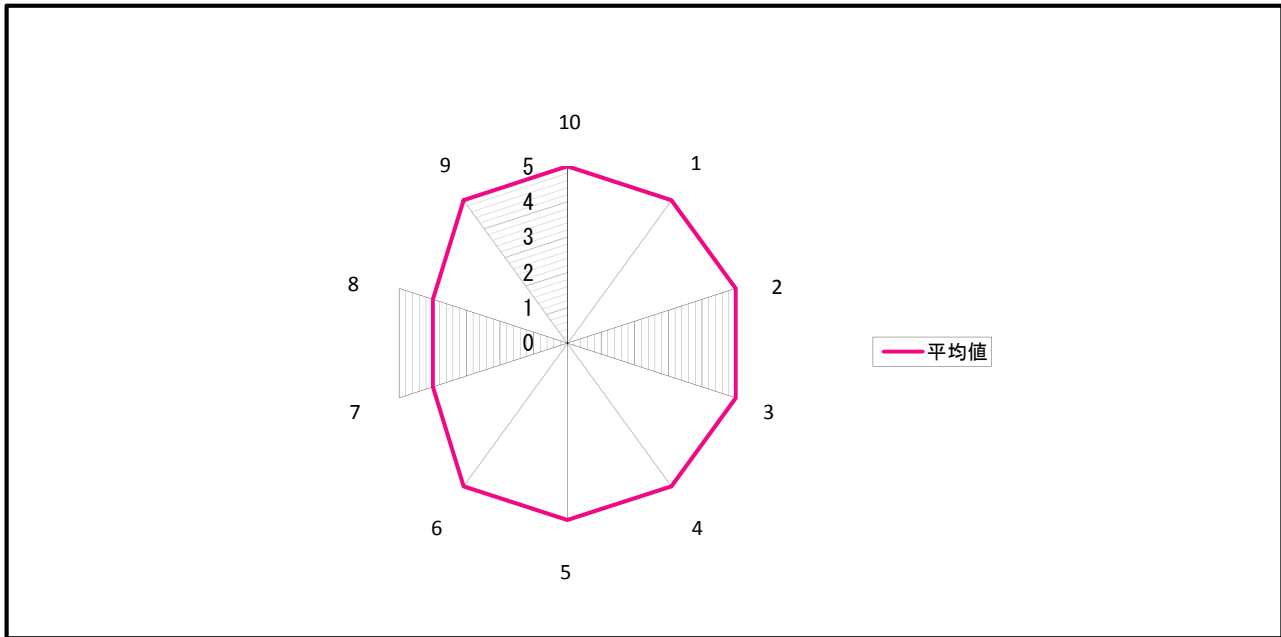
今年度は受講者の人数が少なかったために反応を見ながら授業を進めることができた。特に、外国の情報機器変遷に関わる博物館情報や収集・復元している情報機器の展示が好評であった。今後も学生のためになる授業を維持していきたい。

結果報告書

授業科目名 プログラミング演習
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 戸川 聡

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



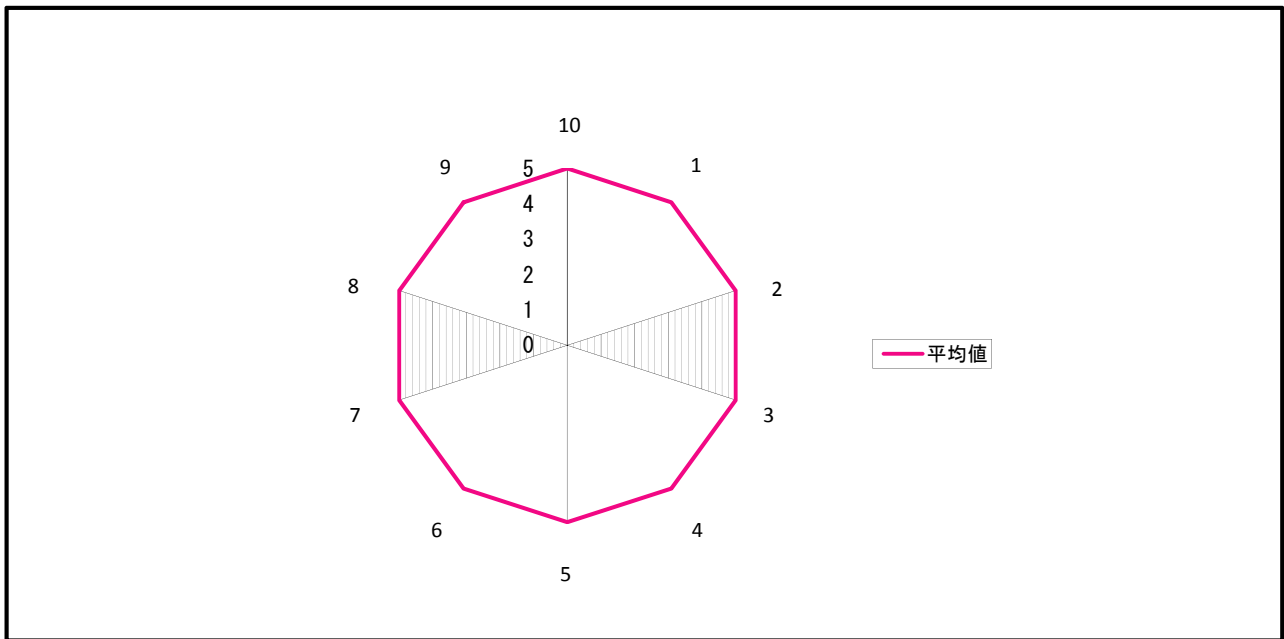
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 情報科教育研究Ⅱ
 評価実施日 平成28年9月16日
 担当教員名 森山 潤

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

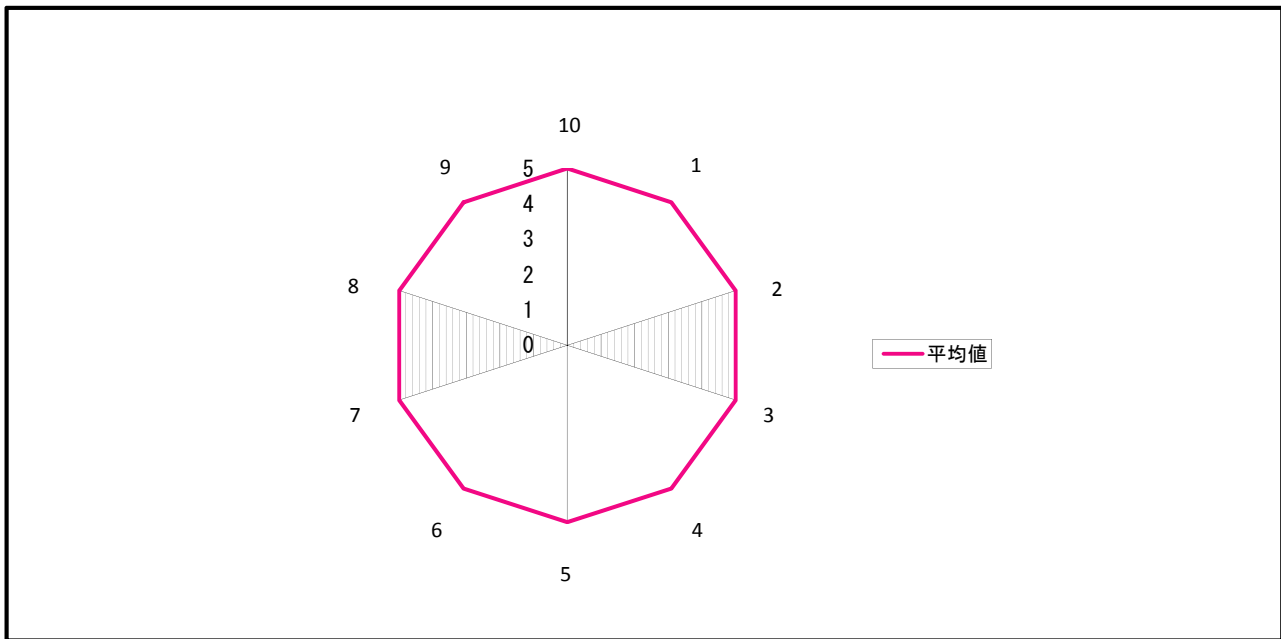
概ね高い評価を頂き、大変、ありがとうございます。今後も受講生の皆さんのニーズを踏まえた授業の内容、方法を工夫していきたいと思
います。

結果報告書

授業科目名 家族・ジェンダー研究
 評価実施日 平成28年7月28日
 担当教員名 黒川 衣代

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

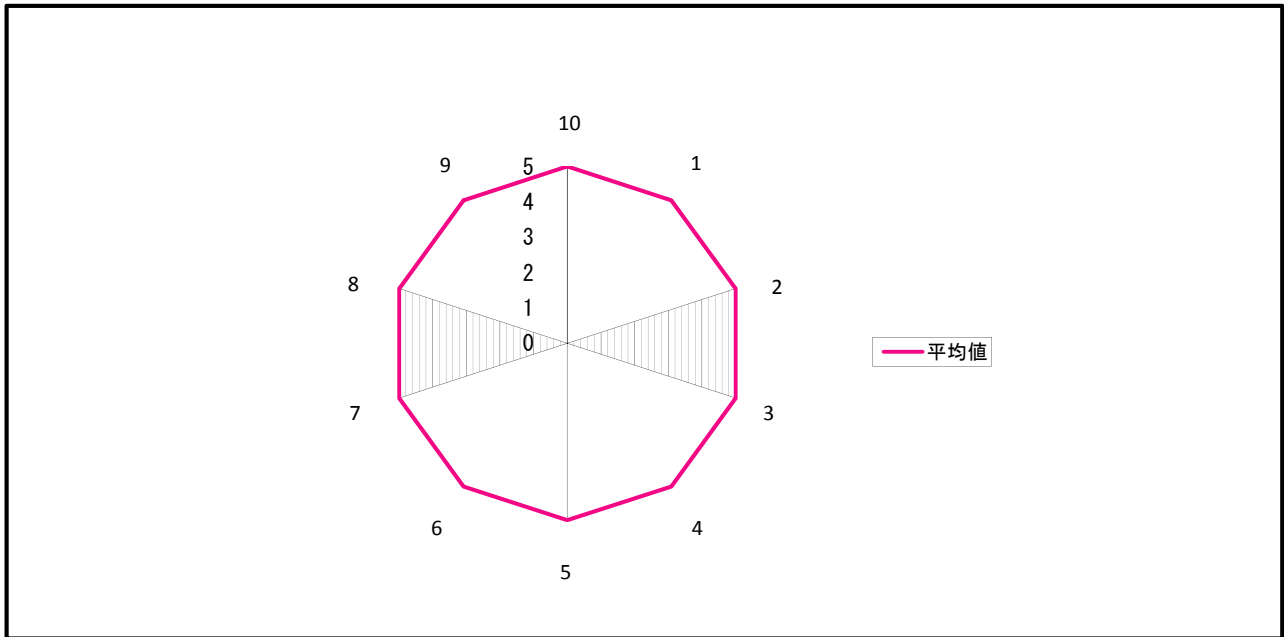
授業内容は、日本家族を歴史的に概括した上で、戦後の日本家族の変化を中心に構成した。親子関係、夫婦関係、地域と家族の関わり、ジェンダー等についての講義を基に意見交換を行い、理解と思考を深めた。受講者は2名であったが、2人ともとても熱心に取り組まれたので活発な話し合いができた。クラスの児童や生徒の家族を思い描きながら、現実の問題と重ね合わせて、家族理解をさらに深めたようである。

結果報告書

授業科目名 生活経営学研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 坂本 有芳

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

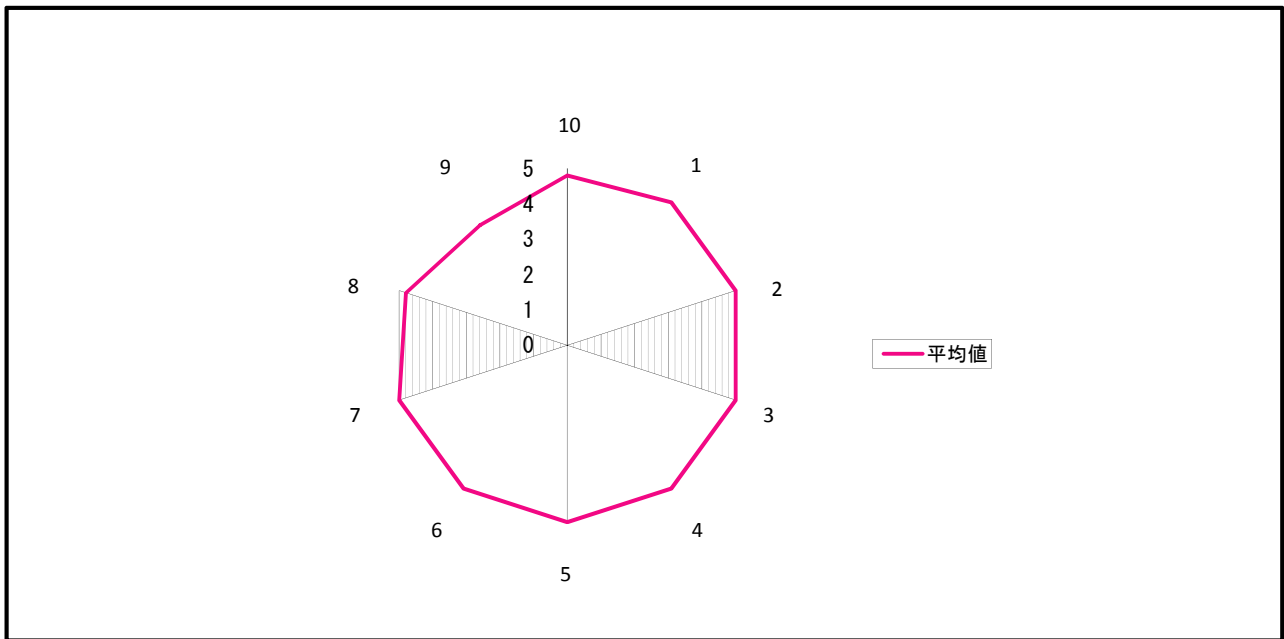
専門分野の基本的知識を養う目的で、専門書に基づいた授業を実施した。難解な内容も含まれていたものの、事前学習や学生による発表を取り入れるとともに、具体的な事例について補足説明することで理解がうながされたよである。今後も主体的な学習をうながしながら、多くの知識を習得できるような授業方法を改めて考えてゆきたい。授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 衣生活学研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 福井 典代

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		2			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

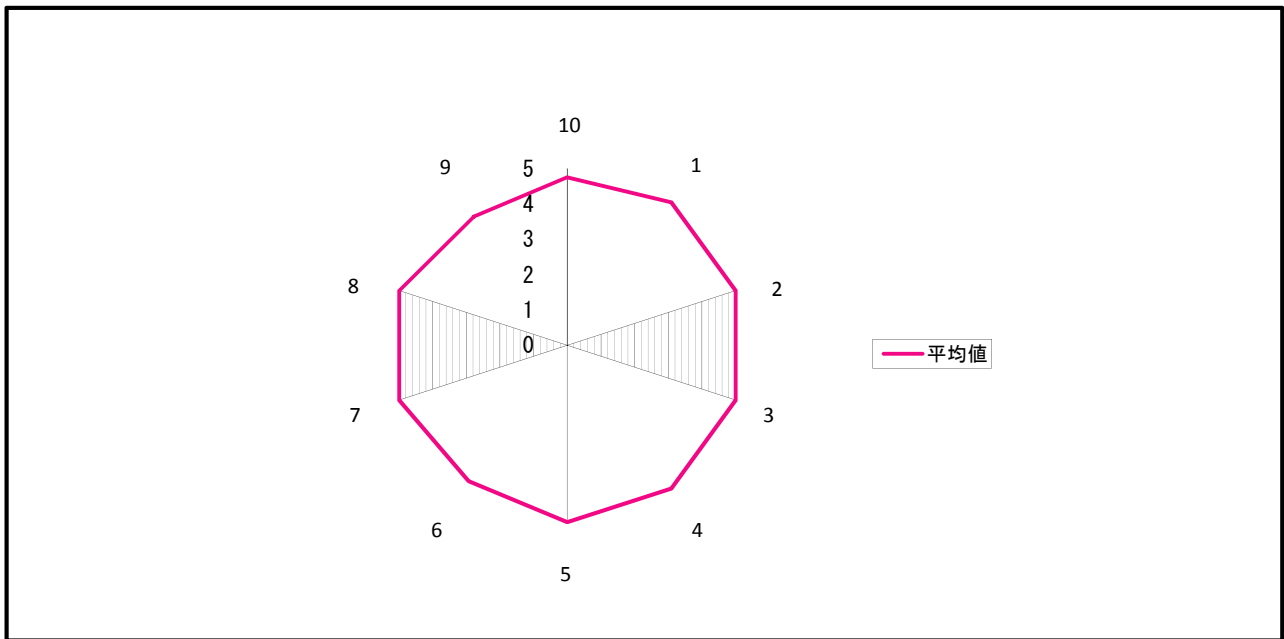
「衣生活学研究」は講義科目であるが、実験・実習を取り入れながらわかりやすく授業を進めた。学生の総合評価は4.8となり、おおむね良好な評価が得られた。
 この授業でよかったと思われる点として、「衣生活についての科学的背景がよくわかった。豊富な実習で楽しく学ぶことができた。」、「いろいろな実験ができ、楽しかった。」、「毎時間、実習や実験ができたこと。実際に体験することで理解が深まった。」、「実習という点がよい。教材として使える。」、「楽しかった。実験が多くてためになった。」と受講者全員から実験を取り入れた授業について前向きな意見が寄せられた。
 授業に積極的に取り組んだことの自由記述として、「質問や発表を積極的に行った。」、「積極的に参加した。」というように、受講者全員が授業に対して主体的に取り組んでいた。「生徒にぜひ実験をさせてやろうと思いました。」、「すばらしい授業だった。」という感想が寄せられ、準備と後片付けは大変であるが、これからも実験・実習を取り入れた授業を行いたい。

結果報告書

授業科目名 食生活学研究
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 松永 哲郎, 西川 和孝

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

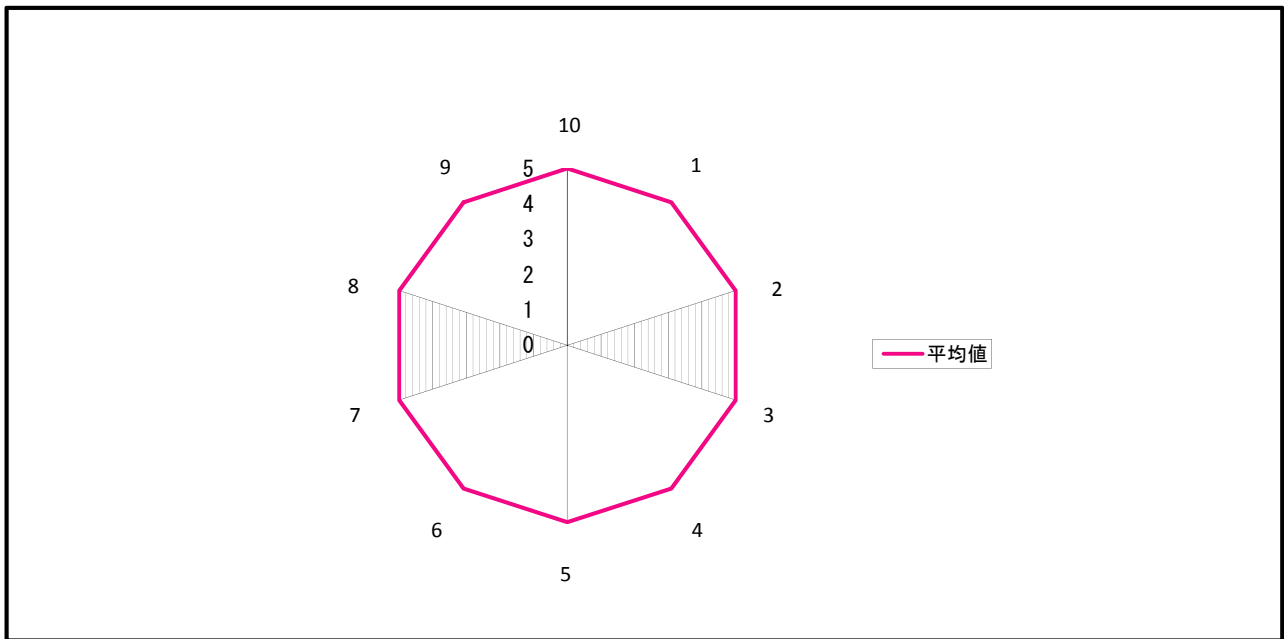
食生活学に関する様々な専門的な内容や近年の食に関するトピックスを取り扱うとともに、学校現場において応用可能な食物の実験・実習を実施した。
 家庭コース以外の学生の受講もあったため、専門的内容の簡易化の工夫をした。
 授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 住生活学研究
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 金 貞均

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

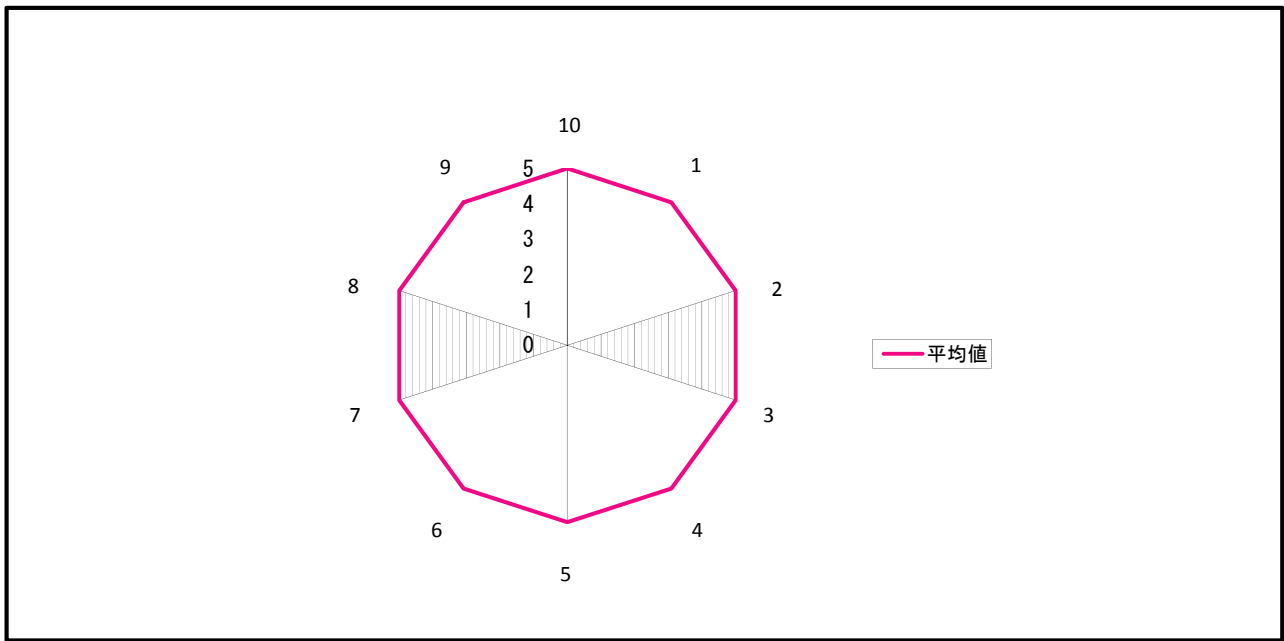
本授業について、各項目ごとの評価結果は上記のとおりで、ここでは自由記述欄の意見を紹介する。[2]この授業でよかったと思われる点について、「歴史的にたどるべき点を抑えたうえで、様々な先進的な取り組みやユニークな事例を知ったこと。実際に生徒の興味関心を引き出しつつ、知識が深まるような題材について知ることができたこと。」を挙げていた。[3]この授業で改善すべきと思われる点についての記述はなかった。[4]受講生の授業への取り組みについての質問(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」について⑤そう思うを選択した理由について、「教材の開発につながる内容がないか意識的にチェックしたこと。」と自己評価していた。実際受講生は問題意識をもって大変熱心に授業課題等に取り組んでいた。[5]その他の感想として、「指導に生かせることはもちろんだが、自分の住まいや住まいを取り巻く環境について考えさせられた。住まいを整えたり、よりよく住まう、安全に住まう、環境に配慮するといったことが、生活することや生き方そのものに深く関わっていることに改めて気付かされた。」と書かれていた。本授業では専門知識だけではなく、多くの実践教材を示し、学校現場での実践を想定した授業を意識して行っており、こうした取り組みが受講生の授業満足につながったと考える。

結果報告書

授業科目名 家庭科教育学研究
 評価実施日 平成28年7月14日
 担当教員名 速水 多佳子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

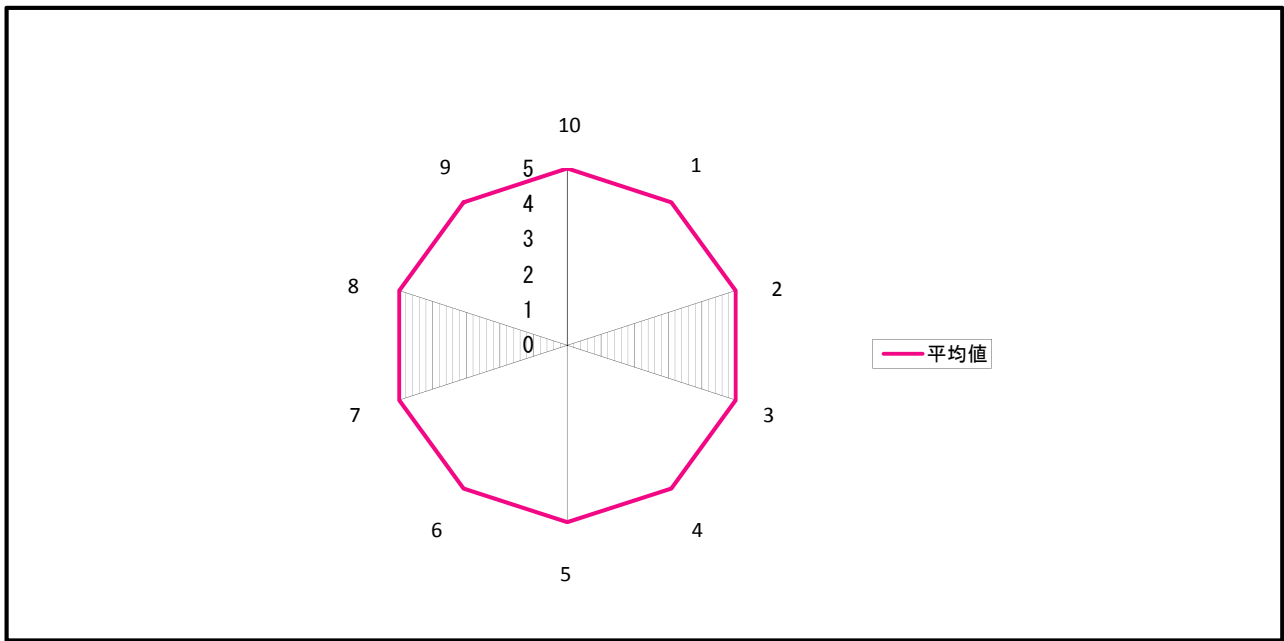
本授業の受講生3名は、教員志望の学生2名、現職教員1名であった。立場の異なる双方が満足できるように、またそれぞれの立場を生かせるように、意見交換の時間を十分にとるように心がけた。授業は家庭科教育のテキストを用いて、学生が順番に発表をしていく形をとった。実際の授業づくりにあたっての基礎的な内容から、具体的な指導方法などについても具体的に扱うことができた。授業評価アンケートのコメント欄には、「具体的に授業づくりの方法や内容が学べた」、「体系的に授業を組み立てていくことの大切さを実感し、実際に役立つことが多い」、「教育現場の話を様々な視点から教えてくれた」などと書かれており、また授業の総合評価が5.0であったことから、ニーズに応じた授業ができたと思う。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(家庭科)
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 坂本 有芳, 速水 多佳子, 黒川 衣代, 福井 典代, 西川 和孝, 松永 哲郎, 金 貞均

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

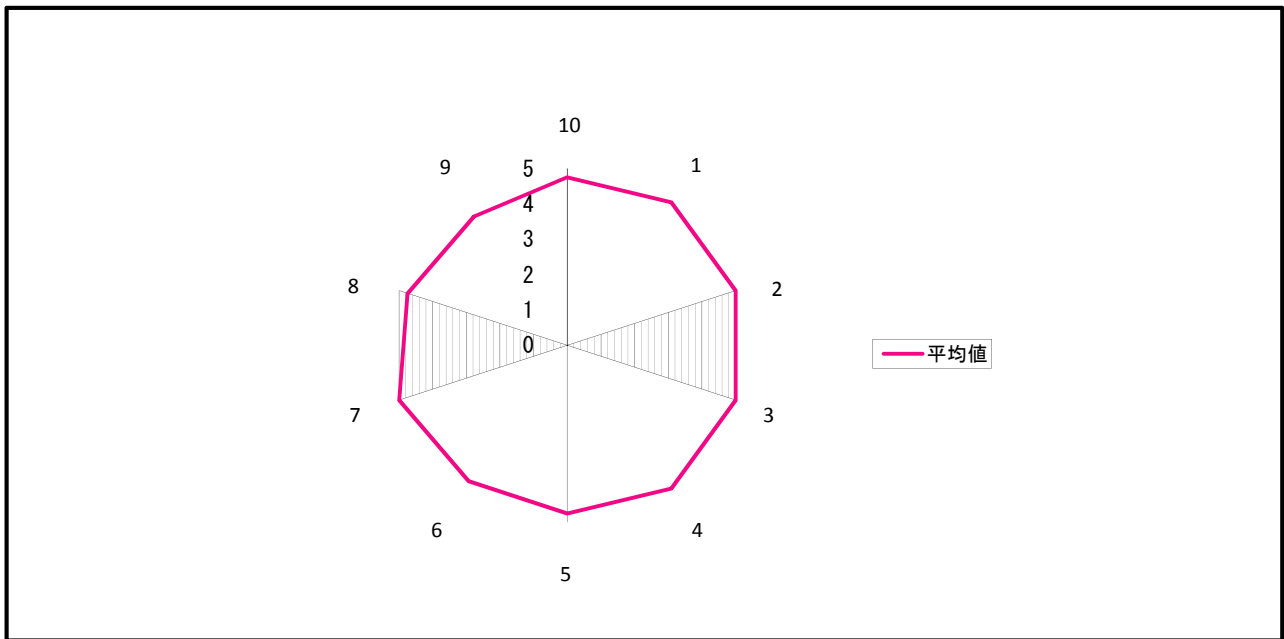
小学校、中学校、高等学校の家庭科の教科内容について、家庭科の基盤となる学問である家政学から考察すること、また教科内容についての理解を深めた上で、教育実践との関連を学ぶことを目的とした。1名と少人数の授業であり、適宜、質疑応答を入れながらの授業で内容に対する理解を深めながら進めることができた。授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 教育研究・調査
 評価実施日 平成28年7月29日
 担当教員名 石坂 広樹, 小澤 大成

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

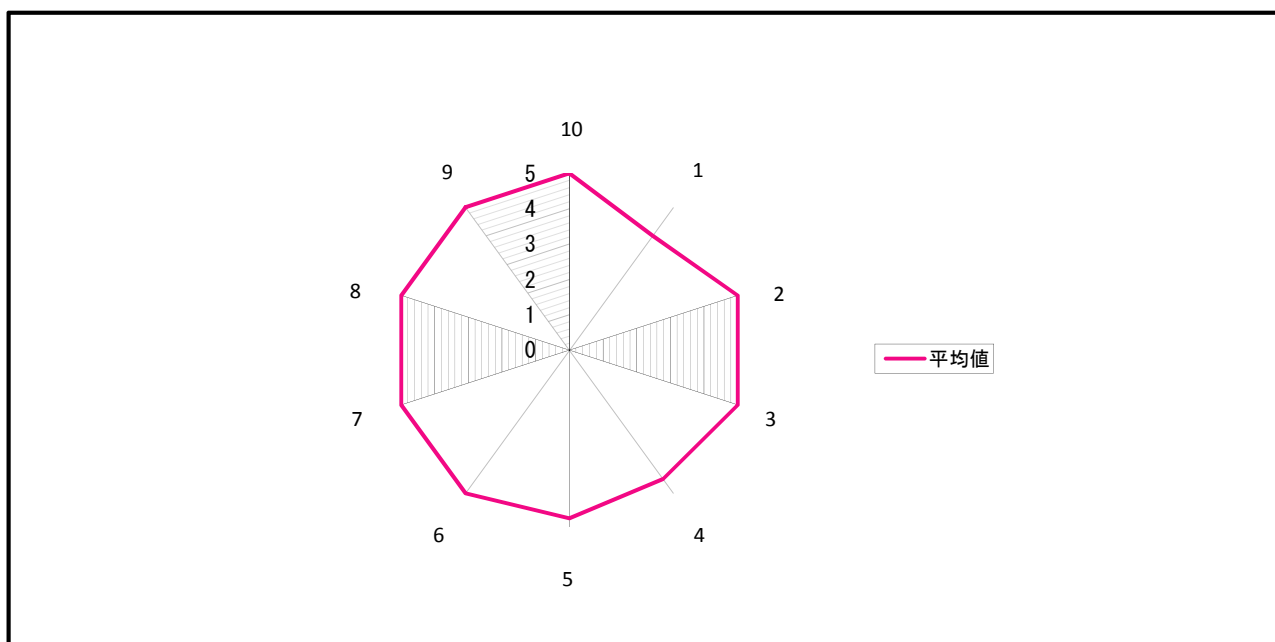
これまでどおり評価が高いところ、引き続き個別指導の時間をもちながら授業改善に取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名 国際教育協力研究
 評価実施日 平成28年9月15日
 担当教員名 石坂 広樹, 近森 憲助

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2		2			4.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1			4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



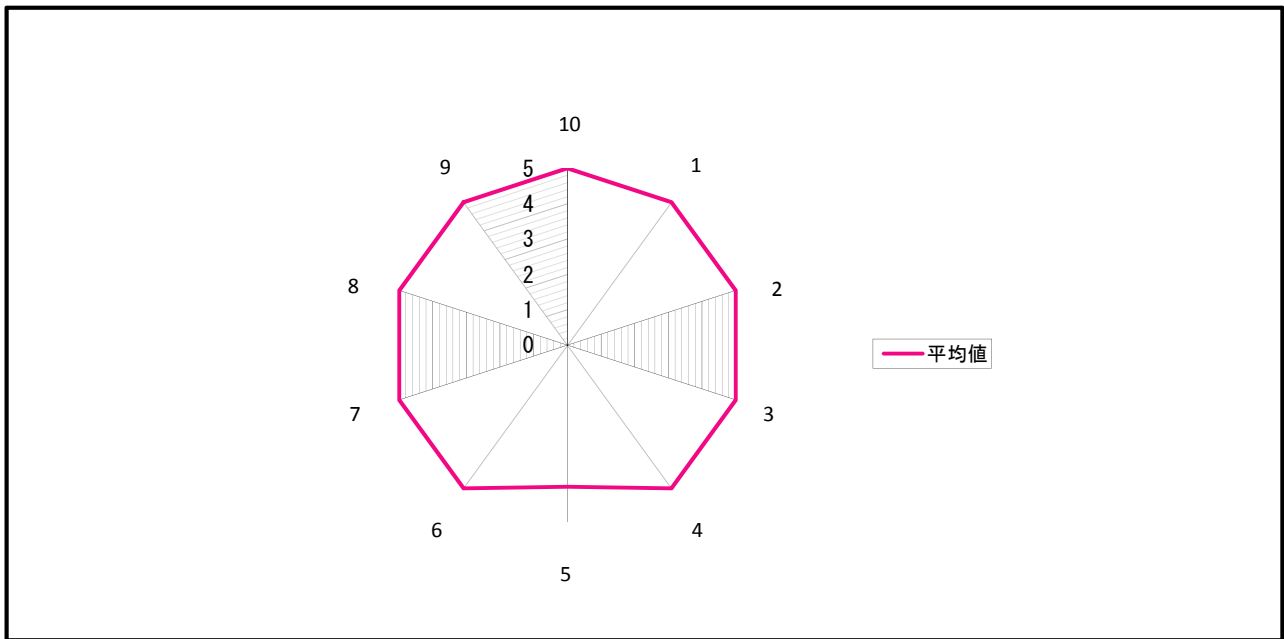
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 外国語運用能力強化演習 I
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 石村 雅雄, 石坂 広樹

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1		1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



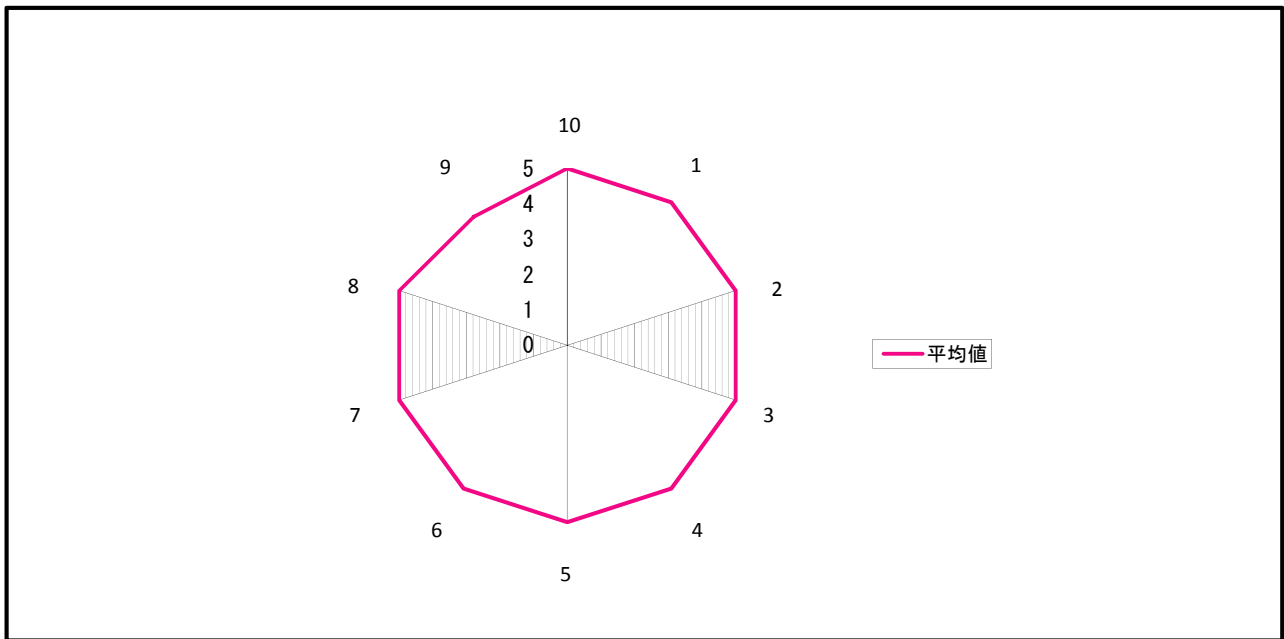
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論 I
 評価実施日 平成28年7月25日
 担当教員名 小澤 大成, 近森 憲助

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



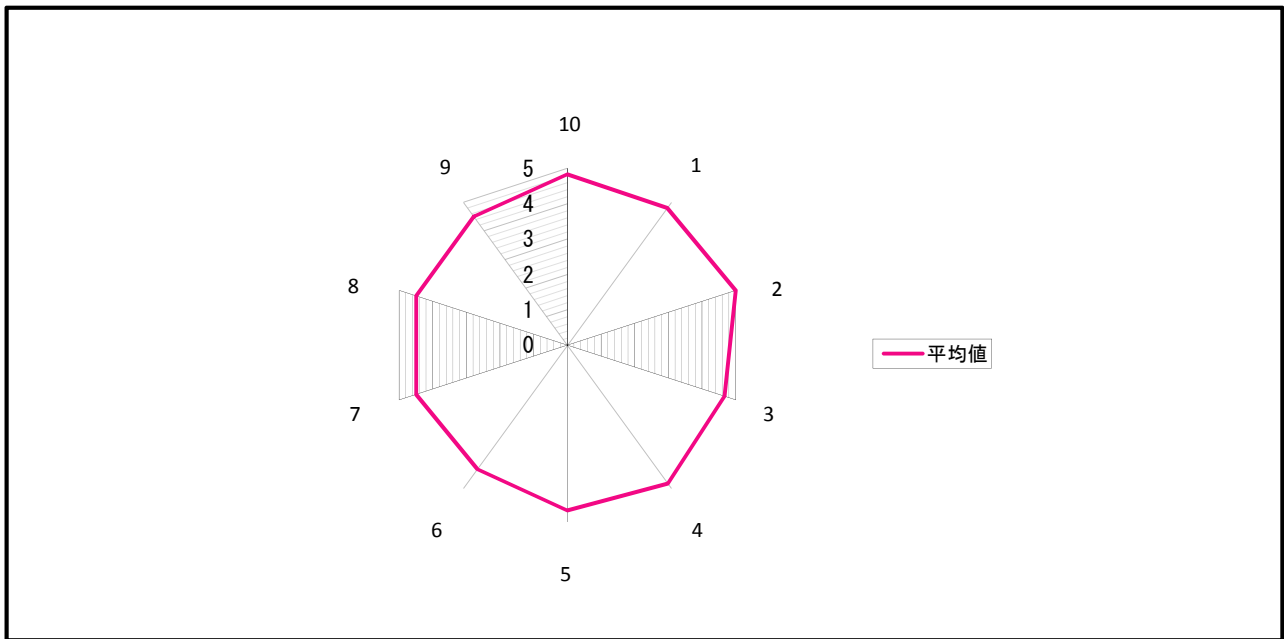
教員のコメント

総合評価は5.0であり、受講者は高い評価を与えている。良かった点として「国際理解教育についていろいろなことを学んだ」「国際理解教育について概念・方法・目的を理解しやすくなった」「受講者の状況を確認しながら内容を考えた」と受講者の状況を踏まえながら講義を展開したことが深い理解につながっていると考えられる。

結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナー I
 評価実施日 平成28年7月26日
 担当教員名 石村 雅雄, 近森 憲助, 小澤 大成, 石坂 広樹 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				1	4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5		1				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1					4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5		1				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4		2				4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	1				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント